

青森県埋蔵文化財調査報告書 第283集

# 三内丸山遺跡 XV

平成 11 年度

青森県教育委員会

青森県埋蔵文化財調査報告書 第283集

# 三内丸山遺跡 XV

—旧野球場建設予定地発掘調査報告書3—

平成 11 年度

青森県教育委員会

## 序

青森市に所在する三内丸山遺跡は、青森県総合運動公園拡張整備事業に係る新県営野球場建設に先立ち、平成4年度から県教育委員会が発掘調査を行ってまいりました。

調査の結果、本遺跡は縄文時代・平安時代・中世の複合遺跡であることが明らかになりました。特に多様な遺構、多種多量の出土遺物から縄文時代前期中葉から中期にかけて長期間継続して営まれた拠点的な集落であり、円筒土器文化を代表する大規模な集落跡であることが判明しました。平成6年には巨木を使った大型掘立柱建物跡が見つかり、青森県は遺跡の重要性を考慮し、保存・活用を決定しました。平成7年度からは短期整備を進めております。平成9年には国史跡となりました。

本書は調査成果の一部をまとめたものですが、今後三内丸山遺跡の解明、及び埋蔵文化財の保護と研究に役立てば幸いです。

最後に調査及び本書作成にご尽力いただいた関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成12年3月

青森県教育委員会

教育長 佐藤正昭

# 例 言

1. 本報告書は、平成4～6年度に実施した県営運動公園拡張事業に係る三内丸山遺跡の発掘調査のうち、縄文時代の竪穴住居跡に関する報告書である。本地区の縄文時代竪穴住居跡については平成5年度刊行の『三内丸山遺跡Ⅱ』、及び平成9年度刊行の『三内丸山遺跡Ⅲ』に一部報告済みである。

2. 本遺跡の遺跡番号は01021番である。

3. 本報告書の執筆者名は文末に付した。

4. 本遺跡の遺構番号については種類ごとに通し番号を付してある。

5. 挿図の縮尺は、各図毎に示している。

6. 記載にあたっては、土器—P-1、P-2、石器—S-1、S-2、土偶・土製品・石製品等—C-1、C-2、柱穴—P<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>、炭化物—C1、C2の略号を用いた。

7. 竪穴住居跡の規模については、原則として4壁の中間点を計測箇所とし、対峙する2壁の各中間点を結ぶ長さを平均壁長とした。長軸方向は短辺の中間点を結ぶ軸線とした。床面積は壁の下端で囲まれた範囲（掘り方面積）をプランメーターを使用して計測し、3回の計測による平均値を用いた。

8. 資料の鑑定及び同定については、次の方に依頼した。

石器・石製品の石材の種類鑑定……………青森県環境生活部県史編さん室 山口 義伸

9. 遺構・遺物の文・図中での表現は原則として次の様式・基準に従った。

(1) 遺構番号は一部を除いて発掘調査時のものを用いている。

(2) 遺構内外の堆積土の注記は、「新版標準土色帖」(小山・竹原 1987)を用いた。

(3) 原則として遺物には観察表・計測表を付し、出土地点、法量及び諸特徴を一覧できるようにした。

(4) 縄文原体の観察は、山内清男「日本先史土器の縄紋」(1979 先史考古学会)を参考にし、記述はそれに従った。観察表中での表記は以下のように省略した。

結節回転文—結回、単軸絡条体○類—単絡○、多軸絡条体—多軸絡

また、原体の回転文の場合、その種類だけを記し、押圧の場合は原体の種類の上に「押」を記した。貼付隆帯の上面に文様が施文されたものは、括弧書きした。

(5) 石質の略称は以下とする。

玉—玉髓、頁—頁岩、珪頁—珪質頁岩、玉珪—玉髓質珪質頁岩、黒—黒曜石、鉄—鉄石英、凝—凝灰石、安—安山岩、流—流紋岩、緑細凝—緑色細粒凝灰岩、閃—閃緑岩

(6) 図中で使用したスクリーン・トーン及び土器・石器の分類基準は「三内丸山遺跡Ⅲ」に示した



とおりである。

10. 発掘調査における出土遺物・実測図・写真等は、県教育庁文化課三内丸山遺跡対策室で保管している。
11. 本報告書は、これ以前の本遺跡に関する全ての資料、報文等に優先するものである。

# 目 次

序

例 言

目 次

第IV章 縄文時代の検出遺構と出土遺物..... 1

第1節 竪穴住居跡..... 1

第301号住居跡 (1図～3図)

〔位置と確認〕 VM-120・121に位置する。第Ⅲ層掘り中に、黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第671・711号土坑と重複し、第671号土坑より古く、第711号土坑より新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は不整形を呈する。規模は長軸4m25cm、短軸3m60cm、床面積は11.83m<sup>2</sup>である。長軸方向は南北である。

〔壁・床面〕 第Ⅵ層を掘り込んで壁・床としている。壁高は最大で26cm残存する。床面は軟弱で、凹凸がある。

〔壁溝〕 西側及び北東で確認された。8～15cmの幅で、深さ約4cmである。

〔柱穴〕 ビットを4個確認した。深さはそれぞれP<sub>1</sub>…43cm、P<sub>2</sub>…16cm、P<sub>3</sub>…30cm、P<sub>4</sub>…33cmである。平面上は方形に配置されるが、径・断面形等にばらつきが多く、主柱穴とは判断できなかった。

〔炉〕 中央部のビット状の掘り込みが炉(周堤炉)と考えられるが、焼土・炭化物は確認できなかった。

〔その他の施設〕 北側にビットを持つ張り出し施設を確認した。

〔堆積土〕 黒褐色土主体の堆積で、9層に分層した。自然堆積と考えられる。南西から始まり、北東にかけて順々に堆積したようである。

〔出土遺物〕 第9層から第Ⅲ群4・5類、その他の堆積土から第Ⅲ群4類を主体とする土器、ミニチュア土器、スクレイパー類、石皿・台石類などが出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から、縄文時代中期中葉(円筒上層d式期)に近い時期と思われる。

(秦 光次郎)

第302号住居跡 (4図)

〔位置と確認〕 ME・F-115・116に位置する。第Ⅲ層精査中に地床炉と貼り床の検出により確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 残存部分が少ないため、全体形は不明である。

〔壁・床面〕 床面はほぼ平坦であり、貼り床によって構築される。

〔柱穴〕 検出されなかった。

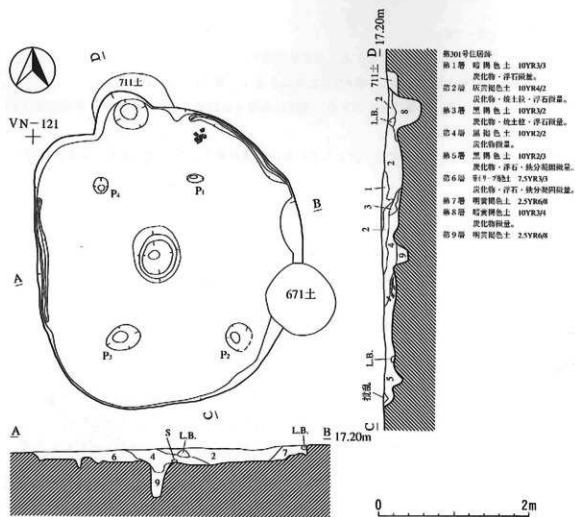
〔炉〕 地床炉を検出した。残存範囲は一部のみであり、規模等は不明である。

〔堆積土〕 不明である。

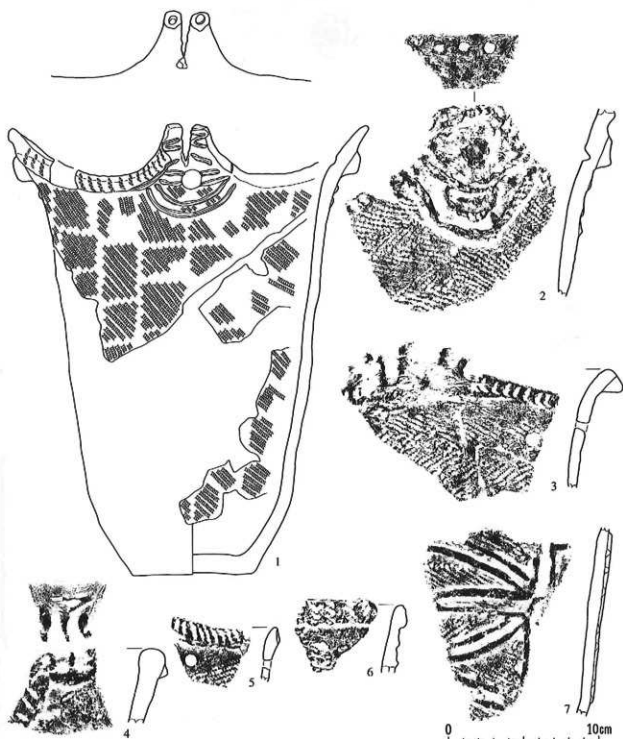
〔出土遺物〕 床面から黒く焦げた軽石(S-1)が1点、堆積土から土偶が出土した。

〔時期〕 検出状況から縄文時代である。

(斎藤 岳)

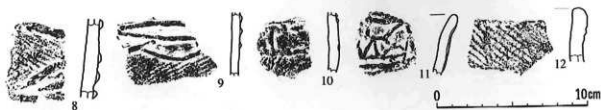


1图 第301号住居跡

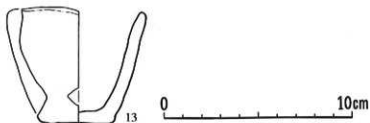


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面文様	底面	分類	備考
			口襟部	胴部上半	胴部下半				
1	301住	9	貼付、RI押	RI	RI	ナデ	Ⅲ-4・5		
2	〃	壇積上	R押、貼付(縄文押)	結東那一様(LR, RI)		ミガキ	〃	内面に3つの窟孔	
3	〃	〃	貼付、L押	〃 ( 〃 )		〃	〃	補修孔	
4	〃	〃	〃、LR押			〃	〃	貼付剥落有	
5	〃	〃	LR押	LR		〃	〃	補修孔	
6	〃	〃	RI押	貼付		〃	Ⅲ-4	貼付剥落有	
7	〃	〃		結東那一様、貼付		〃	〃		

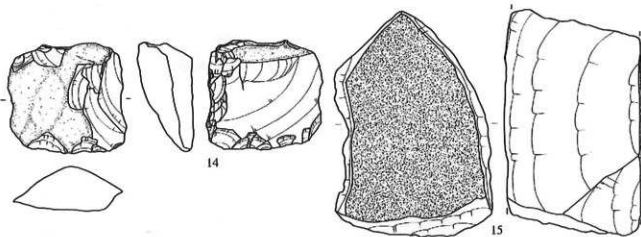
2図 第301号住居跡出土遺物 (1)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
8	301住	堆積土		RL、貼付		ミガキ		Ⅲ-4	
9	*	*		LR、*		*		*	
10	*	*	貼付			*		*	
11	*	*		貼付、LR?		*		*	
12	*	*	RL			*		Ⅲ-6	

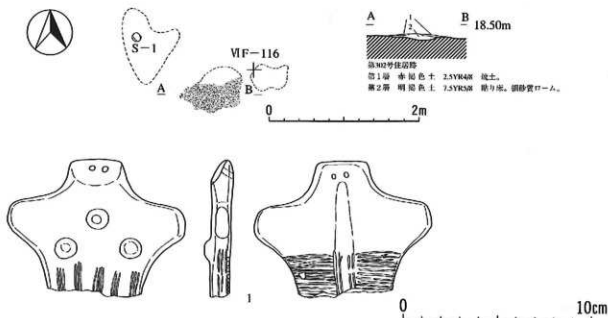


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
13	301住	埋積土	無文		無文	ミガキ		Ⅲニチュウア	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	材質	分類	備考	発掘番号
14	301住	堆積土	43	46	21	42.9	珪質	Ga		40360
15	*	*	(179)	(124)	(10R)	(3558.0)	安	L	裏面6磨面	43694

3図 第301号住居跡出土遺物 (2)



番号	出土地点	層位	計測値 (cm)			文様		種類	備考
			長さ	幅	厚さ	表面	裏面		
1	302住	堆積土	(7.2)	(9.4)	(1.4)	黒褐色、赤褐色、黒	紅褐色、黒、黒	土器・器	第302号の住居跡

4図 第302号住居跡・出土遺物

#### 第303号住居跡 (5図～7図)

〔位置と確認〕 VI・J-110・111に位置する。第Ⅲ層上面で黒褐色土上の不整楕円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第119号溝跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は東西に長軸のある不整楕円形である。規模は長軸3m58cm、短軸3m26cmで、床面積8.56㎡である。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁16cm、西壁19cm、南壁25cm、北壁9cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱穴〕 床面上に1個確認された。ピットの深さは、P<sub>1</sub>…20cmである。

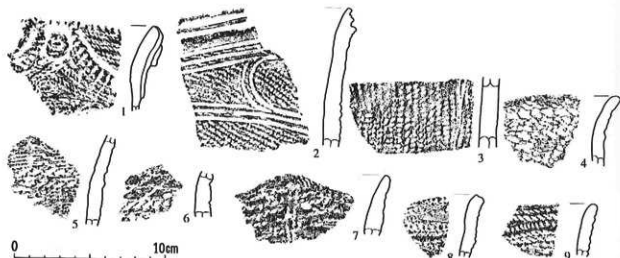
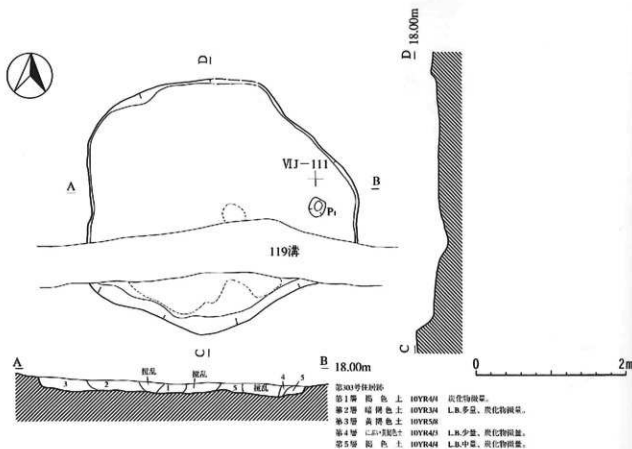
〔灰〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 5層に分層した。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅱ群5類、第Ⅲ群8・11類土器、堆積土から第Ⅱ群5類を主体とする土器、スクレイパー類、Uフレイクなどが出土した。

〔時期〕 床面直上の出土遺物から縄文時代中期後葉（複林式期）である。

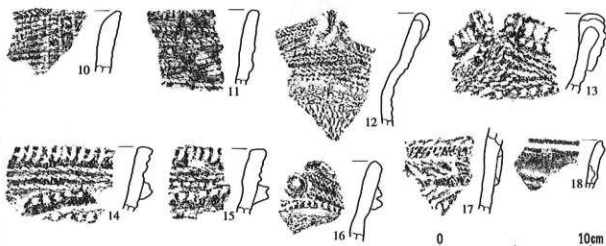
(斎藤 岳)



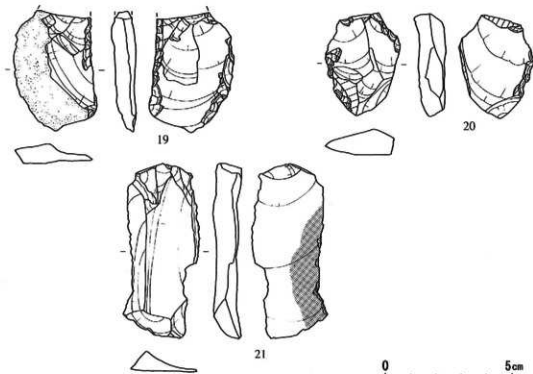
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	303住	床直	貼付(L押)、L押			ミ方キ		II-5-2	
2	*	*	凹状沈線(2条)	RL、沈線		*		III-8	
3	*	*		*, *				III-11	
4	*	堆積土	LR、LR押			ミ方キ		II-2	
5	*	*	R半筋6A、R1R押	R1R?		*		II-3	
6	*	*	早繰5、RL押			*		*	
7	*	*	R押			*		II-5-1	
8	*	*	*, 捺面?	刻み、LR押		*		*	
9	*	*	LR押、刻み			*		*	

5図 第303号住居跡・出土遺物(1)



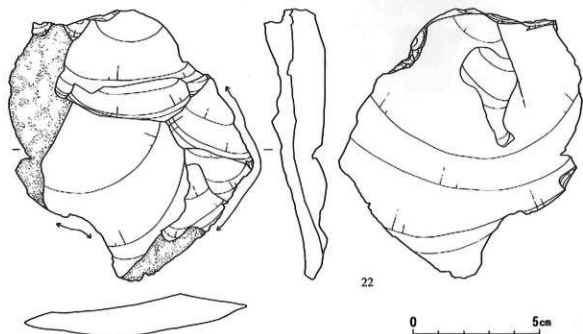


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面簡略	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
10	303住	堆積土	R単純1押			ミ方キ		II-5-1	
11	*	*	LR押			*		II-5-2	
12	*	*	貼付、R・LR押	L単純1、結回		*			
13	*	*	貼付(斜突)、LR押	斜突		*			口唇上面削み
14	*	*	*	*		*			*
15	*	*	*	*		*			*
16	*	*	* (依押)、LR-R押	斜突、R1?		*			*
17	*	*		斜突群一様、尾付(依押)		*			III-4
18	*	*	貼付			*			*



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
19	303住	堆積土	(47)	34	10	(14.7)	鉄	Ga		45477
20	*	*	41	30	13	14.0	珪質	*		45478
21	*	*	69	30	11	19.9	*	Gc		45473

6図 第303号住居跡出土遺物(2)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
22	303住	堆積土	108	97	24	137.8	土質	Gc			45474

7図 第303号住居跡出土遺物 (3)

第304号住居跡 (8図)

〔位置と確認〕 VI L-115に位置する。南盛土精査中に土器埋設炉及び貼り床の検出により確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 床面はほぼ平坦であり、南盛土中に貼り床により構築される。

〔柱穴〕 検出されなかった。

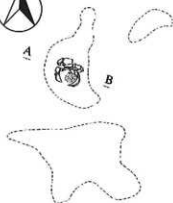
〔炉〕 土器埋設炉を検出した。掘り方の規模は直径41cm、深さ26cmである。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群3類である。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期中葉 (円筒上層c式期) である。

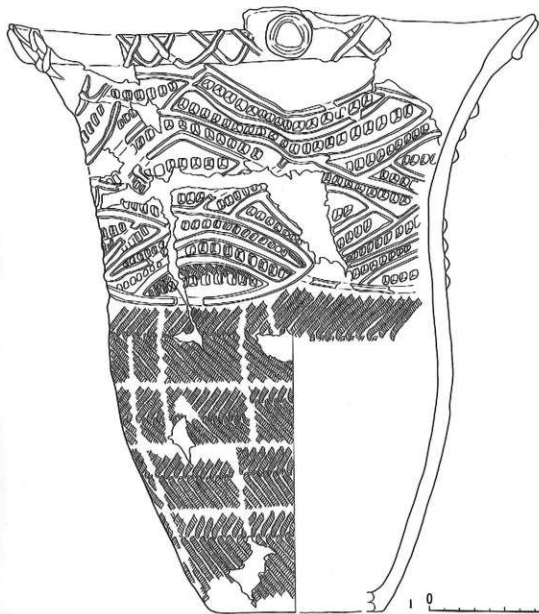
(斎藤 岳)

VL-115  
+



第304号住居跡 印  
 第1層 紅土・黄褐色土 10YR4/3 炭化物・焼土少量。  
 第2層 黄 色 土 10YR6/4 上面に穴状跡。炭化物少量、焼土微量。  
 第3層 紅土・黄褐色土 10YR4/3 L.R.少量。  
 第4層 黄 褐色 土 10YR5/6 焼り跡。炭化物少量、焼土微量。

0 2m



0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面文様	底面	分類	備 考
			1:柱部	胴部上半	胴部下半				
1	304住居		貼付、刺突	貼付、刺突	基束第一層(L.R., RI.)	十字		Ⅲ-3	

8图 第304号住居跡・出土遺物

第305号住居跡 (9図～10図)

〔位置と確認〕 VI E・F-109・110に位置する。第Ⅲ層上面でよい黄褐色土の半円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第9711・9712号ピットと重複し、本住居跡が新しい。北側は削平を受けている。

〔平面形・規模〕 平面形は円形あるいは楕円形と考えられる。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁14cm、西壁13cm、南壁23cmである。床面はほぼ平坦であり、貼り床がみられる。

〔柱穴〕 検出されなかった。

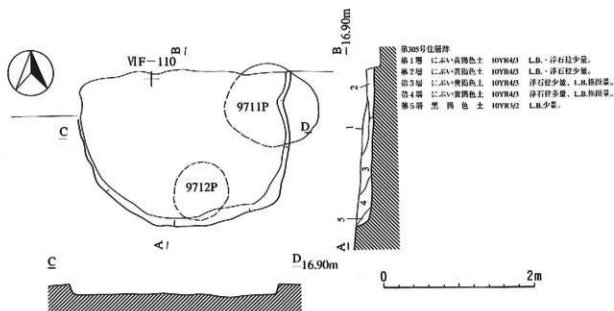
〔炉〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 5層に分層した。人為堆積と考えられる。

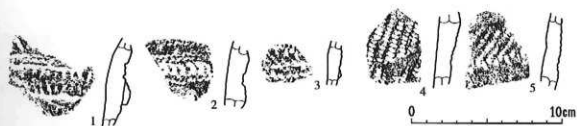
〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅲ群I・4・6類上器が、堆積土からR.フレイク、U.フレイクなどが出土した。

〔時期〕 床面直上の出土遺物から縄文時代中期中葉である。

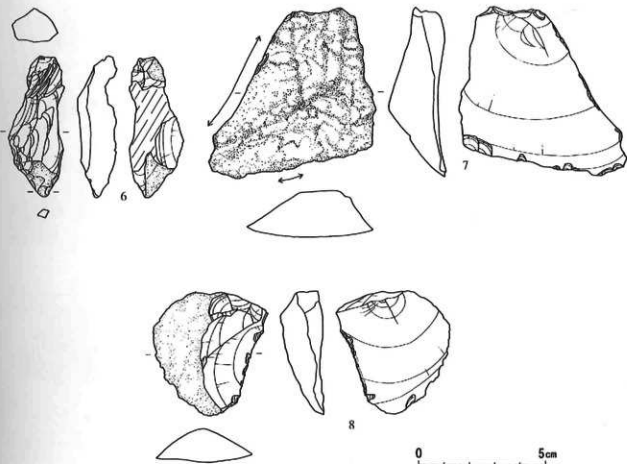
(斎藤 岳)



9図 第305号住居跡



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	305住	床直	貼付(L押)、L押			四方	Ⅲ-1		
2	*	*	R押			*	*		
3	*	*		RL? 貼付		*	Ⅲ-4		
4	*	*		LR		*	Ⅲ-6		
5	*	*		粘着部一種(LR, RL)		*	*		



番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
6	305住	埋備土	56	22	15	13.6	珪質	Gb		45492
7	*	*	67	22	22	68.4	*	Gc		45491
8	*	*	49	45	17	27.3	*	*		45488

10図 第305号住居跡出土遺物

第306号住居跡 (11図)

〔位置と確認〕 VI L-114に位置する。南盛土精査中、炉と貼り床の検出により確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 南盛土中に貼り床により構築される。

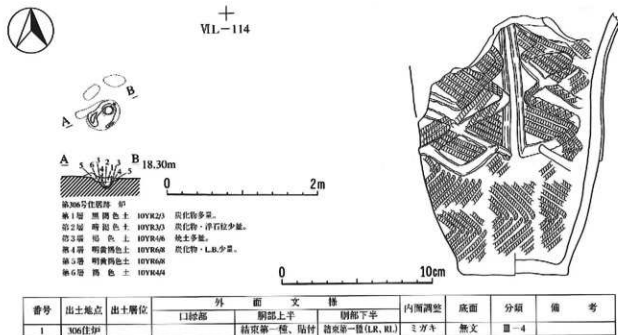
〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 土器埋設炉を検出した。掘り方の規模は41cm×36cm、深さ15cmである。埋設炉内に炭化物層はあるが、火焼面は確認できなかった。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群4類である。

〔時期〕 かに使用された土器から縄文時代中期中葉 (円筒上層d式期) である。

(高藤 岳)



11図 第306号住居跡・出土遺物

第307号住居跡 (12図～13図)

〔位置と確認〕 VI J・K-111に位置する。第I層除去後、第Ⅲ層上面で暗褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 削平を受けており、平面形は不明である。残存部分は長軸2m70cm、短軸1m88cmである。

〔壁・床面〕 床面はほぼ平坦である。

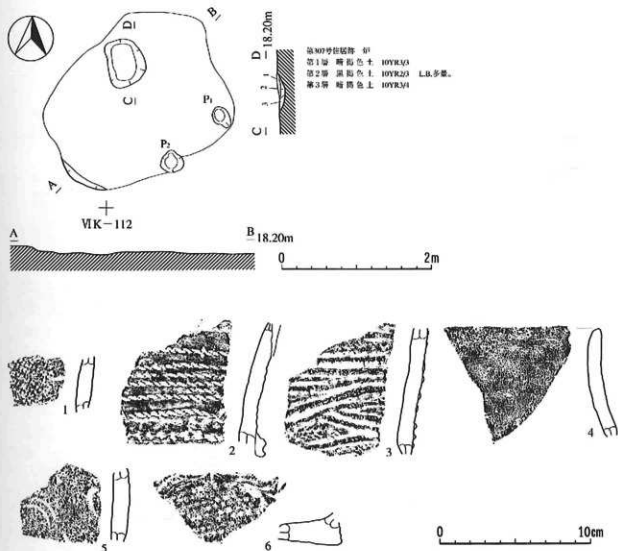
〔柱穴〕 床面上に2個確認された。それぞれのピットの深さは、P<sub>1</sub>…27cm、P<sub>2</sub>…29cmである。

〔炉〕 地床炉を検出したが火焼面は確認できなかった。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅲ群土器、堆積土から第Ⅱ群5類、第Ⅲ群4、9、8・9、11類土器、石匙などが出土した。

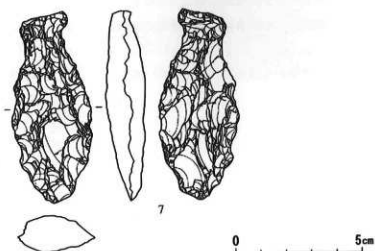
〔時期〕 堆積土出土遺物から縄文時代中期後葉（最花式期）に近い時期である。

（斎藤 岳）



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	307住	底底		R1.		ミガキ		Ⅲ	
2	〃	堆積土	LR押、貼付(刺突)					Ⅱ-5-2	
3	〃	〃		結束第一種? 貼付				Ⅲ-4	
4	〃	〃	無文					Ⅲ-9	
5	〃	〃		沈線				Ⅲ-8・9	
6	〃	〃					網代表	Ⅲ-11	

12図 第307号住居跡・出土遺物(1)



採取番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
7	307住	堆積上	76	30	16	35.1	珪石	Ca			50183

13図 第307号住居跡出土遺物 (2)

第308号住居跡 (14図～15図)

〔位置と確認〕 VI K-111・112に位置する。第Ⅲ層精査中に褐色土の円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある不整形である。規模は長軸3 m90cm、短軸3 m80cmで、床面積は10.83㎡である。

〔壁・床面〕 各壁ともにほぼ垂直に立ち上がる。壁高は東壁7cm、西壁19cm、南壁25cm、北壁12cmである。床面はほぼ平坦であり、貼り床がみられる。

〔柱穴〕 床面上に12個確認された。それぞれのピットの深さは、P<sub>1</sub>…30cm、P<sub>2</sub>…16cm、P<sub>3</sub>…20cm、P<sub>4</sub>…16cm、P<sub>5</sub>…29cm、P<sub>6</sub>…17cm、P<sub>7</sub>…6cm、P<sub>8</sub>…11cm、P<sub>9</sub>…12cm、P<sub>10</sub>…9cm、P<sub>11</sub>…11cm、P<sub>12</sub>…10cmである。

〔炉〕 検出されなかった。

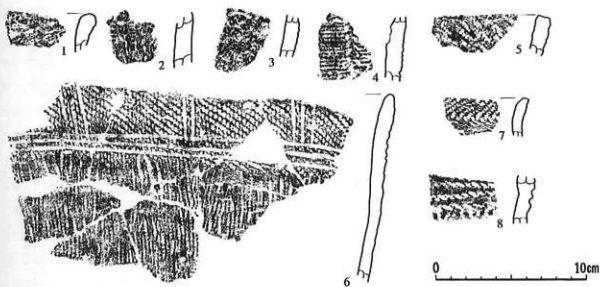
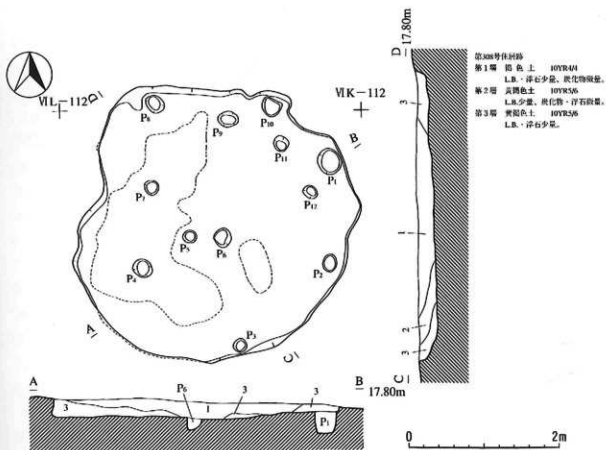
〔堆積土〕 3層に分層した。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅱ群土器、堆積上から第Ⅱ群3～5類、第Ⅲ群Ⅰ類土器、石鏃、石匙、スクレイパー類などが出土した。

〔時期〕 床面直上・堆積土出土遺物から縄文時代前期後半である。

(斎藤 岳)



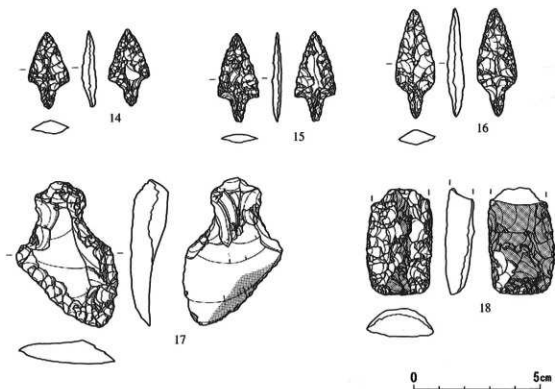


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	308住	床直	不明					Ⅱ-6	横溝掘入
2	*	*		L単給1				*	*
3	*	*		無文		3方弁		*	*
4	*	壇積上	R単給6			+		Ⅱ-3	
5	*	*	LR			+		Ⅱ-3・4	
6	*	*	RL、単給1押	RRL		+		*	*
7	*	*	結束第一段(LR, RL)			+		*	*
8	*	*	LR押、割突			+		Ⅱ-5-1	

14図 第308号住居跡・出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
9	308住	堆積上	LR押、刺突			ミガキ	II-5-2	口唇上面削み	
10	*	*	LR押			*	*		
11	*	*	不明			*	II-6		
12	*	*	無文			*	III-11		
13	*	*		RL、沈線		*	*		



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
14	308住	堆積上	30	16	6	1.7	珪石	Ab		50168
15	*	*	36	17	3	1.7	*	Aa		50153
16	*	*	43	16	7	2.8	*	Ab		50119
17	*	*	58	40	15	19.6	*	Cc		50179
18	*	*	(42)	(26)	(12)	(14.0)	*	Ga	石筥・石匙破片?	51864

15図 第308号住居跡出土遺物 (2)

第309号住居跡 (16図)

〔位置と確認〕 V H・I-110・111に位置する。第312号住居跡を精査中に床面の一部検出により確認した。

〔重複〕 第312号住居跡と重複し、本住居が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は円形あるいは楕円形と考えられるが規模は不明である。

〔壁・床面〕 削平により壁や床面の一部を欠失している。壁は直線的に外傾しながら立ち上がり、壁高は東壁24cm、西壁6cmである。床面はほぼ平坦であり、炉の周辺には貼り床がみられる。

〔柱穴〕 床面上に6個確認された。それぞれのピットの深さは、P<sub>1</sub>…16cm、P<sub>2</sub>…15cm、P<sub>3</sub>…12cm、P<sub>4</sub>…48cm、P<sub>5</sub>…32cm、P<sub>6</sub>…35cmである。

〔炉〕 土器片敷炉を検出した。掘り方の規模は58cm×50cm、深さ13cmである。また、炉の北側の床面に炭化物が検出された。

〔堆積土〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 炉から第Ⅲ群5、9類土器が、堆積土から土製垂飾が出土した。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期後葉（最花式期）である。

(斎藤 岳)

第310号住居跡 (17図～20図)

〔位置と確認〕 V L・M-127・128に位置する。第Ⅵ層上面で黒褐色土の円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は東西に長軸のある楕円形と考えられる。残存規模は長軸4m10cm、短軸4mで、床面積は10.73m<sup>2</sup>である。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁10cm、南壁14cm、北壁9cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

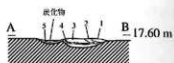
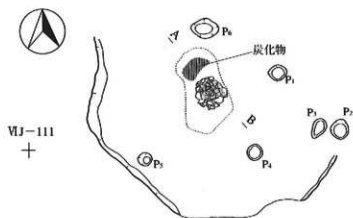
〔炉〕 壁寄りで見られるところから周堤炉を検出した。

〔堆積土〕 3層に分層した。自然堆積と考えられる。

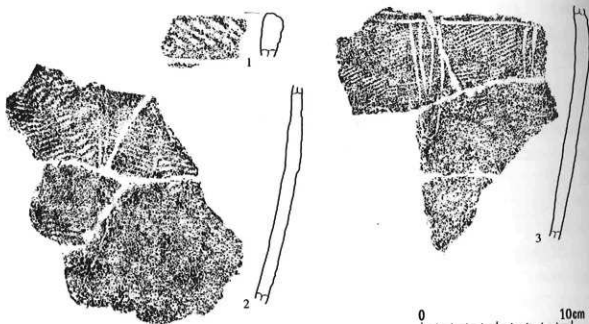
〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅲ群4、5類土器、石核、石皿・台石類などが、堆積土から第Ⅲ群4類を主体とする土器、ミニチュア土器、石製品が出土した。

〔時期〕 床面直上及び堆積土出土遺物から縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）に近い時期と考えられる。

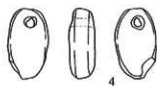
(小笠原 雅行)



第309号住居跡 計  
 第1層 灰褐色土 10YR2/3 L.R.少量。  
 第2層 紅褐色土 10YR3/4 L.R.少量、焼土同量。  
 第3層 赤褐色土 2.5YR4/6 硬土、炭化物少量。  
 第4層 紅褐色土 7.5YR5/3 炭化物同量。  
 第5層 黒褐色土 7.5YR3/1 炭化物同量。

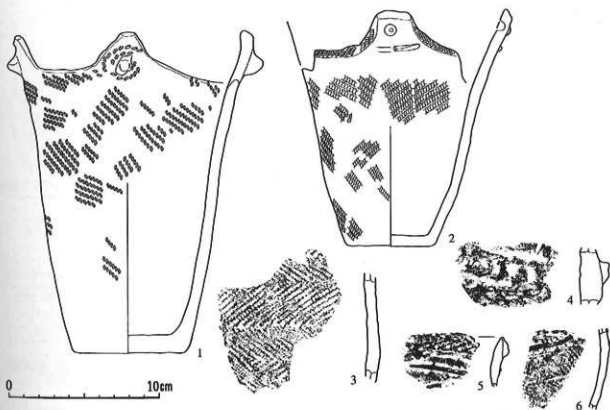
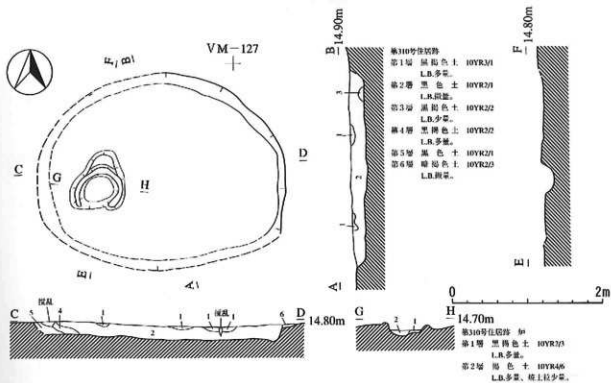


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分譲	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	309住跡		RL7、沈線					Ⅲ-5	
2	*			LR7、沈線		ミ方キ		Ⅲ-9	
3	*			LR、*		*		*	



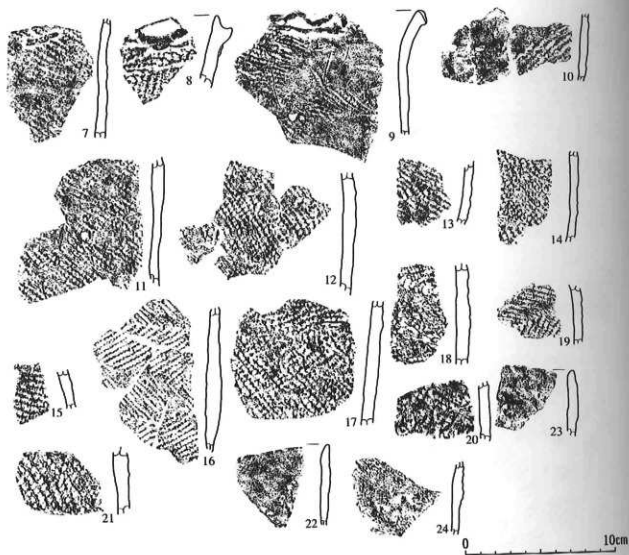
番号	出土地点	出土層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	種 類	登録番号
4	309住	堆積上	38	23	14	12	香筒	1602

16図 第309号住居跡・出土遺物



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	310住	堆積土	貼付、R押	LR、RL?	RL?	ミ方キ	無文	Ⅱ-4・5	
2	*	*	*, L.R.押	RLR	RLR	*	*	*	胴部結束第一種?
3	*	床面		粘土帯一帯(LR、RL)		*	*	*	
4	*	堆積土		粘粉(黒彩剥落)、RLR		*	*	*	Ⅱ-3
5	*	*	口唇RL押、RL、貼付			*	*	*	Ⅲ-4
6	*	*		RL、貼付		*	*	*	

17图 第310号住居跡・出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
7	310住	堆積土		RL, 貼付		ミガキ		Ⅲ-4	
8	*	*	貼付, LR			*	*	Ⅲ-4・5	
9	*	*	*, RL			*	*	*	10・11同一個体
10	*	*		LR		*	*	*	
11	*	*		RL		*	*	*	
12	*	*		*		*	*	*	
13	*	*		*		*	*	*	
14	*	*		*		*	*	*	
15	*	*		*		*	*	*	
16	*	*		莖葉帯一様(LR, RL)		*	*	*	
17	*	*		*		*	*	*	
18	*	*		*		*	*	*	
19	*	*		*		*	*	*	
20	*	*		*		*	*	*	
21	*	*		*		*	*	*	
22	*	*	無文			*	*	*	22・23同一個体
23	*	*	*			*	*	*	
24	*	*		無文?		*	*	*	

18図 第310号住居跡出土遺物(2)



25



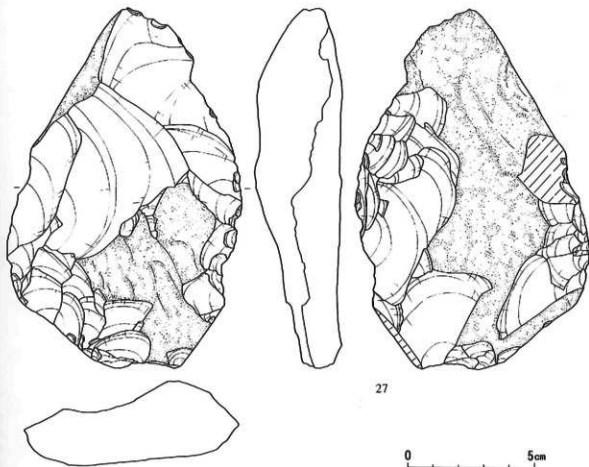
26

0

10cm

番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面四角	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
25	310住	堆積土			無文		無文	ミニチュア	漆鉢形

番号	出土地点	出土層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	材質	種	類	整理番号
26	310住	堆積土	30	52	20	10	凝	石製品		3752



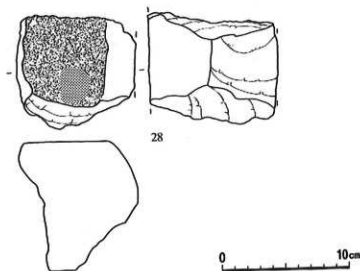
27

0

5cm

図版番号	出土地点	層位	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	材質	分類	備 考	整理番号
27	310住	床底	143	93	35	377.4	珪頁	Pa	S-2	45505

19図 第310号住居跡出土遺物(3)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	発掘番号
28	310住	床直	(90)	(94)	(102)	(1041.9)	安	L	S-1	46296

20図 第310号住居跡出土遺物 (4)

第311号住居跡 (21図)

〔位置と確認〕 VC・D-114・115に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の円形の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は東西に長軸のある不整形円形である。規模は長軸4m10cm、短軸4mで、床面積は10.73㎡である。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁10cm、西壁13cm、南壁14cm、北壁9cmである。床面はほぼ平坦であり、炉の周辺には貼り床がみられる。

〔柱穴〕 床面上に4個確認された。それぞれのピットの深さはP<sub>1</sub>…32cm、P<sub>2</sub>…11cm、P<sub>3</sub>…8cm、P<sub>4</sub>…21cmである。

〔炉〕 床面中央に地床炉を検出した。掘り方の規模は102cm×88cm、深さ17cmである。

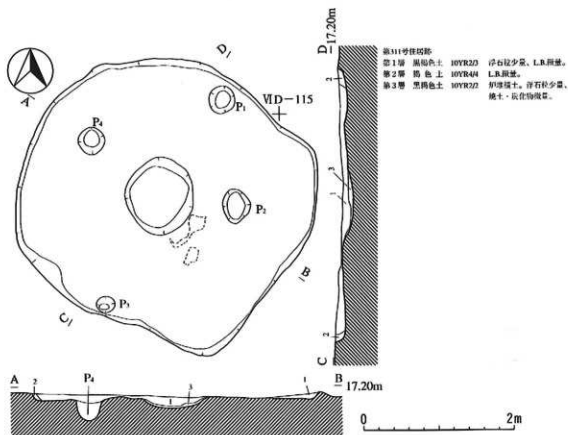
〔堆積土〕 3層に分層した。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 検出状況から縄文時代前期と考えられる。

(斎藤 岳)





21図 第311号住居跡

第312号住居跡 (22図～23図)

〔位置と確認〕 VIH・I-110・111に位置する。第Ⅲ層精査中に炉と貼り床面を確認した。

〔重複〕 第309号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は不明である。

〔壁・床面〕 削平により壁は確認できなかった。第309号住居跡床面をわずかに削りこみ、貼り床により床面を構築している。

〔柱穴〕 床面上に7個確認された。それぞれのピットの深さは、P<sub>1</sub>…19cm、P<sub>2</sub>…17cm、P<sub>3</sub>…18cm、P<sub>4</sub>…26cm、P<sub>5</sub>…30cm、P<sub>6</sub>…19cm、P<sub>7</sub>…17cmである。

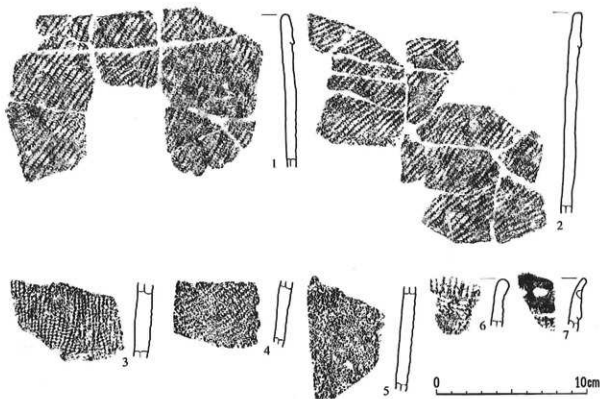
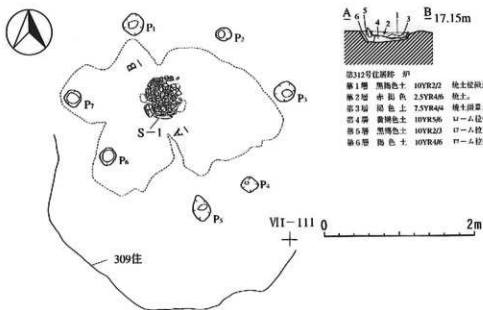
〔炉〕 石囲土器片敷炉を検出した。掘り方の規模は76cm×70cm、深さ14cmである。南側には炉石と炉石の抜けた穴が確認できる。また炉石の一部は石皿・台石類を転用したものである。

〔堆積土〕 確認できなかった。

〔出土遺物〕 炉に使用された土器は第Ⅲ群11類である。

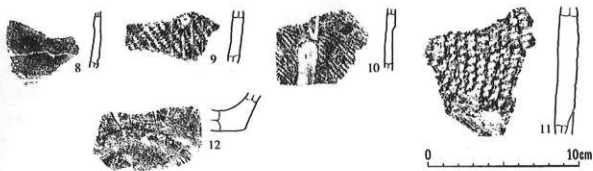
〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期後～末葉（最花～大木10式併行期）である。

(高藤 岳)

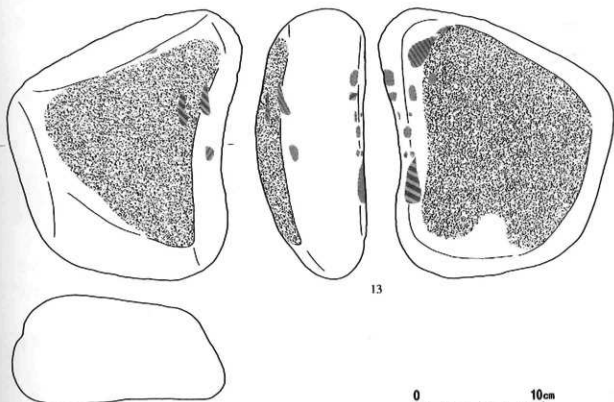


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様		内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部				
1	312住炉		折返口縁、LR	胴部上半	ミガキ		III-11	
2	*		*				*	
3	*			RL?			*	
4	*			LR			*	
5	*			縄文			*	
6	*	堆積土	LR押				III-1	
7	*	*	折返口縁、刺突	RLR?			*	III-9

22図 第312号住居跡・出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
8	312住跡	埋積土	無文帯、沈線			ミガキ		Ⅱ-9	
9	*	*		RI、円形刺突、沈線		*		*	
10	*	*		RI、沈線		*		*	
11	*	*		RLR		*		Ⅱ-11	
12	*	*			無文	*	無文	*	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
13	312住跡		214	187	88	4516.3	安	L	黒色付着物、S-I	46298

23図 第312号住居跡出土遺物 (2)

第313号住居跡 (24図～35図)

〔位置と確認〕 VI A・B-87・88に位置する。第V層で、暗褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 楕円形を呈する。長軸 4 m17cm、短軸 3 m31cm、床面積は10.7m<sup>2</sup>である。長軸方向は北西—南東である。

〔壁・床面〕 北西・南西・南東壁は、ほぼ垂直に立ち上がっており、壁高は各38cm、39cm、14cmである。第Ⅵ層を床面とし、比較的堅緻である。北東壁は風倒木痕と重複し、さらに谷に向かって東方に傾斜する地形に立地するため、遺存状況は悪かった。

〔柱穴〕 19個検出した。主柱穴はP<sub>1</sub>とP<sub>2</sub>で、P<sub>3</sub>～P<sub>10</sub>は壁柱穴と考えられる。北東辺には、壁柱穴が検出されなかった。壁の遺存状況が悪かったためとも考えられるが、出入口施設があった可能性も考えられる。深さはP<sub>1</sub>…47cm、P<sub>2</sub>…45cm、P<sub>3</sub>…7cm、P<sub>4</sub>…11cm、P<sub>5</sub>…4cm、P<sub>6</sub>…7cm、P<sub>7</sub>…7cm、P<sub>8</sub>～P<sub>10</sub>は3～13cmである。

〔炉〕 床面中央に認められた。径78cm×68cmの掘り方を持つ地床炉と考えられるが、焼土・炭化物等は検出されなかった。

〔堆積土〕 6層に細分した。1・2層は人為堆積、第5層は自然堆積と考えられるが、他は判断できなかった。

〔出土遺物〕 第3層から第Ⅱ群3類、第1層から第Ⅱ群3～5類土器が出土した。石器は床面直上・第4層から敲磨器類などが、第1層から石鏃、石匙、スクレイパー類、石核、敲磨器類、軽石製品などが、ピットから石匙、角柱状の礫石器などが出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から縄文時代前期中葉（円筒下層b式期）に近い時期と考えられる。

（中村 哲也）

#### 第314号住居跡（36図～39図）

〔位置と確認〕 VI E-87に位置する。第Ⅲ層～第Ⅴ層で落ち込みを確認した。

〔重複〕 第315号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 楕円形を呈する。残存部は長軸3m21cm、短軸2m21cmである。長軸方向は、北東～南西である。

〔壁・床面〕 南西壁・南壁はなだらかに立ち上がる。北東壁・南東壁は遺存状況が悪く、明確な立ち上がりは検出できなかった。第Ⅶ層を床面とするが、第315号住居跡と重複する部分に貼り床が認められた。比較的軟弱で、北東辺では貼り床と第315号住居堆積土が判別しがたかった。

〔柱穴〕 床面から3個の柱穴が検出された。このうち、P<sub>1</sub>はその位置から考えて炉の可能性も考えられるが、焼土等は検出されなかった。深さはP<sub>1</sub>…4cm、P<sub>2</sub>…6cm、P<sub>3</sub>…15cmである。

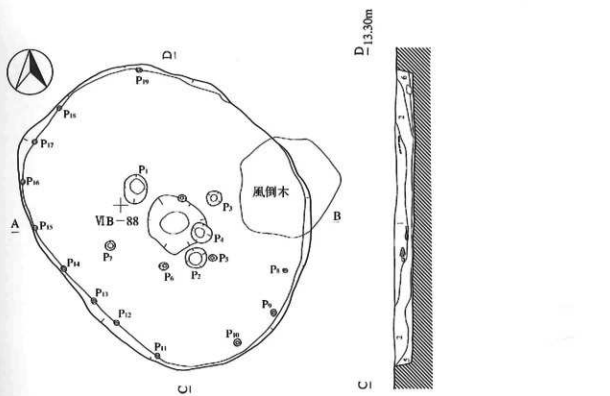
〔炉〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 暗褐色土の単層である。

〔出土遺物〕 床面直上から第Ⅱ群5類、第Ⅲ群1類、堆積土から第Ⅱ群5、6類、第Ⅲ群1、3、6類土器が出土した。石器は床面直上から敲磨器類などが出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から縄文時代前期末～中期初頭と考えられる。

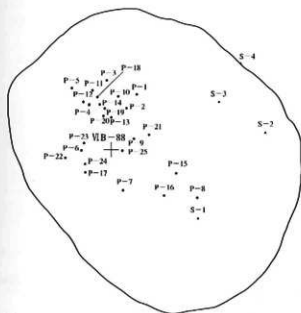
（中村 哲也）



B 13.50m

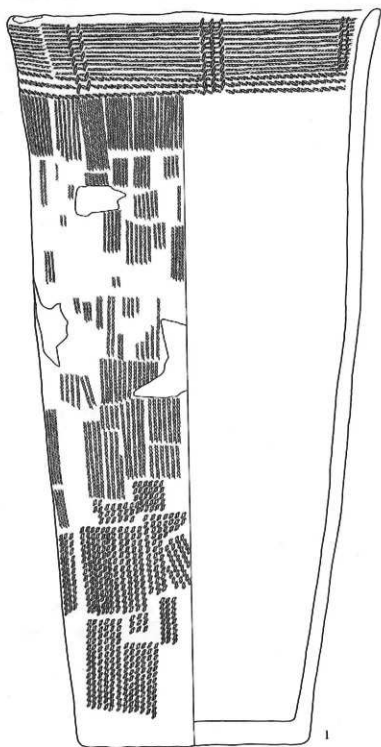
第313号住居跡

- |     |      |         |                    |
|-----|------|---------|--------------------|
| 第1層 | 砂褐色土 | 10YR3/4 | 炭化物・P-4位多量、地上段少量。  |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | P-4位多量、炭化物少量。      |
| 第3層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | P-4位多量、炭化物・L.B.少量。 |
| 第4層 | 黄褐色土 | 10YR2/3 | P-4位多量、炭化物極少量。     |
| 第5層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物・M-4位・L.B.多量。   |



遺物出土位置

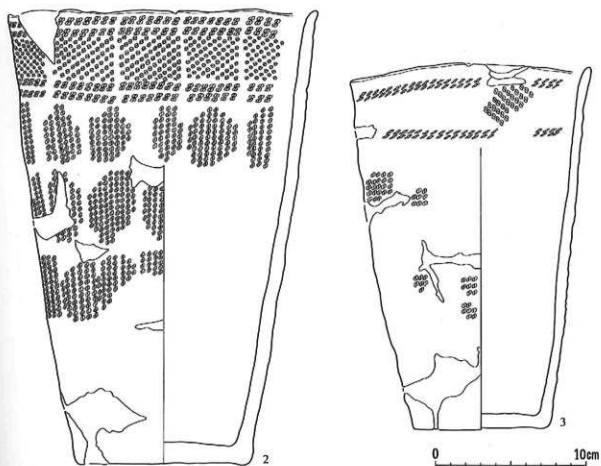
24图 第313号住居跡



0 10cm

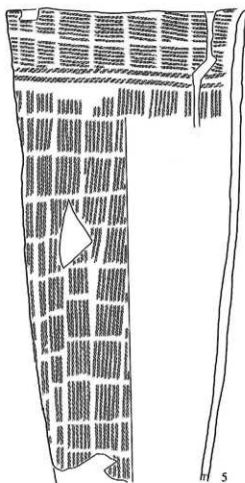
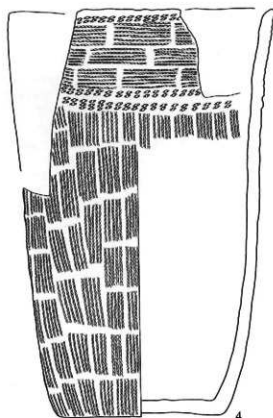
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	313住	3	R単線1、LR押	R単線1	LR単線1	ミ方キ	燕文	II-3	

25図 第313号住居跡出土遺物 (1)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
2	313住	I	RLR、RLR押	RLR	RLR	十字目文様	無文	II-3	
3	*	*	*	RLR?	RLR?		*	*	P-20

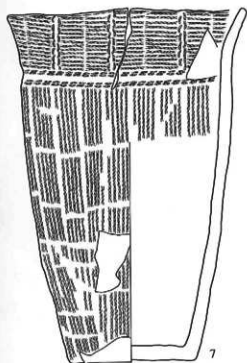
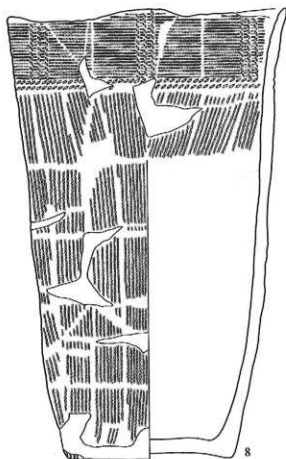
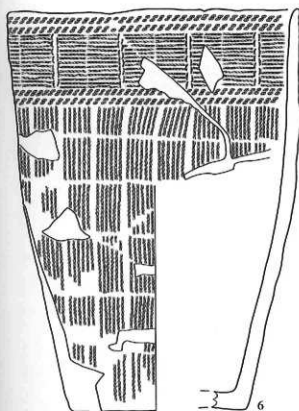
26図 第313号住居跡出土遺物(2)



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
4	313住	I	R単結I、RLR押	R単結I	R単結I		基文	Ⅱ-3	P-6
5	○	○	L単結I	RLR押、L単結I	L単結I	ミガキ		○	P-23

27図 第313号住居跡出土遺物 (3)

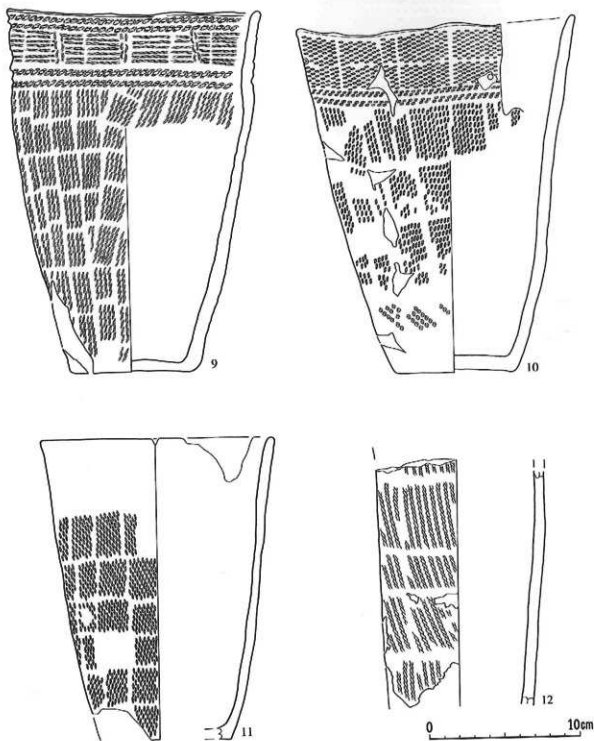




0 10cm

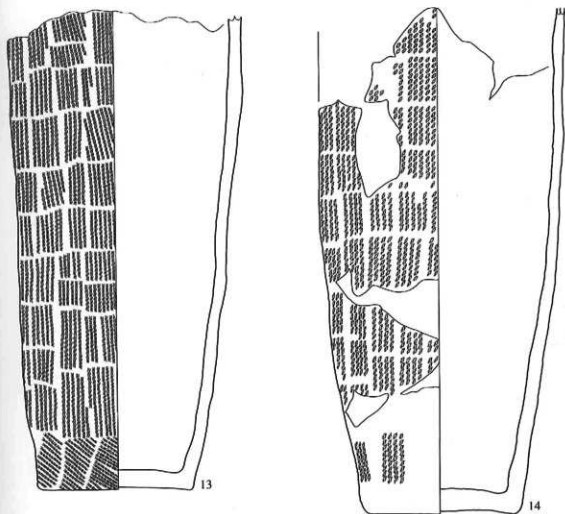
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
6	313住	I	R平緒6A、RLR押	R平緒1	R平緒1	ミ方金	II-3	P-22	
7	*	埴積土	*	*	*	*	無文	P-18	
8	*	I	R平緒1、RL押	*	*	*	*	*	

28図 第313号住居跡出土遺物(4)

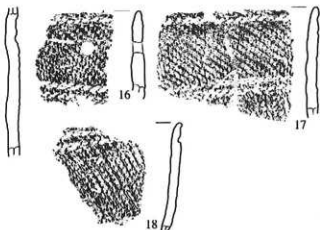


番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
9	313住	I	RL押、単結6A	LR単結I	LR単結I		無文	II-3	P-17
10	*	*	R多軸結、RLR押	*	*	ミ方奇	*	*	
11	*	*	不明	RLR	RLR			II-6	
12	*	*		R単結I	R単結I	ミ方奇		*	

29圖 第313号住居跡出土遺物(5)

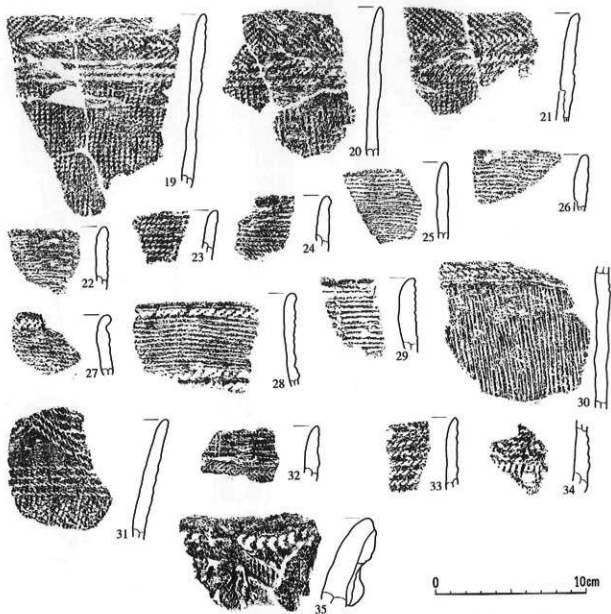


0 10cm



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
13	313住	I				ミガキ	無文	II-6	
14	○	○		LR単筋I	LR単筋I	○	○		P-9
15	○	○	RI押	R単筋I				II-3	
16	○	○	RL, RLR押						補修孔
17	○	○	RLR, ○						
18	○	○	○, ○			ミガキ			

30圖 第313号住居跡出土遺物 (6)



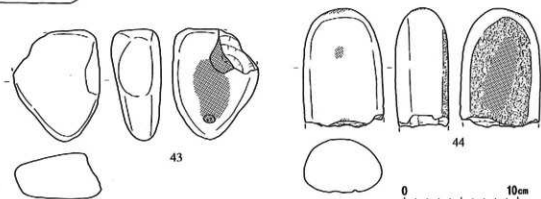
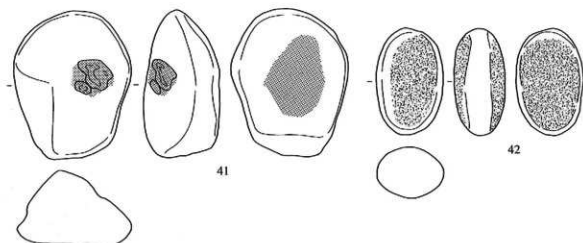
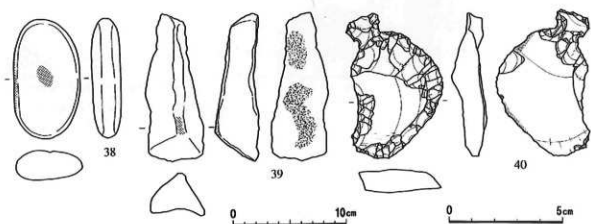
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
19	313住	1	結束第一様、R押	R単給1		ミガキ		II-3	
20	*	*	*	*		*		*	
21	*	*	*	*	RL			*	
22	*	*	R単給1			ミガキ		*	
23	*	*	L単給1					*	
24	*	2	R単給1			*		*	
25	*	*	*			*		*	
26	*	*	L単給1、R,R押			*		*	
27	*	*	*	*		*		*	
28	*	*	L,R単給1、*			*		*	
29	*	*	*	L,R押		*		*	
30	*	*	L,R押	L,R単給1				*	
31	*	*	L,R押	RL,R?		ミガキ		II-4	
32	*	*	L押	結束第一様(L,R,RL)		*		II-5-1	
33	*	*	R押			*		*	
34	*	*	*			*		II-5-2	
35	*	*	貼付(L押)、L押			*		III-2	

31図 第313号住居跡出土遺物(7)



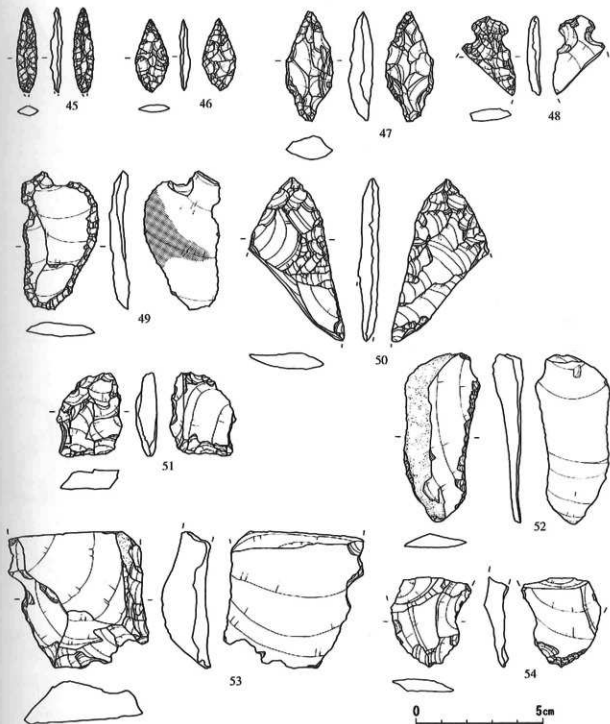
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	柄部上半	柄部下半				
36	313住	座積上	単筋1、L押	単筋1				II-3	
37	*	2	R単筋6A、LR押	LR単筋1				*	

32図 第313号住居跡出土遺物 (8)



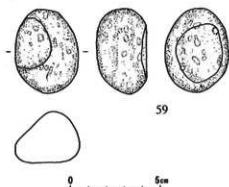
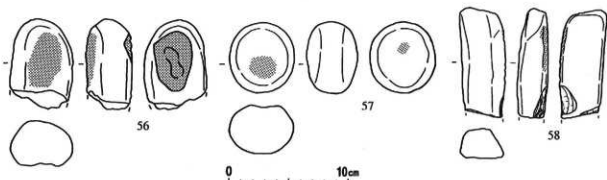
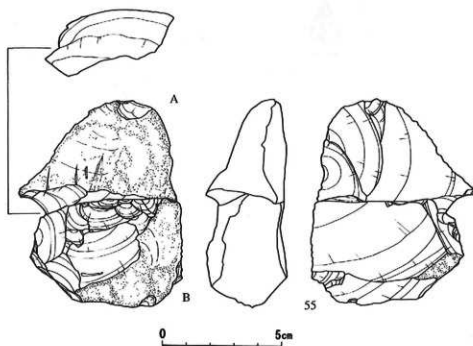
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	号	整理番号
38	313住	床敷	103	59	26	203.0	凝	lb	S-3		43700
39	313住ピット	1	130	51	39	192.6	流	Ub	ピット番号不明		46299
40	313住ピット2	*	65	41	15	23.9	珉質	Cc	S-1		52099
41	313住	4	130	104	68	891.7	安	lb			43731
42	*	*	94	59	45	369.3	*	lc	S-4		43729
43	*	*	97	(76)	44	(277.6)	*	lb			43732
44	*	*	(104)	(71)	(47)	(493.4)	*	lc	S-2		43727

33図 第313号住居跡出土遺物 (9)



図版番号	出土地点	形位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
45	313住	1	(34)	8	4	(0.9)	綠頁	Ac		52095
46	〃	〃	29	13	4	1.1	〃	〃		52097
47	〃	〃	44	19	10	6.0	〃	Ab		52096
48	〃	〃	(31)	(21)	(5)	(2.4)	〃	Ca		40155
49	〃	〃	55	30	8	10.6	〃	Cc		52098
50	〃	〃	(64)	(38)	(8)	(14.1)	〃	Ga	石輪鏡片? 石匙鏡片?	40355
51	〃	〃	33	26	8	8.0	土柱	〃		40294
52	〃	〃	67	30	12	14.0	瑤頁	〃		43504
53	〃	〃	(54)	(56)	(19)	(54.9)	〃	〃		42931
54	〃	〃	(36)	(32)	(10)	(7.2)	〃	〃		40278

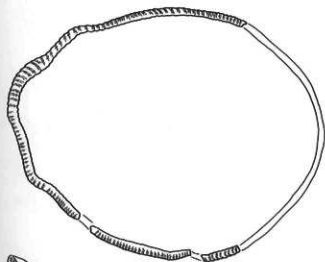
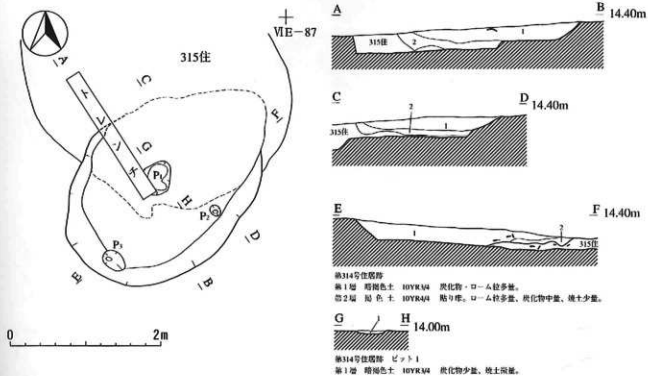
34图 第313号住居跡出土遺物 (10)



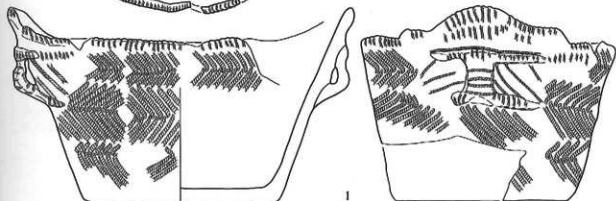
图版番号	出土地点	层位	长 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
55A	313住	I	86	68	34	71.1	珉頁	Pa	2点接合	40273
55B	*	*				113.5				40487
56	*	*	(75)	(52)	(39)	(192.7)	安	Ia		43718
57	*	*	60	54	43	94.1	頁	Ib		43722
58	*	*	(90)	(38)	(25)	(122.5)	礫	*		43717
59	*	*	47	35	28	19.1	珉	Tb		42001

35图 第313号住居跡出土遺物 (11)



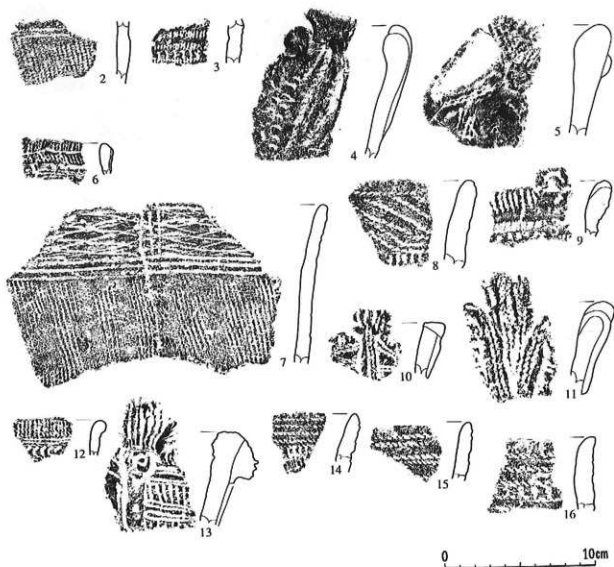


0 10cm



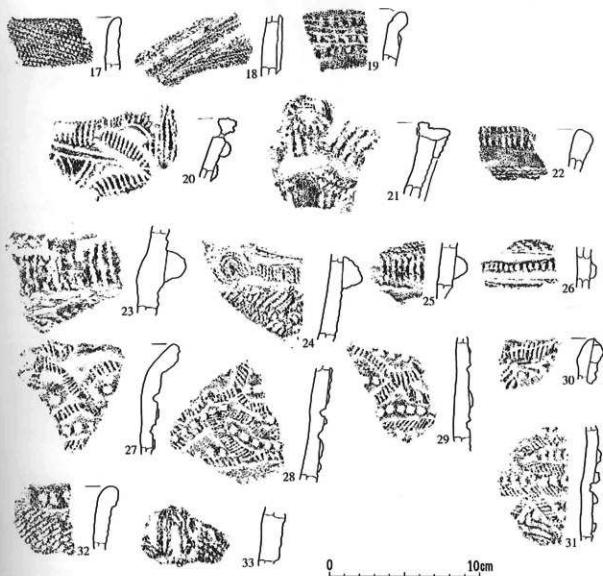
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様		内面調整	底面	分類	備 考
			1線部	胴部上半				
1	314住	地境上	R押	結束第一種	結束第一種	三方弁	無文	Ⅲ-1? F-1, ⅢE15 (博94)

36図 第314号住居跡・出土遺物(1)



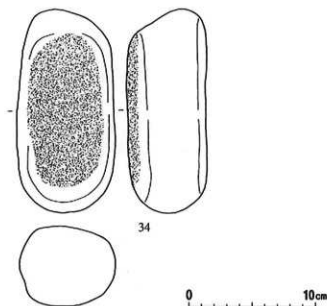
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	柄部上半	柄部下半				
2	314住	床底	L単縁1押	RL		ミ方キ	II-5-1		
3	*	*	R単縁1押、刺突			*	II-5-2		
4	*	*	貼付(LR押)、刺突			*	*		
5	*	*	貼付(両面有)LR押			*	III-1		
6	*	*	* (L押)、L・R押			*	*		
7	*	I	R単縁5、R押	R単縁1		*	II-3		
8	*	*	R押、刻み			*	II-5-2		
9	*	*	貼付(両面)、L単縁1押			*	*	口唇上面LR押	
10	*	*	* (LR押)、LR押			*	III-1	突起上面LR押	
11	*	*	* (+)、+			*	*		
12	*	*	R押			*	*		
13	*	*	貼付(両面有)、L・LR押			*	*		
14	*	床積上	L押、刺突	単縁17		*	II-5-1		
15	*	*	LR押			*	*		
16	*	*	*			*	II-5-2		

37图 第314号住居跡出土遺物(2)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
17	314住	堆積土	RLR			ミガキ	Ⅱ-6		
18	+	+	貼付(L・R押)、L・R押			*	Ⅱ-1		
19	+	+	彫付、L押			*	*		
20	+	+	* (LR押)、LR押			*	*	P-3	
21	+	+	* (胴部)、彫付肌目			*	*	*	
22	+	+	R・LR押			*	*	P-5	
23	+	+	貼付(LR押)	RL?		*	*		
24	+	+	* (R押)、R押	LR		*	*		
25	+	+	* (+)、L押			*	*		
26	+	+	* (+)、LR押			*	*		
27	+	+	* (L押)、割袋			*	*	Ⅲ-3 27~29同一層位	
28	+	+	* (+)、*			*	*		
29	+	+	* (+)、*			*	*		
30	+	+	* (+)、*			*	*		
31	+	+	* (+)、*	昔尖部一様(LR、RL)		*	*		
32	+	+	RL?押	LR		*	*	Ⅲ-6	
33	+	+		貼付(L・R押)、RLR		*	*		

38图 第314号住居跡出土遺物(3)



図面番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
34	314住	床底	161	78	64	1213.0	泥	lc	S-1		43735

39図 第314号住居跡出土遺物 (4)

第315号住居跡 (40図～43図)

〔位置と確認〕 VI E-86・87に位置する。第Ⅲ層中で落ち込みを確認した。

〔重複〕 第314・398号住居跡と重複し、第314号住居跡より古く、第398号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 楕円形を呈する。長軸 3 m 89 cm、短軸 3 m 9 cm、床面積 8.9 m<sup>2</sup>である。長軸方向は北東-南西である。

〔壁・床面〕 北東壁・北西壁は、若干外傾しながら立ち上がる。南西壁・南壁は第314号住居跡と重複するため、遺存状態が悪い。床面は、第Ⅵ層に築かれているが、第398号住居跡と重複する部分は貼り床が認められた。しかし、第398号住居跡堆積上との区別が困難で、北西側半分を掘りすぎてしまった。

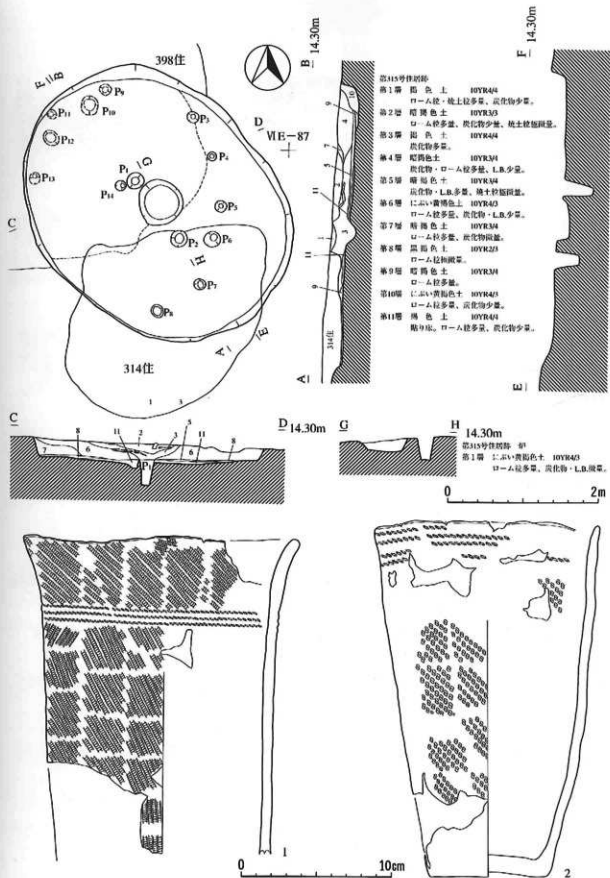
〔柱穴〕 14個の柱穴が検出された。深さ、配置から考えて、P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>が主柱穴と考えられる。深さはP<sub>1</sub>…43 cm、P<sub>2</sub>…33 cmである。P<sub>3</sub>～P<sub>11</sub>は、貼り床を掘りすぎ第398号住居跡の床面で検出したため、貼り床を切り込むものか、貼り床に覆われるものか明確にできなかった。従ってこれらは、重複する第398号住居跡に伴う可能性もある。そのため、破線で示した。壁柱穴は検出されなかった。

また、P<sub>3</sub>～P<sub>8</sub>の配置は、第314号住居跡の他にもう一軒、第315号住居跡と重複する住居が存在したことを示唆するものともとらえる。しかし、これに伴う床面は検出できず、堆積土中でも柱穴の存在は確認できなかった。

〔炉〕 床面中央に認められた。掘り方を持つ地床炉と考えられるが、焼土等は検出されなかった。規模は径62 cm、深さ20 cmである。

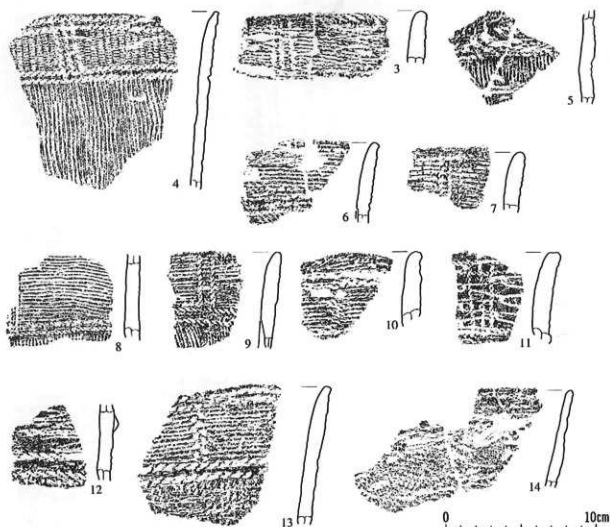
〔堆積土〕 10層に細分された。人為堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 第10層から第Ⅱ群3類、その他の堆積土から第Ⅱ群3・4、5、6類土器が出土した。



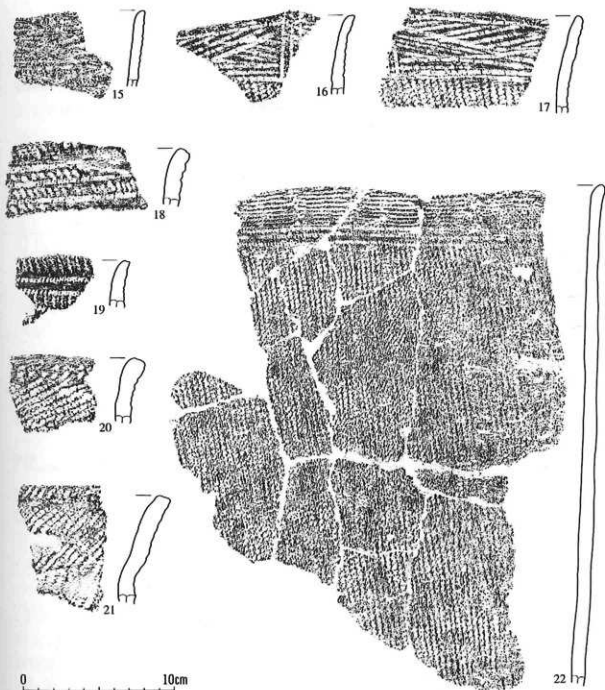
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面図案	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	315住	3	RL, RL押	RL	RL	ミガキ	II-3	P-4	
2	*	2	LR単筋I	RLR	RLR	*	II-4	P-8	

40図 第315号住居跡・出土遺物(1)



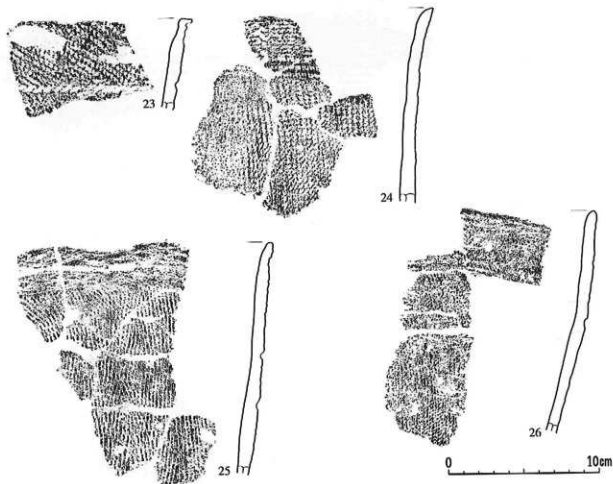
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
3	315住	4	L単線1、RL2押			ミガキ		II-3	
4	*	10	多軸筋、RL押	L単線1		*		*	
5	*	*	LR押?	R単線1		*		*	文様部部分の文様不明
6	*	3	R単線1、R押			*		*	
7	*	*	、LR押			*		*	
8	*	*	、*	R単線1		*		*	
9	*	*	、*	*		*		*	
10	*	*	R単線4、RLR押			*		*	口縁上面R単線1?
11	*	*	R単線6、LR押			*		*	
12	*	*	、*	筋帯、LR押		*		*	
13	*	*	R単線6A、RLR押	単線1		*		*	
14	*	2	LR押?			*		*	文様大部分不明

41図 第315号住居跡出土遺物(2)

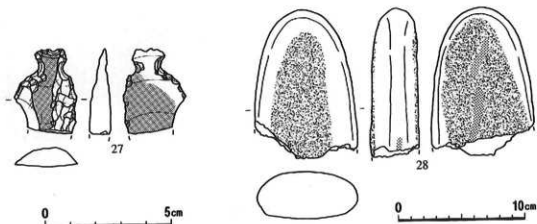


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
15	315住	埋藏土	単斜1押			ミ方キ		Ⅱ-5-1	
16	*	*	R単斜1押	RLR		*		Ⅱ-5-2	
17	*	*	*	*		*		*	
18	*	*	*, L押			*		*	口唇上面刻み
19	*	*	*, R押			*		*	* R押
20	*	*	L?押、LR			*		*	
21	*	*	LR			*		*	口唇上面LR
22	*	確認前	R単斜1、R単斜1押	RLR		*		Ⅱ-3・4	

42図 第315号住居跡出土遺物 (3)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
23	315住	埴埴土	RL、RL反押			ミガキ		II-3・4	
24	*	*	R単筋1、R単筋1押	RLR		*		II-3・4?	
25	*	*	R? 単筋5?	R単筋1		*		*	
26	*	*	単筋1押	*		*		*	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分相	備 考	整理番号
27	315住	I	(34)	(25)	(8)	(5.7)	埴埴	Ca		52100
28	*	*	(117)	(81)	(38)	(478.6)	流	lc		43740

43図 第315号住居跡出土遺物 (4)



石器は1層から石匙、敲磨器類などが出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から縄文時代前期中葉（円筒下層b式期）に近い時期と考えられる。

（中村 哲也）

#### 第316号住居跡（44図）

〔位置と確認〕 VI E-89に位置する。第Ⅲ層中で炉跡を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 炉の周囲で貼り床を検出した。黄褐色火山灰を厚さ2cmに貼っていた。

〔柱穴〕 不明である。

〔炉〕 上器埋設炉である。掘り方は確認できなかった。土器内堆積上は3層に分層された。第2層は、若干赤化しており、火焼面と考えられる。

〔堆積土〕 不明である。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群6類である。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期（円筒上層式期）である。

（中村 哲也）

#### 第321号住居跡（45図～49図）

〔位置と確認〕 V N・O-123・124に位置する。第V層で黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈し、規模は長軸4m4cm、短軸2m96cm、床面積は9.43㎡である。長軸方向は北西-南東である。

〔壁・床面〕 第VI・VII層を掘り込んで壁・床としている。壁は残存高4～37cmで、軟弱な作りである。床面は比較的平坦で、堅緻ではないが踏み締まっている。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 中央部に40cm×26cmの地床炉が検出された。

〔その他の施設〕 北東部に張り出し付きの付属施設を持つ。P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>はビットとして登録したが、柱穴ではない可能性が高い。P<sub>2</sub>と、それが掘り込まれたテラス状部分、及びP<sub>1</sub>を含む部分までを付属施設に含めた。それぞれの深さはP<sub>1</sub>…13cm、P<sub>2</sub>…19cmである。この範囲内は、他の部分に比べ踏み締まりが若干弱い。

〔堆積土〕 12層に分層した。暗褐色を基調とするが、第VI層土粒の混入密度に違いがある。2～4層は人為堆積の可能性が高いが、5層以下については判別できなかった。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群4類を主体とする土器、敲磨器類、石冠などが出土した。

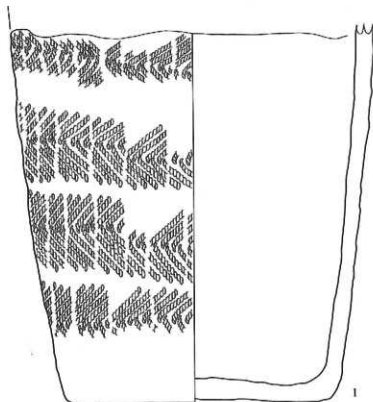
〔時期〕 堆積土出土遺物から、縄文時代前期中葉（円筒上層d式期）と思われる。

（秦 光次郎）



第316号住居跡  
 第1層 褐色土 10YR6/4 口-A柱・礎上柱多量、灰化物少量。  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 口-A柱多量、灰化物少量、礎土柱痕跡。  
 第3層 灰土 10YR8/4 灰化物多量。  
 第4層 暗褐色土 10YR3/4 灰化物・口-A柱多量、L.B.少量。

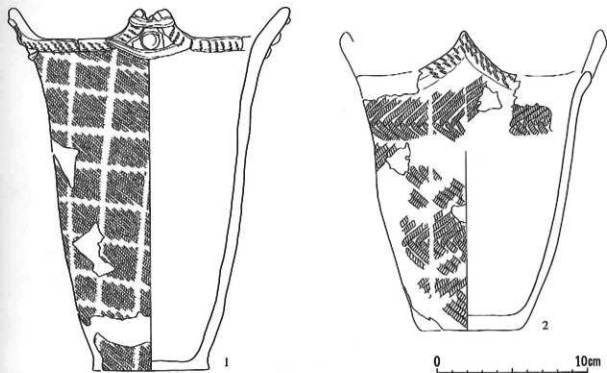
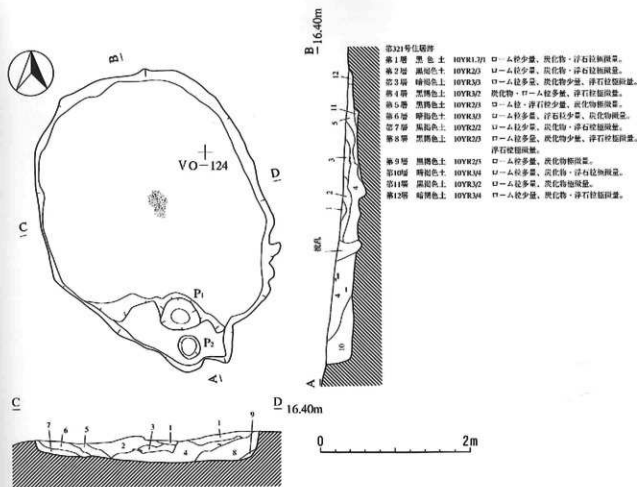
0 2m



0 10cm

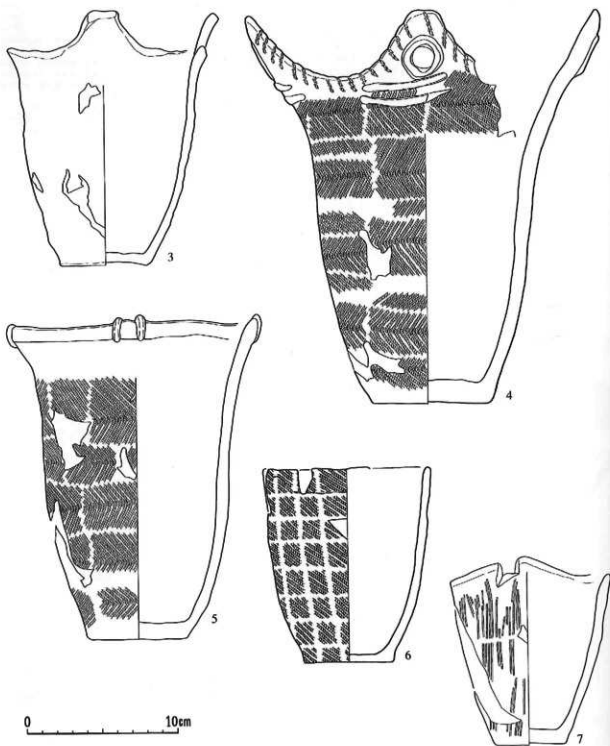
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
I	316住跡				縞並拵一様 (L.R. RL)	ミガキ	無文	Ⅲ-6	

44図 第316号住居跡・出土遺物



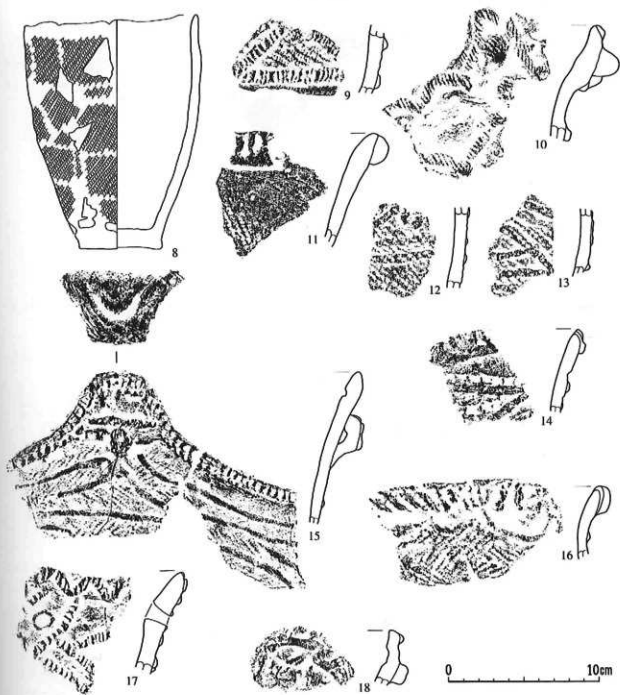
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	321住	4	口縁部、胴部、肩部貼付	RL	RL	ミ方午	無文	Ⅲ-4	
2	*	*	口唇上面RL、肩	縞帯第一様(L.R, RL)	縞帯第一様(L.R, RL)	*	*	*	

45图 第321号住居跡出土遺物 (1)



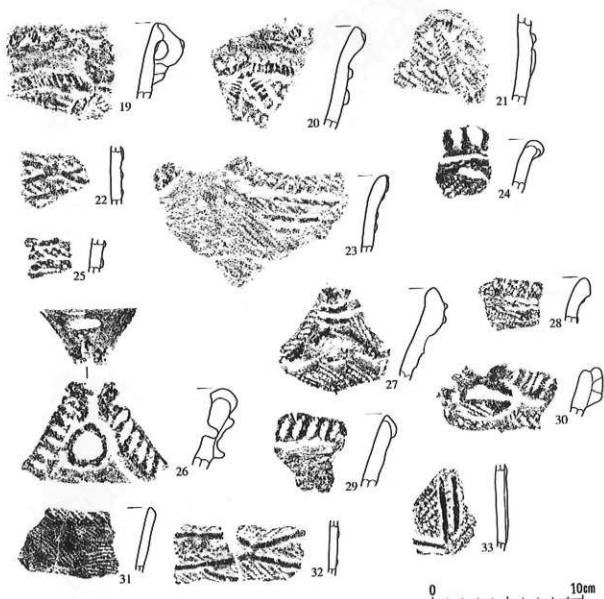
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
3	321住	3	無文	無文	無文	ミガキ	無文	Ⅲ-4	
4	+	2	貼付	結束帯一種	結束帯一種	*	*	*	
5	+	*	*	*	*	*	*	*	
6	+	厩積土	折悪口襷状	HL	RL	*	*	*	
7	+	*		条痕	条痕	ナデ、ミガキ	*	Ⅲ-6	

46図 第321号住居跡出土遺物 (2)



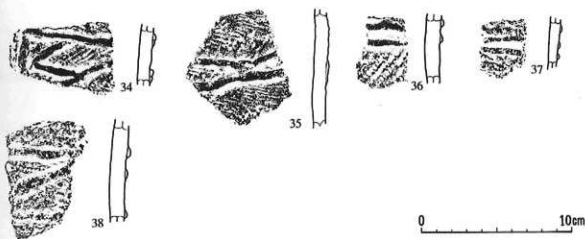
番号	出土地点	出土層位	外 形 文 様			内面調整	底面	分級	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
8	321住	確認面		LR	LR	ミガキ	新文	Ⅲ-6	
9	*	10		結束第一種、貼付(L押)		*	*	Ⅲ-4	
10	*	8	貼付(L押)			*	*	*	
11	*	7	RL押	RL7		*	*	Ⅲ-6	
12	*	5		RL、貼付		*	*	Ⅲ-4	
13	*	*		*、貼付(RL押)		*	*	*	
14	*	4	貼付、刺突			*	*	Ⅲ-3	
15	*	*	*、L押	結束第一種、貼付		*	*	Ⅲ-4	内面に八状凹線
16	*	*	*、L&R押	結束第一種		*	*	*	
17	*	*	貼付(頭部)、貫通孔			*	*	*	
18	*	*	貼付			*	*	*	内面に貫孔

47图 第321号住居跡出土遺物(3)

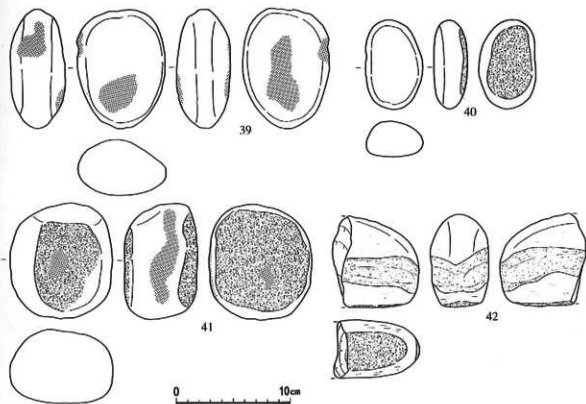


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	断面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
19	321住	4	貼付 (L押)	縞束第一條、貼付 (L押)		ニ方弁	Ⅲ-4	20と同一器体	
20	〃	〃	〃 (〃)	〃、〃 (〃)		〃	〃	〃	
21	〃	〃		〃、〃 (〃)		〃	〃	〃	
22	〃	〃		RL7、貼付		〃	〃	〃	
23	〃	3	RL押	RL、〃		〃	〃	〃	
24	〃	2	貼付			〃	〃	表面一部剥落	
25	〃	〃		RL7、貼付		〃	〃	〃	
26	〃	1	貼付 (L&押)			〃	〃	内面に凹線	
27	〃	埴積土	貼付、RL			〃	〃	〃	
28	〃	〃	〃、〃、RL押			〃	〃	〃	
29	〃	〃	縞束、貼付 (L押)	RL7		〃	〃	〃	
30	〃	〃	R押			〃	Ⅲ-6	〃	
31	〃	〃	〃	RL		〃	Ⅲ-4	〃	
32	〃	〃	〃	縞束第一條、貼付		〃	Ⅲ-4	〃	
33	〃	〃	〃	〃、〃		〃	〃	〃	

48图 第321号住居跡出土遺物 (4)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口縁部	胴面上半	胴部下半				
34	321住	堆積土		結東第一段、貼付		ミ方令	Ⅲ-4		
35	*	*		*	*	*	*	*	
36	*	*		貼付、LR		*	*	*	
37	*	*		貼付		*	*	*	
38	*	*		○、縄文		*	*	*	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
39	321住	堆積土	106	78	47	476.6	安	lb		43756
40	*	*	80	50	29	160.6	*	lc		48598
41	*	*	102	90	64	775.6	流	*		48599
42	*	*	(81)	(76)	56	(453.6)	安	O		43705

49図 第321号住居跡出土遺物 (5)

第322号住居跡 (50図)

〔位置と確認〕 V K・L-123・124に位置する。第VI層で、暗褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 中央から南側にかけて風倒木による攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 風倒木による攪乱のため、全体の平面形は不明であるが、東西にやや長い楕円形と考えられる。規模は、長軸4m、推定短軸3m50cmである。長軸方向は東西である。

〔壁・床面〕 第VI・VII層を掘り込み、第VI層を壁、第VII層を床としている。壁は床面から緩かに立ち上がっている。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 床面中央で土器埋設炉を検出した。焼土面は確認されなかった。土器は口縁を欠き、下半部が残存する。掘り方の上端は若干盛り上がり気味で、扇状に掘り残している。

〔堆積土〕 攪乱のため、層全体の傾向は把握できなかった。色調は暗褐色を基調とする。

〔出土遺物〕 土器埋設炉の土器は第III群6類である。堆積上からはミニチュア土器が出土した。

〔時期〕 炉に使用された土器から、縄文時代中期中葉と思われる。

(秦 光次郎)

第324号住居跡 (51図～53図)

〔位置と確認〕 V Q・R-124に位置する。第V層精査中に楕円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 長軸3m32cm、短軸2m28cmの楕円形である。床面積は6.64㎡である。長軸方向は北西-南東である。

〔壁・床面〕 外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁24cm、西壁36cm、南壁2cm、北壁31cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱穴〕 3個のピットを確認した。深さはP<sub>1</sub>…27cm、P<sub>2</sub>…28cm、P<sub>3</sub>…6cmである。P<sub>2</sub>の掘り方はやや外傾する。主柱穴はP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>と思われる。P<sub>3</sub>は付属施設に関連するものかもしれない。

〔炉〕 検出されなかった。

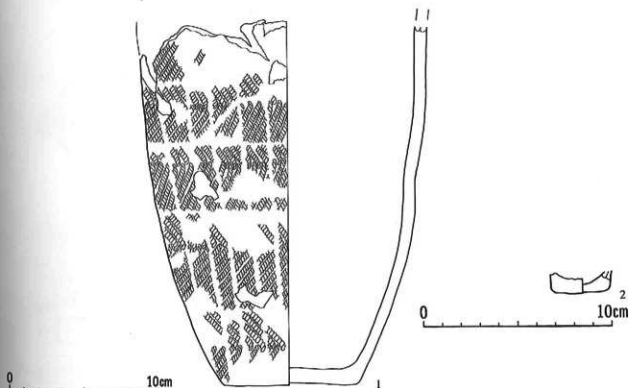
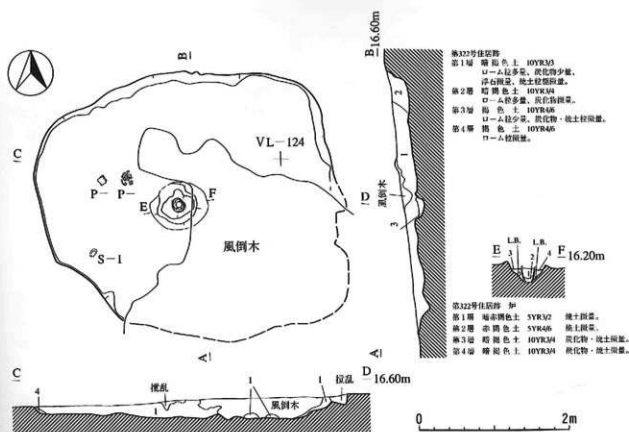
〔堆積土〕 5層に分層した。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒・炭化物が微量に含まれる。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 床面から第III群4・5、8、11類土器、その他の堆積土から第III群4、5、8類土器、Uフレイク、角柱状の礫などが出土した。

〔時期〕 床面出土遺物から縄文時代中期中葉(円筒上層e式)に近い時期と考えられる。

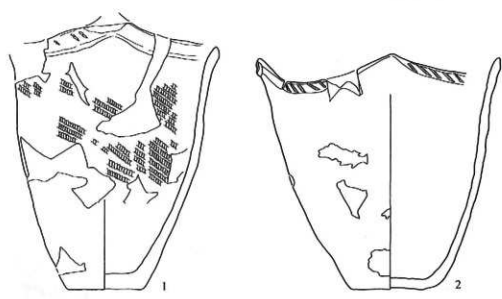
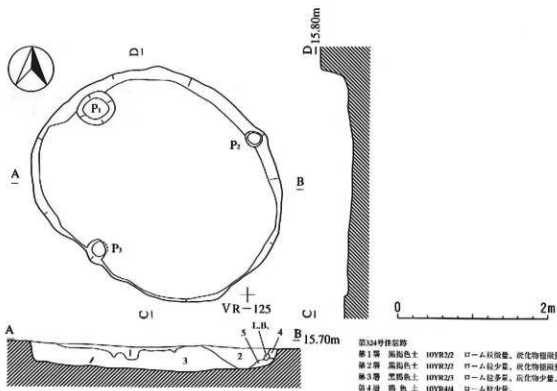
(小笠原 雅行)





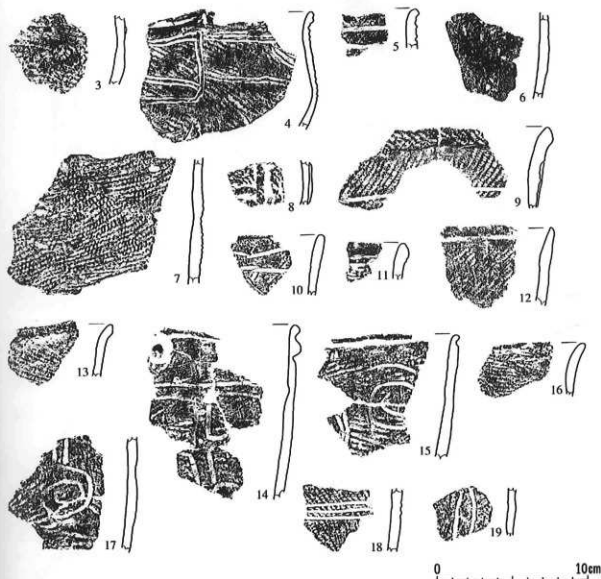
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	322住居跡		結党帯一横 (L.R., R.L.)	結党帯一横 (L.R., R.L.)	十字	無文	重-6		
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
2	322住居跡	埋藏土	口縁部	胴部上半	胴部下半				

50図 第322号住居跡・出土遺物



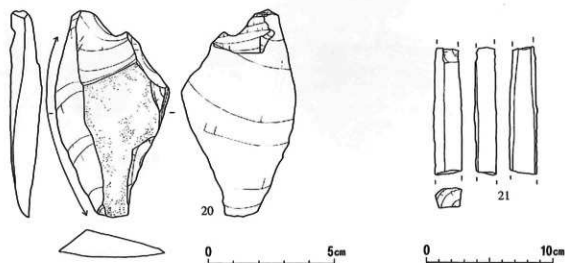
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様				内面調査	底面	分類	備 考
			11線部	胴部肥厚、R押	胴部上半	胴部下半				
1	324住	床直	□唇部肥厚、R押	RL	胴部上半	RL	ナデ	里-4・5	P-13、P-10	
2	324Eビッド	遺積土	＊、筋み	無文		無文	ナデ?	＊		

51図 第324号住居跡・出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分組	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
3	324住	床面		結束第一種、貼付		ミガキ		Ⅲ-4 貼付大部分剥落	
4	*	*	口縁に貼った沈線	RL? 沈線	*	*		Ⅲ-8 外周縁状炭化物付着	
5	*	*	沈線		*	*			
6	*	*		縄文、沈線?	*	*		Ⅲ-11 外面縁状炭化物付着	
7	*	*		RL	*	*			
8	*	地壇上		LR? 貼付	*	*		Ⅲ-4	
9	*	*	RL	LR、沈線	*	*		Ⅲ-5	
10	*	*	LR、沈線		*	*			
11	*	*	沈線		*	*			
12	*	*	LR押、LR		*	*			
13	*	*	RL		*	*			
14	*	*	唇状、口唇に貼った沈線	LR?、沈線	*	*		Ⅲ-8	
15	*	*	口唇に貼った沈線	縄文、*	*	*			
16	*	*	LR?		*	*			
17	*	*		RL、沈線	*	*			
18	*	*		LR、*	*	*			
19	*	*		RL、*	*	*			

52図 第324号住居跡出土遺物 (2)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	材質	分類	備考	整理番号
20	324住	堆積土	82	46	12	35.7	埴瓦	Ge		41523
21	+	+	(101)	23	17	(61.2)	流	Un		42522

53図 第324号住居跡出土遺物 (3)

#### 第325号住居跡 (54図~56図)

〔位置と確認〕 VI O・P-124・125に位置する。第V層精査中に楕円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 長軸 4 m20cm、短軸 3 m60cmの楕円形である。床面積は9.56㎡である。長軸方向は北西-南東である。

〔壁・床面〕 壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は東壁23cm、西壁15cm、南壁 8 cm、北壁23cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱穴〕 4個のビットを確認した。深さはP<sub>1</sub>…82cm、P<sub>2</sub>…7 cm、P<sub>3</sub>…13cm、P<sub>4</sub>…26cmである。P<sub>2</sub>からは柱痕跡が確認された。主柱穴はP<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>と思われる。

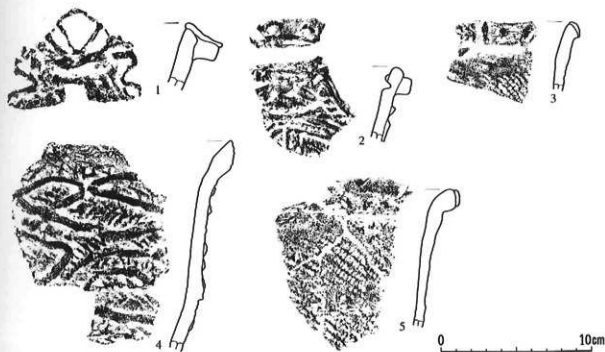
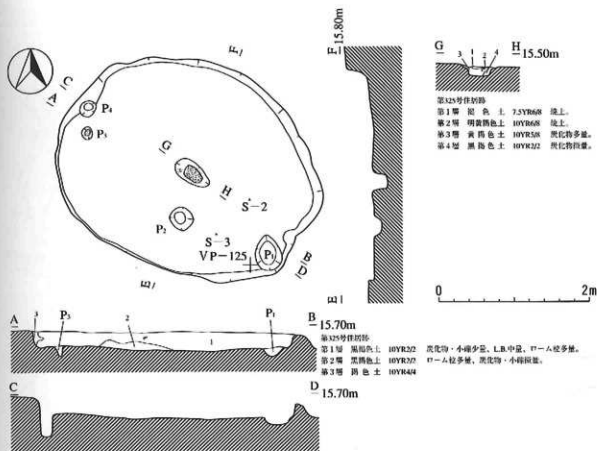
〔炉〕 床面中央で地床炉を検出した。掘り方の規模は52cm×28cmで、深さ14cmである。堆積土中には焼土が含まれる。

〔堆積土〕 3層に分層した。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒・炭化物が少量含まれる。自然堆積の可能性が高いと考えられる。

〔出土遺物〕 床面から敲磨器類、石皿・台石類が、堆積土から第Ⅲ群 4類土器、石鏃、スクレイパー類が出上した。

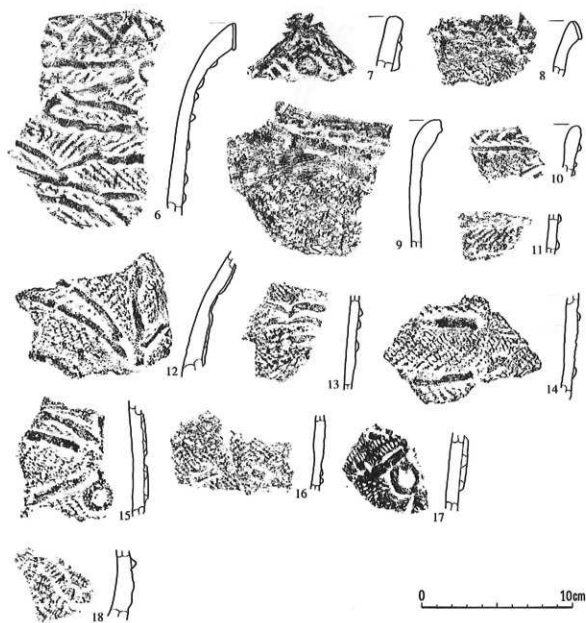
〔時期〕 堆積土出土遺物から縄文時代中期中葉 (円筒上層d式)に近い時期と考えられる。

(小笠原 雅行)



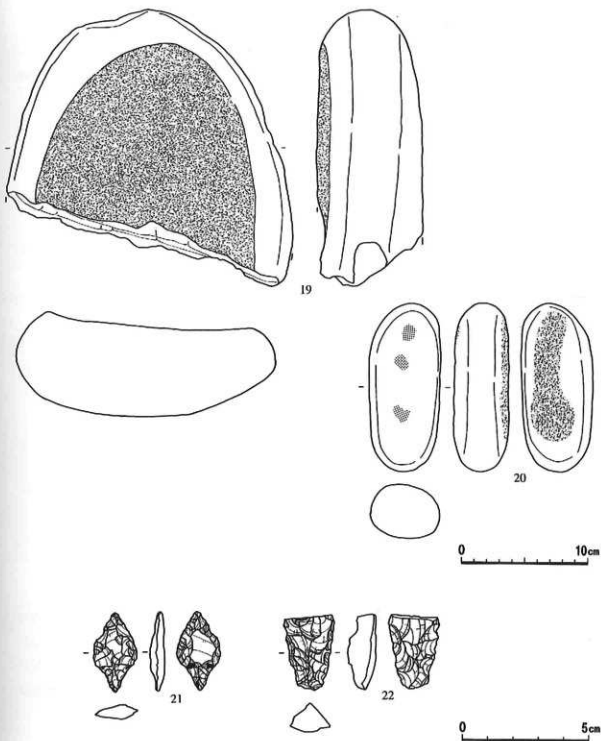
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調査	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	325住	埋積土	粘付			ニ方平		Ⅲ-4	
2	*	*	*			*		*	内面にも粘付、穿孔
3	*	*	*	RL?		*		*	
4	*	*	(剥落)	粘束第一層、粘付		*		*	
5	*	*	粘付	粘束第一層 (RL、RI)		*		*	

54図 第325号住居跡・出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
6	325住	埴積土	貼付	結束第一種、貼付		ミガキ		Ⅲ-4	
7	*	*	*			*	*	*	
8	*	*	*	(剥落)		*	*	Ⅲ-6	
9	*	*	貼付	RL		*	*	Ⅲ-4	
10	*	*	L牌	*、貼付		*	*	*	
11	*	*		結束第一種、貼付		*	*	*	
12	*	*		*、*		*	*	*	
13	*	*		LR7 貼付		*	*	*	
14	*	*		結束第一種、貼付		*	*	*	
15	*	*		*、*		*	*	*	
16	*	*		*、*		*	*	*	
17	*	*		*、*		*	*	*	
18	*	*		*、*		*	*	*	

55図 第325号住居跡出土遺物(2)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
19	325住	床面	(219)	(226)	(84)	(4967.3)	安	L	S-2	42524
20	*	*	133	56	43	493.2	泥	lc	S-3	42523
21	*	埋積土	31	17	6	2.4	輝頁	Ab	アスファルト付着	53003
22	*	*	30	20	11	5.6	*	Ga	割れ面から再加L	40153

56図 第325号住居跡出土遺物 (3)

第326号住居跡 (57図～58図)

〔位置と確認〕 IV S-122・123に位置する。第VI層で、暗褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 南北にやや長い不整形円形で、長軸 4 m 20cm、短軸 3 m 60cm、面積は9.55㎡である。

〔壁・床面〕 第VI層を掘り込み壁・床としている。壁は高さ32～52cmで、良好に残存していた。床は比較的平坦な作りであった。硬化面は確認できなかった。

〔壁溝〕 最大幅 6 cm、深さ 4 cmで、一部途切れる箇所があるがほぼ全周する。

〔柱穴〕 5個検出された。何れからも柱痕跡は確認されなかったが、P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>は主柱穴の可能性がある。

〔炉〕 P<sub>2</sub>は炉である可能性がある。堆積土上部に炭化物を多く含む層が形成されていた。焼土の形成は確認できなかった。

〔堆積土〕 4層に分層した。第1・2層は自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 床面直上から砥石などが、堆積土から敲磨器類、石錘などが出土した。

〔時期〕 検出状況から縄文時代である。

(木村 真明・秦 光次郎)

第327号住居跡 (59図～61図)

〔位置と確認〕 VC・D-123・124に位置する。表土を除去したところで、暗褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 不整形円形で、長軸 3 m 20cm、短軸 2 m 60cmである。

〔壁・床面〕 削平を受けていたため、壁は西側で約18cm残存するのみである。床は比較的平坦な作りであった。硬化面は明瞭には確認できなかった。

〔柱穴〕 確認できなかった。

〔炉〕 中央から南西寄りに、石囲土器片敷き炉が確認された。最大長約62cmである。床面より約20cm掘り下げ、底面及び側面に土器片を貼り付けたのち、長20～25cmの河原石を開口部に据え付けた構造となっている。焼土は、掘り込み部を床と同じ高さまで埋めた上に形成されており、こちらが炉の火焼面であったと思われる。また、この施設の南西側に接して、灰白色ロームが貼り付けられている。炉にかかわる施設か、古い段階の炉である可能性がある。

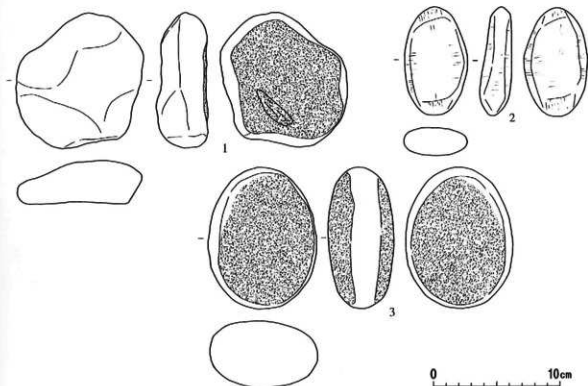
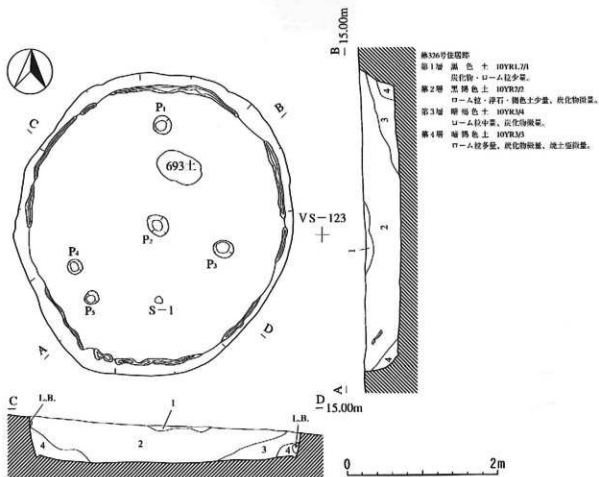
〔堆積土〕 黒褐色土の土層である。残存部分が少なく、分層できなかった。

〔出土遺物〕 炉・床面から第Ⅲ群9類土器が出土した。

〔時期〕 床面出土及び炉に使用された土器から、縄文時代中期後葉（最花式期）と思われる。

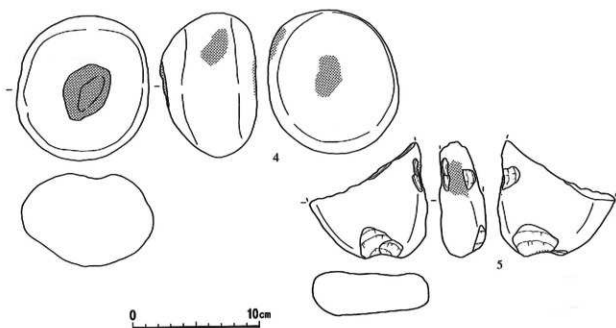
(木村 真明・秦 光次郎)





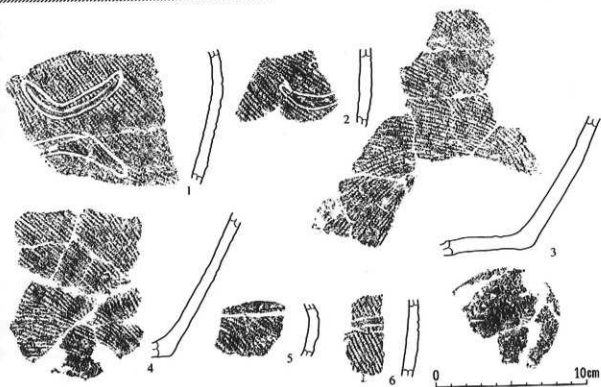
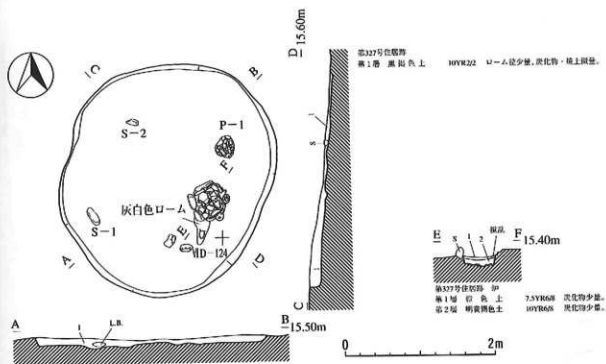
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
1	326住	床直	107	100	40	399.1	凝	Sh	坑底、S-1、壁間地の遺物	43773
2	*	*	85	50	25	153.7	安	Sa		43764
3	*	地横土	111	86	52	644.0	流	Ic		45771

57图 第326号住居跡・出土遺物(1)



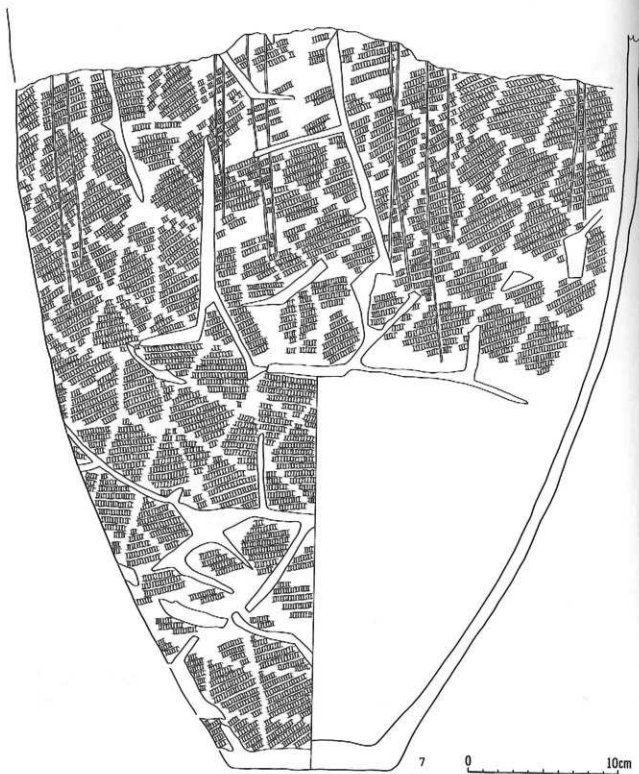
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
4	326住	堆積上	114	105	76	1040.0	安	Is			43772
5	*	*	(91)	(94)	(36)	(268.4)	*	N			43767

58図 第326号住居跡・出土遺物 (2)



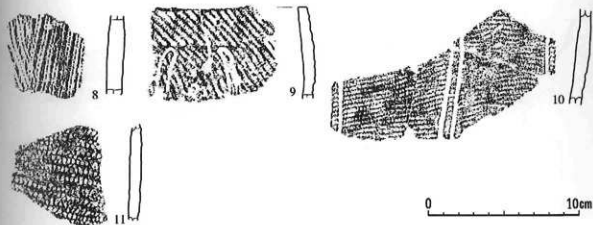
番号	出土地点	出土層位	表面文様			内面調査	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	327住	床面		RL、花線		ミガキ	Ⅲ-9	1~4同一個体	
2	*	*		*、*		*	*	*	
3	*	*			RL	*	蕉文	*	
4	*	*			*	*	*	*	
5	*	*		RL、花線		*	*	*	
6	*	*		*、*		*	*	*	

59图 第327号住居跡・出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	側部上半	側部下半				
7	327住9F			沈線、RL	沈線、RL	ナリ?	無文	田-9	

60図 第327号住居跡出土遺物(2)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
8	327住	埋積土			R単縁1A	ミガキ		Ⅱ-6	
9	○	○	RL, 沈線			○		Ⅲ-9	
10	○	○		LR, 沈線		○		○	
11	○	○		LR		○		Ⅲ-11	

61図 第327号住居跡出土遺物 (3)

#### 第328号住居跡 (62図～64図)

〔位置と確認〕 VI G-90に位置し、第Ⅲ層上面で暗褐色土の楕円形の落ち込みを確認した。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある楕円形である。規模は長軸2 m 75cm、短軸2 m 40cmで、床面積は4.52㎡である。

〔壁・床面〕 各壁ともに外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁13cm、西壁14cm、南壁18cm、北壁11cmである。床面はほぼ平坦であるが、貼り床は施されていない。

〔柱穴〕 主柱穴はP<sub>1</sub>～P<sub>4</sub>の4本で、台形状の配置である。ピットの深さは、P<sub>1</sub>…11cm、P<sub>2</sub>…48cm、P<sub>3</sub>…27cm、P<sub>4</sub>…34cmである。

〔炉〕 床面のほぼ中央から地床炉が検出された。ほぼ円形で、掘り方の規模は直径約35cm、深さ10cmである。堆積土には微細な炭化物、焼土を含んでいる。明確な火烧面は検出されなかった。

〔堆積土〕 1層で、人為堆積と考えられる。褐色土を基調とし、層全体にロームブロック、炭化物を含む。

〔出土遺物〕 床面から第Ⅱ群5-2類土器が、炉から第Ⅱ群5、6類土器が出土した。石器は床面直上から敲磨器類が、堆積土から石鏃、Rフレイクなどが出土した。

〔時期〕 床面出土遺物から縄文時代前期末葉（円筒下層d<sub>3</sub>式期）と考えられる。

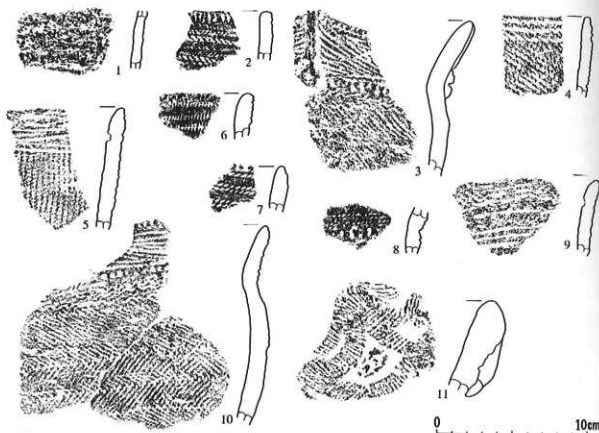
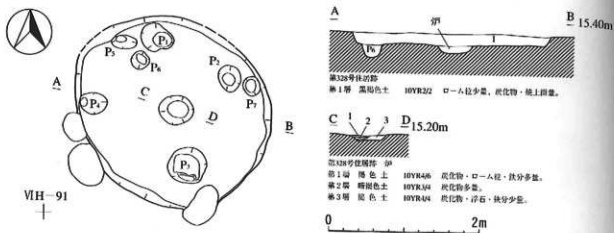
（岡田 康博）

#### 第329号住居跡 (65図～67図)

〔位置と確認〕 VI F・G-89・90に位置し、第Ⅲ層精査中に炉跡と貼り床の一部を確認した。

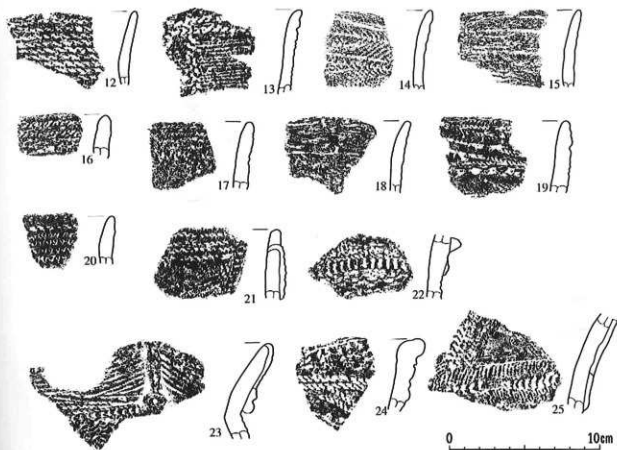
〔平面形・規模〕 炉と床面のみしか確認できなかったため、全体の形状は不明である。残存している床面は長さ3 m 40cm、幅2 m 50cmである。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。残存している床面はほぼ平坦で、堅緻である。



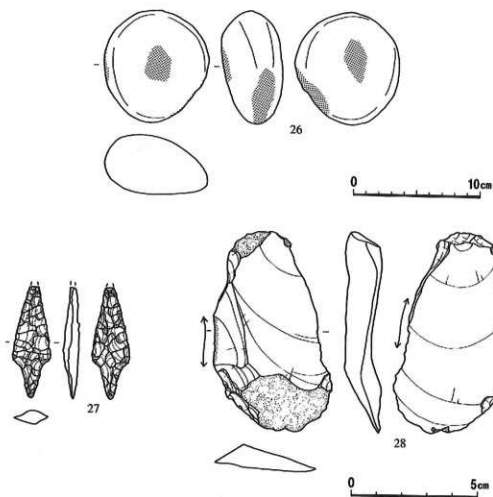
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	328住跡	堆積土	不明			ミカキ		Ⅱ-6	
2	*	*	D部・直縁部、LR・RL押					Ⅱ-5-1	
3	328住	床面	貼付、LR押、刺突	結四、RI		*		Ⅱ-5-2	頸部断面
4	*	床直	LR押、RLR			*		Ⅱ-5-1	
5	*	*	單筋LR押	RLR		*			
6	*	*	*			*			
7	*	*	加木、LR押			*			
8	*	*	刺突、*			*			
9	*	*	葦束第一層7筋筋LR押			*			
10	*	*	刺突、LR押、刺突	結四、結束第一種		*			
11	*	*	貼付(LR押)、1筋筋影押			*		Ⅲ-2	

62図 第328号住居跡・出土遺物 (1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様		内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半				
12	328住	堆積土	LR母胎1			三方弁	Ⅱ-3	
13	*	*	R母胎6A, RLR押			*		
14	*	*	結束第一様、R押			*	Ⅱ-4・5	
15	*	*	*			*		
16	*	*	R押			*	Ⅱ-5-1	
17	*	*	*	結束第一様 (LR, RL)		*		
18	*	*	*	* ( * )		*		
19	*	*	L押、刺突	RL?		*		
20	*	*	縄押			*		
21	*	*	LR押、粘付 (剥落)	結束第一様 (LR, RL)		*		
22	*	*	粘付 (LR押), L押、刺突	粘付?		*	Ⅱ-5-2	
23	*	*	*、LR押、*			*		
24	*	*	LR押			*	Ⅲ-1	
25	*	*	粘付 (LR押), L・R押			*	Ⅲ-2	

63图 第328号住居跡出土遺物 (2)



区版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
26	328住	床直	88	83	49	426.7	安	Ib	S-3		42525
27	*	堆積土	(44)	15	6	(7.6)	珪質	Ab	S-1		53004
28	*	*	80	47	14	42.9	*	Gb			40149

64図 第328号住居跡出土遺物 (3)

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 床面中央北寄りから土器埋設炉が検出された。土器は下半部を使用し、掘り方の規模は直径約25cm、深さ28cmである。

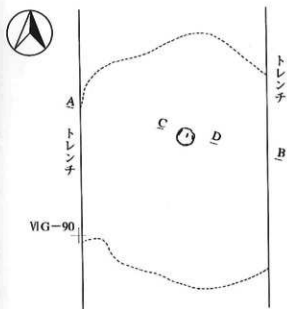
〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群4類である。石器は第3層からスクレイパー類、石核、敲磨器類などが、その他の堆積土から石鏃、スクレイパー類、敲磨器類などが出土した。また、堆積土から土偶が出土した。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）と考えられる。

（岡田 康博）



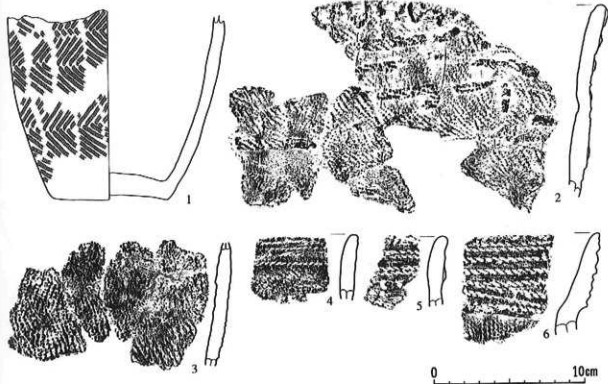


第329号住居跡 敷9床  
第1層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物多量。



第329号住居跡 敷  
第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物多量、ローム粒散在。  
第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物散在。  
第3層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物多量、パリス少量、L.R.散在。  
第4層 明黄褐色土 10YR6/6 炭化物散在。  
第5層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物少量、L.R.散在。

0 2m



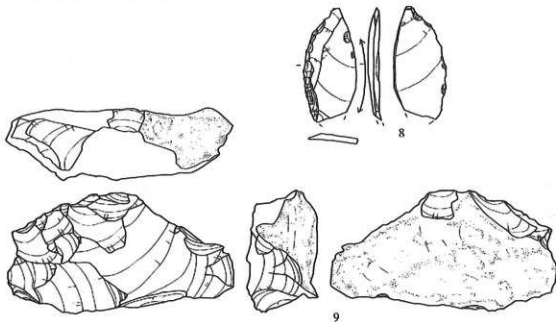
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			11線部	胴部上半	胴部下半				
1	329住跡			碇帯一様 (LR, RL)	碇帯一様 (LR, RL)	ナナツ		Ⅲ-6	
2	○		貼付	RL、貼付				Ⅲ-4	
3	○		L.R.押	碇線帯、RL7		ミガキ		Ⅲ-6	口唇上面LR7押
4	○	埋積土		*	*		*	Ⅱ-5-1	
5	○		R押、貼付 (R押)				*	*	
6	○				RL		*	Ⅱ-6	

65図 第329号住居跡・出土遺物(1)

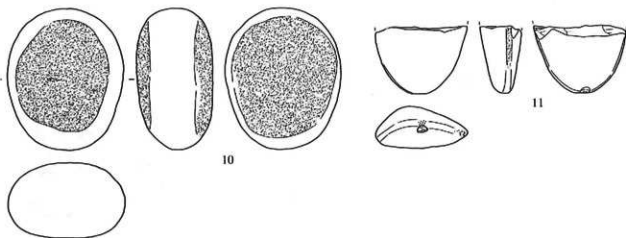


0 10cm

番号	出土地点	層位	計測値 (cm)			文様		種類	備考
			長さ	幅	厚さ	表面	裏面		
7	329住	埋積土	(2.2)	(2.3)	(1.2)	短沈線	短沈線	土質筋部	



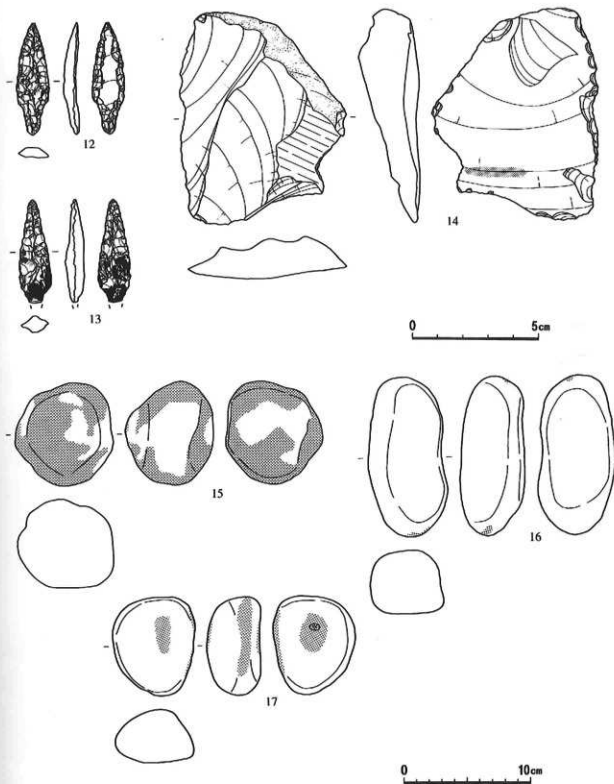
0 5cm



0 10cm

図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	材質	分類	備	考	整理番号
8	329住	3	(45)	21	(5)	(3.7)	珉頁	Ga	S-2		40205
9	*	*	48	90	28	101.0	*	Pa	*		40216
10	*	*	112	92	60	912.0	安	lc	S-1		42529
11	*	*	(53)	(73)	(33)	(131.1)	*	*	S-2		48600

66図 第329号住居跡・出土遺物 (2)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
12	329住	濠積土	45	13	6	2.3	辻瓦	Ab		51877
13	*	*	(41)	13	8	(2.7)	*	*	アスファルト付着	51876
14	*	*	84	67	24	90.6	*	Gia		40215
15	*	*	81	78	70	543.3	チャート	lb		42528
16	*	*	126	62	51	584.1	安	*		42530
17	*	*	77	64	42	292.4	*	*		42527

67図 第329号住居跡出土遺物 (3)

第330号住居跡 (68図)

〔位置と確認〕 VI F-86に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉と貼り床の一部を確認した。

〔平面形・規模〕 炉と床面の一部しか残存しないため、全体の形状は不明である。残存している床面は長さ1 m30cm、幅1 m10cmである。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。床面はほぼ平坦で、貼り床は堅緻である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 土器埋設炉は土器の下半部を使用し、掘り方の規模は直径約20cm、深さ10cmである。堆積土には炭化物、焼土を少量含んでいる。明確な火烧面は検出されなかった。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群6類である。また炉から砥磨器類、堆積土から第Ⅱ群6類、第Ⅲ群6類土器が出土した。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期(前～中葉)と考えられる。

(岡田 康博)

第331号住居跡 (69図)

〔位置と確認〕 VI F-94に位置し、第Ⅲ層精査中に地床炉と床面の一部を確認した。

〔平面形・規模〕 炉と床面の一部しか残存しないため、全体の形状は不明である。残存している床面は炉の周辺のみである。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。残存している床面はほぼ平坦であり、堅緻である。

〔柱穴〕 検出されなかった。

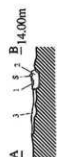
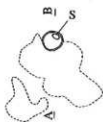
〔炉〕 地床炉が検出された。楕円形の掘り方を持ち、規模は60cm×60cmである。

〔堆積土〕 なし。

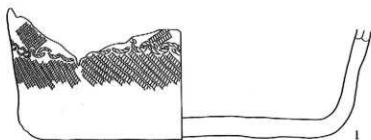
〔出土遺物〕 炉から第Ⅱ群5類、第Ⅲ群1、2類土器が出土した。また、堆積土から軽石製品などが出土した。

〔時期〕 炉出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。

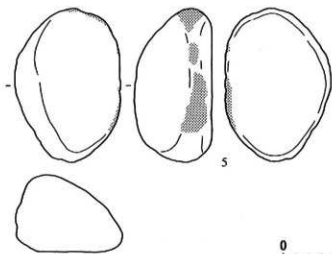
(岡田 康博)



第330号住居跡 炉  
 第1層 明黄色土 H0YR66 L.R.少量。  
 第2層 暗褐色土 H0YR53 L.R.多量、灰化物少量。  
 第3層 褐色土 H0YR44

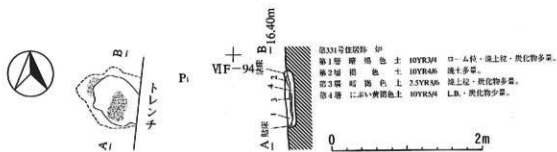


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面溝痕	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	330住炉				結束第一様	ミガキ	蓋文	Ⅲ-6	
2	330住	埋積土		R半結1		*	*	Ⅱ-6	
3	*	*		粗密第一様 (LR, RL)		*	*	*	
4	*	*		RL		*	*	Ⅲ-6	

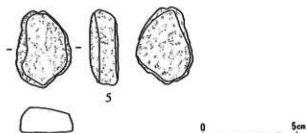


図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	材質	分類	備 考	地理番号
5	330住	炉	121	83	62	770.2	泥	Ⅲ		42531

68图 第330号住居跡・出土遺物



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	331住跡	堆積土	早稲臼押			ミ方キ		Ⅱ-5-1	
2	○	○	L状押			○		Ⅱ-1	
3	○	○	板付(胴部), 板瓦形押			○		Ⅱ-2	
4	○	○		RL		○		Ⅱ-6	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	登録番号
5	331住	堆積土	40	28	15	63.0	軽	Tb		48581

69図 第331号住居跡・出土遺物

### 第332号住居跡 (70図)

〔位置と確認〕 VIF・G-93に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉と柱穴を確認した。

〔平面形・規模〕 炉と柱穴の一部しか残存しないため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 壁、床面とも残存しない。

〔柱穴〕 主柱穴はP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub>の可能性が高い。ピットの深さは、P<sub>1</sub>…26cm、P<sub>2</sub>…19cm、P<sub>3</sub>…14cmである。

〔炉〕 床面ほぼ中央から土器埋設炉を検出した。掘り方の規模は直径約20cm、深さ10cmである。堆積土には焼上を含んでいる。明確な火焼面は検出されなかった。

〔堆積土〕 なし。

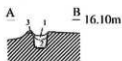
〔出土遺物〕 埋設炉の土器は、図示できなかった。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期と考えられる。

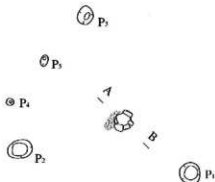
(岡田 康博)



+ VI G-93



第332号住居跡 跡  
 第1層 暗褐色土・10YR3/3 炭土粒多量、L.B.少量。  
 第2層 暗褐色土・10YR3/3 炭土粒、炭化物・L.B.多量。  
 第3層 粘土。



70図 第332号住居跡

## 第333号住居跡 (71図)

〔位置と確認〕 VI F-92に位置し、第Ⅲ層上面で土器埋設炉を確認した。

〔重複〕 第352号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 炉しか残存しないため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 残存しない。

〔柱穴〕 残存しない。

〔炉〕 土器埋設炉の上器は下半部を使用し、規模は20cm×25cmである。堆積土全体に焼土を含む。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群4類である。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）と考えられる。

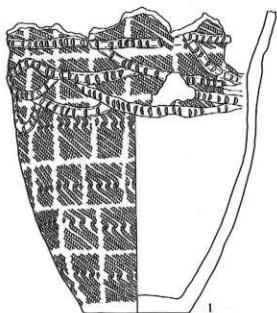
(岡田 康博)



16.00m

第333号住居跡 伊  
 第1層 黄褐色土 IOYK58  
 焼土多量。  
 第2層 紅色土 IOYB44  
 炭化物・焼土多量。  
 第3層 緑黄色土 IOYK54  
 炭化物・焼土多量。

0 2m



0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	333住伊			縞部上半	縞部下半	ミガキ	無文	Ⅲ-4	
2	333住	堆積土	縞部第一層 (U.R, RL)	縞部第一層 (U.R, RL)	縞部第一層 (U.R, RL)	*	*	Ⅱ-2・3	
3	*	*	(*)、*	RL、筋付 (刺み)		*		Ⅲ-3	

71図 第333号住居跡・出土遺物

第334号住居跡 (72図)

【位置と確認】 VIF・G-86に位置し、第Ⅲ層精査中に地床炉と床面の一部を確認した。

【平面形・規模】 炉と床面の一部しか残存しないため、全体の形状は不明である。残存している床面は長さ1m40cm、幅90cmである。

【壁・床面】 壁は残存しない。床面はほぼ平坦であり、堅緻である。

【柱穴】 検出されなかった。

【炉】 掘り方のない地床炉を検出した。規模は40cm×40cmである。堆積土には微細な炭化物、焼土を含んでいる。

【堆積土】 なし。

【出土遺物】 なし。

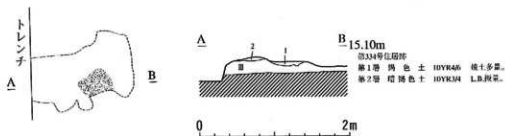
【時期】 検出状況から縄文時代中期中葉と考えられる。

(岡田 康博)





十VI G-86



72図 第334号住居跡

第336号住居跡 (73図)

〔位置と確認〕 VI F-90に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉を確認した。

〔平面形・規模〕 炉しか残存しないため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 残存しない。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 土器埋設炉の土器は下半部を使用し、掘り方の規模は直径約20cm、深さ20cmである。堆積上には微細な炭化物、焼土を含んでいる。明確な火焼面は検出されなかった。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 炉から第Ⅱ群5、6類、第Ⅲ群4、6類土器が出土した。埋設炉の土器は図示できなかった。

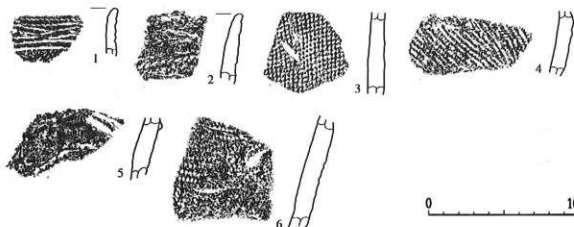
〔時期〕 出土遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。

(岡田 康博)



VIG-91  
+

0 2m



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	336住居	堆積土	LR押	LR		ミ方弁	Ⅱ-5-1		
2	*	*	RL押			*	Ⅱ-5-17	口縁部文様不明	
3	*	*		LR車轆		*	Ⅱ-6		
4	*	*		貼付 (大部分剥落)	LR	*	*		
5	*	*				*	Ⅲ-4		
6	*	*			LR	*	Ⅲ-6		

73図 第336号住居跡・出土遺物

第337号住居跡 (74図)

〔位置と確認〕 VI G-92に位置し、第Ⅲ層精査中に並列した土器埋設炉を確認した。

〔平面形・規模〕 炉跡しか残存しないため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 残存しない。

〔柱穴〕 検出されなかった。

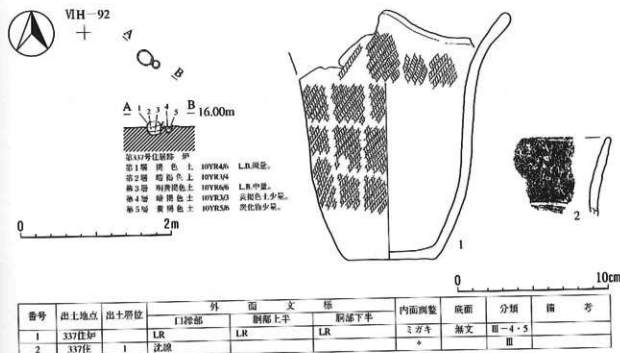
〔炉〕 2基検出された。土器埋設炉の土器はほぼ完形の土器と下半部を使用したもので、掘り方の規模は20cm×10cm、10cm×10cmである。同時期と考えられる。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 埋設炉の上器は第Ⅲ群4・5類である。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期中葉 (円筒上層d～e式期) と考えられる。

(岡田 康博)



74図 第337号住居跡・出土遺物

第338号住居跡 (75図~76図)

〔位置と確認〕 VK-122・123に位置する。第Ⅲ層を掘り中に暗褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第319号住居跡と重複し、本住居跡が古い。北東部は攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 重複により半分を欠失するが、本来の平面形は楕円形になると推定される。規模は長軸2m74cmである。長軸方向は北東-南西である。

〔壁・床面〕 壁高は25~30cmである。床は若干凹凸が見られるが、比較的堅緻である。

〔柱穴〕 第319号住居跡に東側を破壊されているが、2個検出された。深さはP<sub>1</sub>…20cm、P<sub>2</sub>…25cmである。

〔炉〕 P<sub>2</sub>に接する浅い窪みが炉に該当する可能性がある。窪みには第Ⅵ層土が貼られ、かなり堅く踏み締まっている。火焼面は確認されなかった。

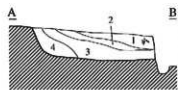
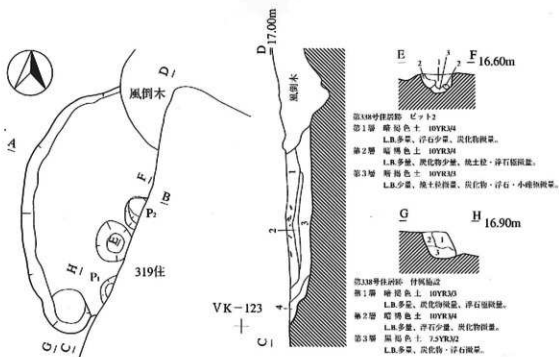
〔その他の施設〕 南側に張り出した付属施設を確認した。浅い鍋底状の底面を有する。堆積土・出土遺物等の目立った特徴はない。

〔堆積土〕 暗褐色土を基調とする堆積土である。2層と3層は遺物が特に多く、人為堆積の可能性がある。

〔出土遺物〕 床面から敲磨器類などが、堆積土から石製品と若干の土器片が出土した。

〔時期〕 検出状況から、縄文時代中期と思われる。

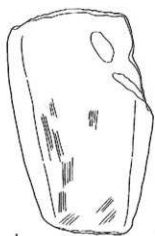
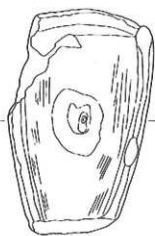
(秦 光次郎)



B 17.00m

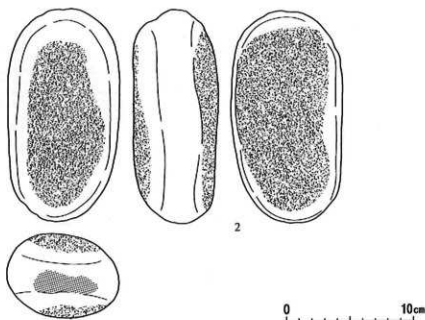
第338号住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.多量、炭化物少量、浮石微量、粘土炭體微量。  
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 L.B.多量、炭化物少量、浮石微量。  
 第3層 暗褐色土 10YR3/4 L.B.多量、浮石少量、炭化物微量。  
 第4層 黄褐色土 10YR3/2 L.B.多量、炭化物、浮石微量。



番号	出土地点	出土層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石質	種	類	整理番号
1	338住	埋積土	153	96	53	399	凝	石製品	類	2774

75図 第338号住居跡・出土遺物(1)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	材質	分類	備	考	整理番号
2	338住	床面	168	89	67	1240.0	石膏	分組	備	考	49030

76図 第338号住居跡出土遺物 (2)

### 第339号住居跡 (77図～81図)

〔位置と確認〕 V J・K-119、V J-118、V K-120に位置する。第VI層で黒色上の落ち込みを確認した。改装が認められるため古い段階から第1期、第2期として記述する。

〔重複〕 第417号住居跡より新しく、第123～125号溝跡と第715号土坑より古い。

〔平面形・規模〕 平面形は長楕円形で、規模は長軸 6 m 66cm、短軸 4 m 26cm、床面積 23.53㎡である。長軸方向は北東-南西である。

〔壁・床面〕 第VI層を掘り込み、壁・床としている。残存壁高は20～30cmである。床面はよく踏み締まっている。炉周辺にみられる貼り床は第VI層土を用いたもので、最大で厚さ 7 cm程である。

〔壁溝〕 住居外周に溝が確認された。幅10～20cm、深さ約 5 cmで、二重に巡っていたと思われる。内側が第1期、外側が第2期に伴う外周溝の可能性はある。

〔柱穴〕 26個検出された。

第1期 P<sub>11</sub>・P<sub>12</sub>・P<sub>13</sub>・P<sub>21</sub>・P<sub>22</sub>は貼り床下より検出され、P<sub>14</sub>・P<sub>15</sub>・P<sub>16</sub>・P<sub>17</sub>は堆積土上面に第2期の床面が形成されていることから、第1期に属するものと思われる。支柱穴は、P<sub>3</sub>・P<sub>4</sub>・P<sub>5</sub>・P<sub>6</sub>・P<sub>7</sub>・P<sub>8</sub> (又はP<sub>9</sub>) の6本と思われる。支柱穴の間隔は平均して約 2 mであるが、中央の2本が若干外に膨らむ形になる。それぞれの深さは、P<sub>3</sub>…44cm、P<sub>4</sub>…63cm、P<sub>5</sub>…46cm、P<sub>6</sub>…58cm、P<sub>7</sub>…42cm、P<sub>8</sub>…16cm、P<sub>9</sub>…60cm、P<sub>10</sub>…51cm、P<sub>11</sub>…33cm、P<sub>12</sub>…10cm、P<sub>13</sub>…38cm、P<sub>14</sub>…15cmである。

第2期 支柱穴はP<sub>1</sub>～P<sub>2</sub>になるとと思われる。配置は第1期と同様であるが、柱穴間の平均距離が 2 m 50cmと、第1期より広くなる。それぞれの深さはP<sub>1</sub>…53cm、P<sub>2</sub>…40cm、P<sub>3</sub>…51cm、P<sub>4</sub>…59cm、

P<sub>1</sub>…60cm、P<sub>2</sub>…74cm、P<sub>3</sub>…48cm、P<sub>4</sub>…59cm、P<sub>5</sub>…29cm、P<sub>6</sub>…24cm、P<sub>7</sub>…29cm、P<sub>8</sub>…37cm、P<sub>9</sub>…30cm、P<sub>10</sub>…59cmである。P<sub>7</sub>からは柱痕跡が確認されている。

[炉] 第1期 長軸線上で2基検出された。共に土器の胴下半部を用いた土器埋設炉である。炉2とした方は、掘り方側面から床面にかけて、焼上面が形成されている。炉1は土器内に火焼面が確認された。P<sub>9</sub>も炉の一部として機能していたかもしれない。1・2それぞれの時期差については把握できなかった。

第2期 第1期の炉を埋めて貼り床を施した後、長径60cm、深さ約20cm掘りくぼめた穴を炉とした様である。貼り床と主柱穴の前後関係が把握できなかったため、各主柱穴配置と炉の対応関係は厳密に特定できなかった。第1期の炉のうち、どちらかが第2期に作う可能性もある。

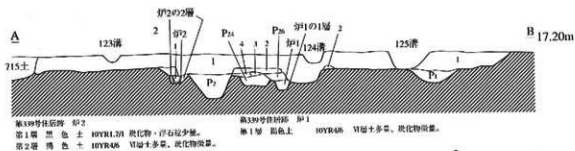
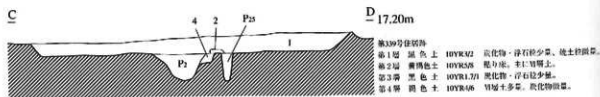
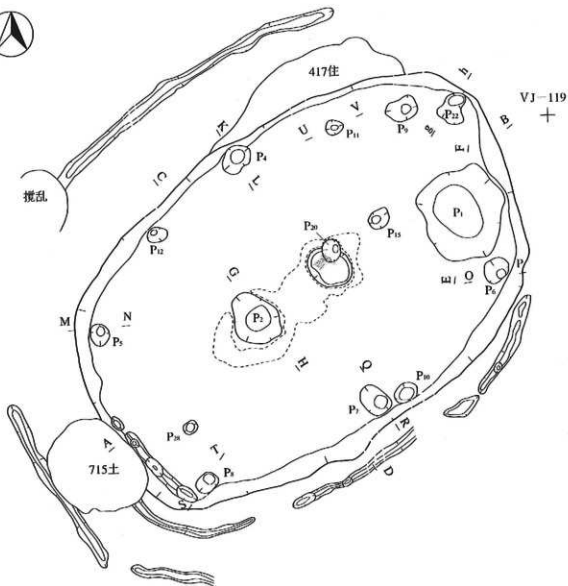
[その他の施設] ビットとして登録したがP<sub>10</sub>・P<sub>11</sub>・P<sub>12</sub>は第1期の、P<sub>13</sub>・P<sub>14</sub>は第2期の住居内土坑と思われる。

[堆積土] 色調は黒色を基調とする。均質で、複数の層に分層できなかった。

[出土遺物] 土器は第1層から主に第Ⅱ群5-1類が出土した。石器は第2層からスクレイパー類、敵磨器類などが、第1層からスクレイパー類、U.フレイク、敵磨器類などが、その他の堆積土からスクレイパー類、R.フレイク、石核、敵磨器類などが出土した。

[時期] 堆積土出土遺物より縄文時代前期末葉（円筒下層d<sub>1</sub>式期）と思われる。

(秦 光次郎)



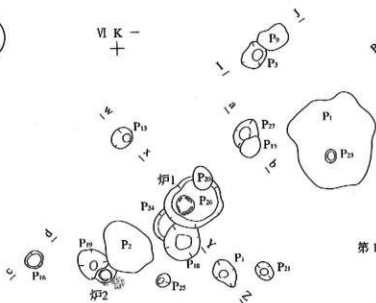
77図 第339号住居跡 (1)





VI K -  
+

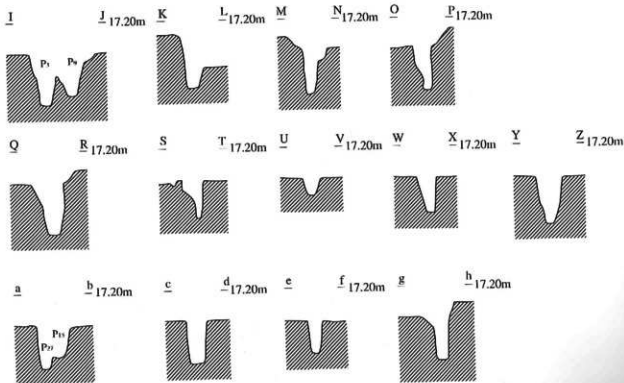
VJ-119  
+



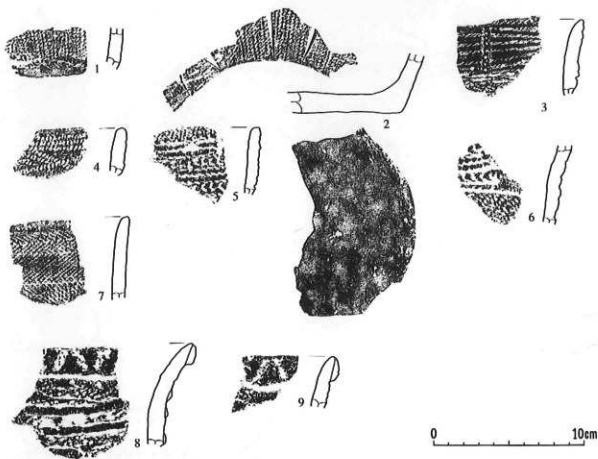
第1期の炉・柱穴



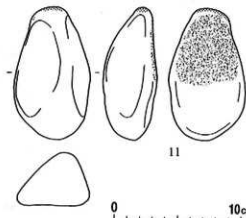
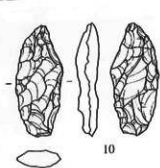
0 2m



78図 第339号住居跡 (2)

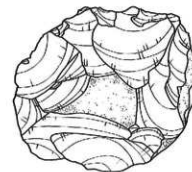
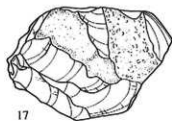
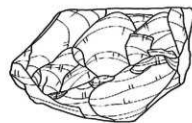
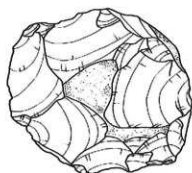
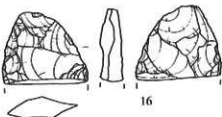
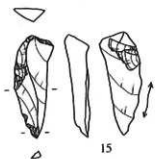
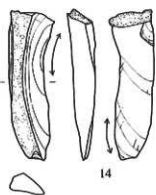
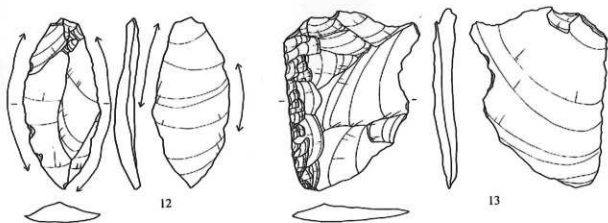


番号	出土地点	出土部位	外面文様			底面	分期	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半			
1	1962ノ下田	珪積土			LR半站1	潤滑	Ⅱ-6	
2	1962ノ下田	*			L半站1	ミガキ	*	
3	339住	1	RL押、割突			*	Ⅱ-5-1	
4	*	*	半筋1押			*	*	
5	*	*	LR押、割突			*	*	
6	*	*	* * *			*	*	
7	*	*	結束第一種			*	*	
8	*	*	RL押	結束第一種7貼付		*	Ⅲ-4	
9	*	*	残存			*	Ⅲ-4・5	



図版番号	出土地点	部位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	材質	分類	備考	整理番号
10	339住	2	44	19	9	8.2	珪質	Ga	石炭未製品?	52103
11	*	*	104	61	42	319.0	安	Ib		43780

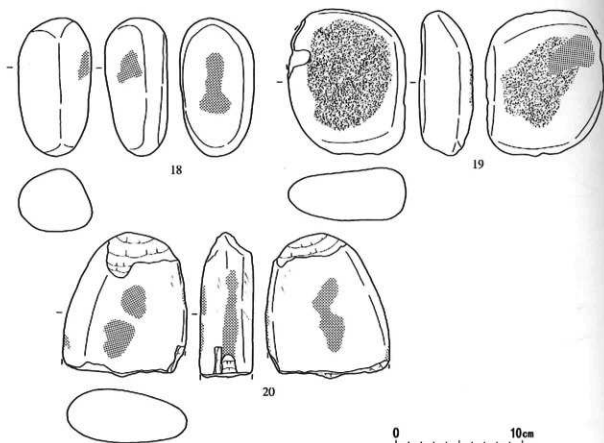
79図 第339号住居跡出土遺物 (1)



0 5cm

図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
12	339住	I	68	31	10	13.0		Gc		40158
13	"	"	71	55	9	30.1	+	Ga		40135
14	"	"	60	18	11	9.3	+	Gc		52104
15	"	堆積土	41	16	9	3.9	+	Gb	石籠?	43014
16	"	"	(29)	(34)	(9)	(8.1)	+	Ga		40288
17	"	"	45	73	66	241.7	+	Fa		40359

80図 第339号住居跡出土遺物 (2)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	材質	分類	備 考	整理番号
18	339住	I	109	58	50	387.7	石質	流		48601
19	○	堆積土	115	(94)	42	(503.0)	滑石	ic		48603
20	○	○	(114)	(98)	(42)	(679.0)	安	ib		48602

81図 第339号住居跡出土遺物 (3)

#### 第340号住居跡 (82図)

〔位置と確認〕 VE・F-120・121に位置する。第VI層で、暗褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形で、規模は長軸 3 m65cm、短軸 2 m80cm、床面積は7.69m<sup>2</sup>である。長軸方向は北東-南西である。

〔壁・床面〕 第VI層を掘り込んで壁とし、第VII層を床としている。壁は残存不良である。

〔壁溝〕 住居跡の周囲で溝が検出された。残存状態は極めて悪い。外周溝となる可能性もある。

〔柱穴〕 確認されなかった。

〔炉〕 中央部より径約30cm程の焼土面が確認された。地床炉と思われる。

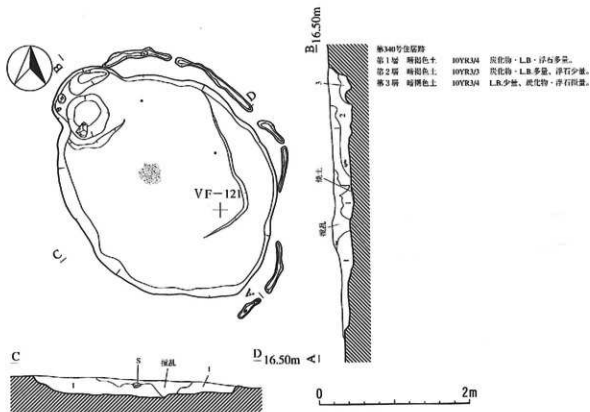
〔その他の施設〕 長軸方向北西に、付属施設が確認された。全体がテラス状に一段高くなっている。地山を削り出してあり、ピットを伴って張り出している。

〔堆積土〕 暗褐色土上体の堆積土である。自然堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕 付属施設の東際から、第III群5類土器が1個体出土しているが、図示できなかった。

[時期] 付属施設出土土器から、縄文時代中期中葉（円筒上層e式期）と思われる。

(秦 光次郎)



82図 第340号住居跡

第341号住居跡 (83図)

〔位置と確認〕 V R・S-121・122に位置する。第V層精査中に円形に黒褐色上の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 長軸 3 m80cm、短軸 3 m66cmの楕円形である。床面積は10.31㎡である。長軸方向は南北である。

〔壁・床面〕 外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁28cm、西壁20cm、南壁 5 cm、北壁20cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱穴〕 中央北寄りから、1個のピットを確認した。深さはP1…24cmである。

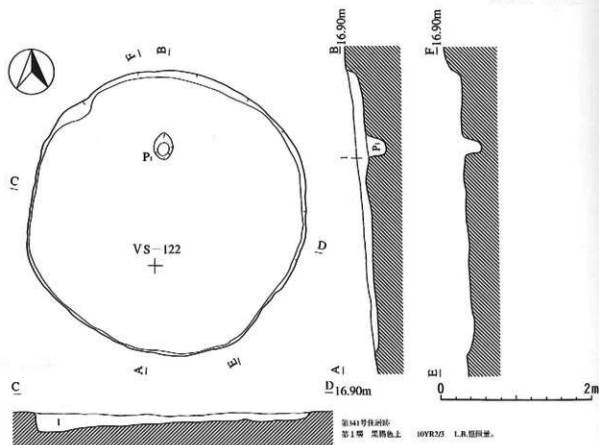
〔炉〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 1層である。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒を微量含む。自然堆積と考えられる。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 形態及び位置関係から、縄文時代中期と思われる。

(小笠原 雅行)



83図 第341号住居跡

第342号住居跡 (84図～85図)

〔位置と確認〕 V S～VI A-120・121に位置する。第V層精査中に楕円形の黒褐色上の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第132・133号溝跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 住居跡南半部が削平されているため、平面形は不明である。規模は長軸 7 m20cm である。

〔壁・床面〕 北西側は外傾しながら直線的に、東側はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は東壁 4 cm、北壁 20cm である。床面はほぼ平坦で堅緻である。

〔柱穴〕 8 個のビットを確認した。深さは P<sub>1</sub>…44cm、P<sub>2</sub>…34cm、P<sub>3</sub>…39cm、P<sub>4</sub>…29cm、P<sub>5</sub>…34cm、P<sub>6</sub>…25cm、P<sub>7</sub>…47 cm、P<sub>8</sub>…30cm である。主柱穴は P<sub>4</sub>・P<sub>5</sub> の 2 本か、P<sub>1</sub>～P<sub>3</sub>・P<sub>6</sub> の 4 本と P<sub>4</sub>・P<sub>5</sub> を合わせた 6 本と考えられる。住居跡北東側の P<sub>4</sub>・P<sub>5</sub> は出入口に関わるものかもしれない。

〔炉〕 床面のほぼ中央に地床炉を検出した。掘り方の規模は 86cm×64cm、深さ 16cm である。堆積土には焼土が含まれる。

〔堆積土〕 4 層に分層した。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒・炭化物を微量含む。自然堆積の可能性が高いと考えられる。

〔出土遺物〕 床面から第Ⅱ群 6 類土器、石匙、堆積土から第Ⅱ群 3 類土器、磨製石斧、敲磨器類などが出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から縄文時代前期中葉（円筒下層 b 式）に近い時期と考えられる。

（小笠原 雅行）

#### 第343号住居跡（86図～91図）

〔位置と確認〕 VII・I-124 に位置する。第 V 層精査中に楕円形に黒褐色土上の落ち込みを確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は隅丸方形で規模は長軸 3 m56cm、短軸 2 m84cm、床面積は 7.84m<sup>2</sup> である。長軸方向は東西である。

〔壁・床面〕 壁は北側ではほぼ垂直に、それ以外は外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁 6 cm、西壁 21cm、南壁 7 cm、北壁 13cm である。床面はほぼ平坦で堅緻である。

〔柱穴〕 2 個のビットを確認した。深さは P<sub>1</sub>…9 cm、P<sub>2</sub>…6 cm と浅い。P<sub>1</sub> は付属施設に関連する可能性がある。

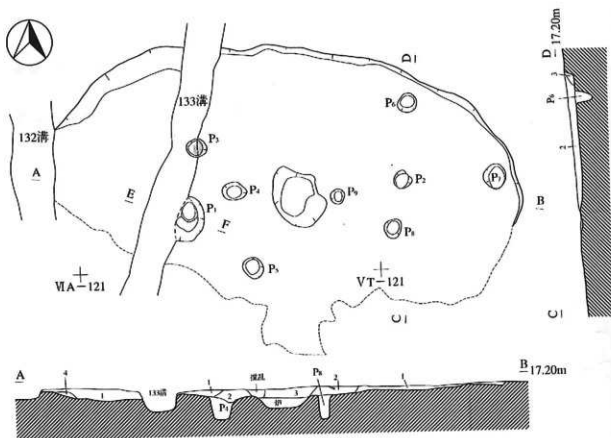
〔炉〕 床面の中央で土器埋設炉を検出した。掘り方規模は 59cm×52cm、深さ 28cm である。土器内堆積土中には焼土・炭化物が含まれる。

〔堆積土〕 8 層に分層した。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒・炭化物が含まれ、部分的にはブロック状に入る。堆積状況から人為的な埋め戻しである可能性が高い。

〔出土遺物〕 床面・炉の周辺・堆積土から第Ⅲ群 4 類土器が出土した。石器は床面からスクレイパー類、R. フレイク、敲磨器類などが、堆積土から石鏃、スクレイパー類などが出土した。また、床面直上からミニチュア土器が出土した。埋設炉の土器は図示できなかった。

〔時期〕 炉周辺から出土した遺物から縄文時代中期中葉（円筒上層 d 式期）と考えられる。

（小笠原 雅行）

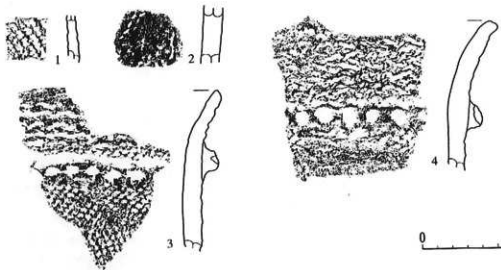


第342号住居跡部

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・L.B.少量。  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・L.B.少量。  
 第3層 黒色土 10YR2/0 炭化物多量、L.B.少量。  
 第4層 黒褐色土 10YR2/2 L.B.少量。

第342号住居跡 ビット1

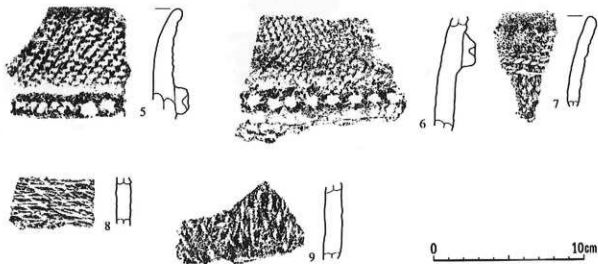
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・L.B.少量。  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・浮石散見。



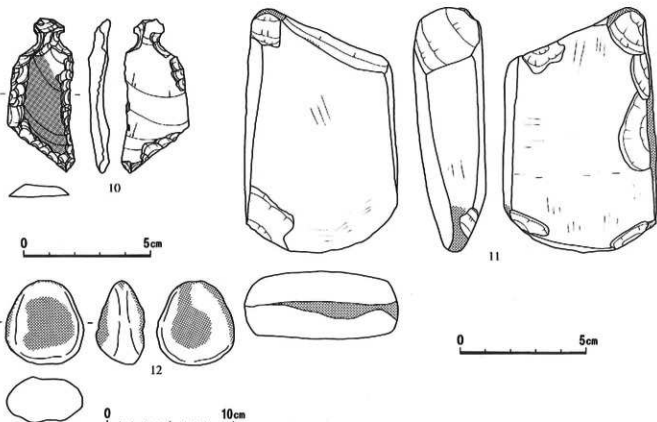
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調査	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	342住	床面		RL		ミガキ		II-6	
2	342住D12	堆積上		L単結17		*			*
3	342住	*	R結回	隆帯 (円形刺突)		*		II-3	*
4	*	*	*	* (○)、RLR		*			*

84図 第342号住居跡・出土遺物(1)





番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
5	342住	堆積上	RLR	胴部 (円形刺突)		ミカキ		II-3	
6	*	*	*	* ( * )		*		*	
7	*	*	RL押?			*		*	
8	*	*	R単純S			*		*	
9	*	*			RRL	*		*	

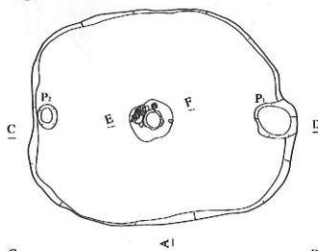


図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
10	342住	灰層	61	26	8	11.5	雑質	Cu		52106
11	*	堆積土	97	61	27	284.9	緑面	Ha		42532
12	*	*	66	61	38	155.1	安	Ib		42533

85図 第342号住居跡出土遺物 (2)

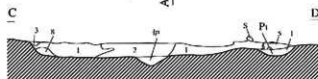


VI1-124  
B1



- 第343号包埋件
- 第1層 黒色土 HOYR21  
L.R.・ローム粒中量、炭化物少量、磁土粒微量。
  - 第2層 黒褐色土 HOYR22  
炭化物中量、パリス・L.R.少量、磁土粒微量。
  - 第3層 黒褐色土 HOYR23  
ローム粒・L.R.中量、パリス微量。
  - 第4層 黒色土 HOYR24  
ローム粒中量、炭化物・パリス微量。
  - 第5層 黒褐色土 HOYR25  
に少し黄褐色土中量、パリス少量、炭化物・磁土粒微量。
  - 第6層 黒褐色土 HOYR22  
ローム粒・L.R.中量、炭化物・パリス微量。
  - 第7層 黒褐色土 HOYR23  
ローム粒・L.R.多量、炭化物・磁土・パリス微量。
  - 第8層 黒褐色土 HOYR23  
ローム粒・L.R.中量、パリス微量。

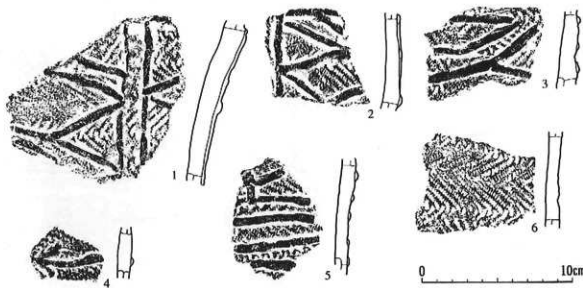
0 2m



- 第343号住居跡 ビット1
- 第1層 黒褐色土 HOYR22 黄褐色土中量、炭化物微量。



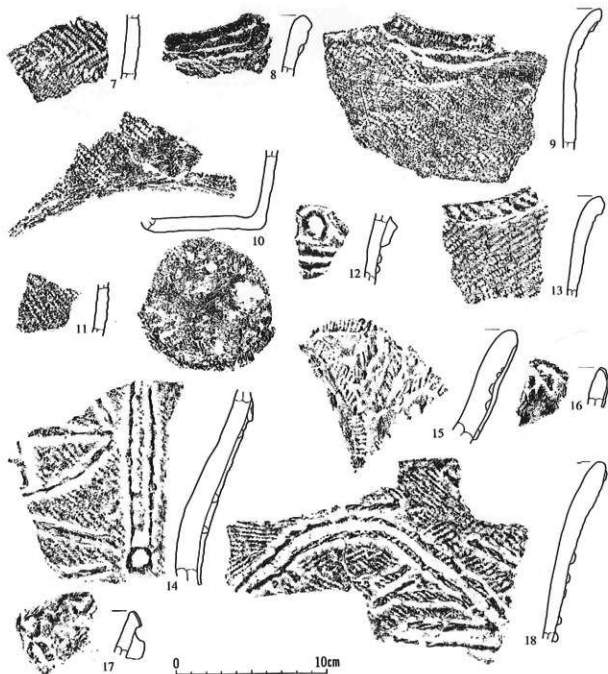
- 第343号住居跡 伊
- 第1層 黒褐色土 HOYR 炭褐色土中量、炭化物・磁土粒・骨粉微量。
  - 第2層 黒褐色土 HOYR 炭化物少量、明黄褐色土微量。
  - 第3層 黒褐色土 HOYR 明黄褐色土中量、炭化物微量。



0 10cm

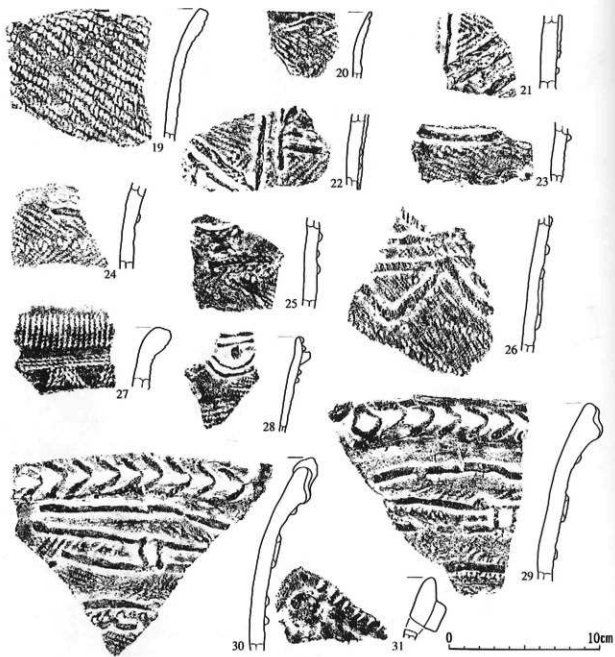
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	343住	伊I期直	結束第一種、貼付			ミガキ	Ⅱ-4	1~7同一団体	
2	*	*		結束第一種、貼付		*	*		
3	*	*		*		*	*		
4	*	*		*		*	*		
5	*	*		*		*	*		
6	*	*		結束第一種		*	*		

86図 第343号住居跡・出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
7	343住	炉周辺		結重第一様		2方弁		Ⅲ-4	
8	*	*	口唇貼付による肥厚	RL		*		*	8と同一個体
9	*	*	*、筋み	*		*		*	
10	*	*			RL	*	無文	Ⅲ-6	
11	*	*				*		*	
12	*	床面	貼付			*		Ⅲ-4	
13	*	*	RL押	LR		*		Ⅲ-4・5	
14	*	*		RL、貼付		*		Ⅲ-4	
15	*	床底	貼付(L押)、刺突			*		Ⅲ-3	
16	*	*	* (R押)			*		Ⅲ-4	
17	*	*	貼付			*		*	
18	*	*	結重第一様、筋目瓦押			*		*	

87図 第343号住居跡出土遺物(2)



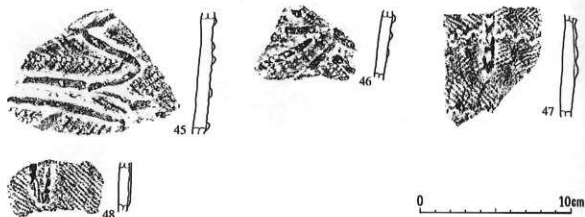
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
19	343住	球直	RL			ミ方キ		Ⅱ-6	
20	*	*				*	*		
21	*	*		透かし一様、貼付(説明)		*	*	Ⅱ-4	
22	*	*		＊、貼付		*	*		
23	*	*		＊、＊		*	*		
24	*	*		＊、＊		*	*		
25	*	*		＊、＊ (L押)		*	*		
26	*	*		＊、＊ (＊)		*	*		
27	*	堆積土	口唇L押、口唇&R押			*	*	Ⅱ-1	
28	*	*	貼付、L7押	RL		*	*	Ⅱ-4	
29	*	*	貼付	透かし一様 (L、L&、L&)		*	*		30と同一個体
30	*	*		＊ (＊)、＊		*	*		
31	*	*		＊、新木、貫通孔		*	*		

88图 第343号住居跡出土遺物 (3)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
32	343住	堆積土	RL、貼付			ミガキ		Ⅱ-4	
33	○	○	刻み、○	RL、貼付		○		○	
34	○	○	貼付	○、○		○		○	
35	○	○	刻み	○、○		○		○	
36	○	○	RL、貼付(L押)	○、○(L押)		○		○	
37	○	○	LR、○(R押)			○		○	
38	○	○	貼付	LR		○		○	
39	○	○	RL押、筋束部一様			○		○	
40	○	○	筋束部一様(LR、RL)			○		○	
41	○	○	RL			○		○	
42	○	○		筋束部一様、貼付		○		○	
43	○	○		筋束部一様、貼付(束部)		○		○	
44	○	○		○、○(○)		○		○	

89圖 第343号住居跡出土遺物(4)

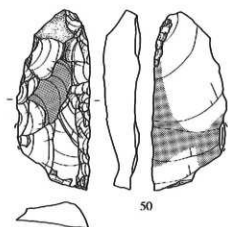


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
45	343住	壇上		結索第一條、貼付		ミガキ		Ⅲ-4	
46	*	*		RL?、貼付 (RL?押)		*		*	
47	*	*		結索第一條、見付 (別表)		*		*	
48	*	*		RL、貼付		*		*	

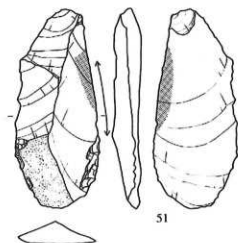


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
49	343住	床直			無文	ナシ	無文	ミニチュア	

90図 第343号住居跡出土遺物 (5)

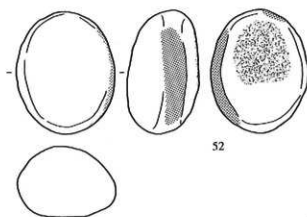


50

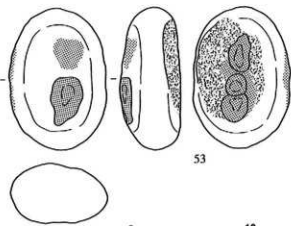


51

0 5cm

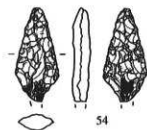


52

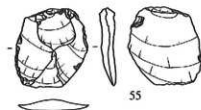


53

0 10cm



54



55

0 5cm

図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
50	343住	床面	71	(29)	14	(28.9)	珪頁	Ga			52107
51	*	*	79	34	11	24.5	*	Gb			52108
52	*	*	97	77	56	558.3	安	Ib			42535
53	*	*	112	77	48	503.5	*	Ia			42534
54	*	床積土	(37)	18	7	(3.9)	珪頁	Ab	アスファルト付着		51889
55	*	*	31	29	6	4.4	*	Ga			41552

91図 第343号住居跡出土遺物 (6)

第344号住居跡 (92図～93図)

〔位置と確認〕 VI A-121に位置する。第V層精査中に楕円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第132・133号溝跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 南側は削平され、平面形は不明確であるが、東西に長軸を持つ楕円形と考えられる。長軸2 m90cm、短軸2 m45cmである。

〔壁・床面〕 壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は西壁10cm、北壁12cmである。床面はほぼ平坦で堅緻である。

〔柱穴〕 北西壁側からピットを1個確認した。深さはP<sub>1</sub>…18cmである。それ以外に柱穴は確認できなかった。

〔炉〕 床面の中央で周堤炉を検出した。周堤は一部攪乱されているが、幅20cm、高さ5cmで掘り方の周囲を巡る。掘り方の規模は25cm×21cm、深さ6cmである。堆積土中には焼土が混入する。

〔その他の施設〕 東壁際から付属施設と思われるピットを確認した。土堤状の盛り上がり等はないが、65cm×55cm、深さ16cmの掘り方である。

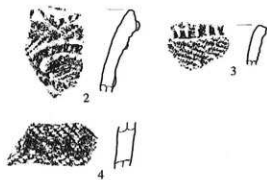
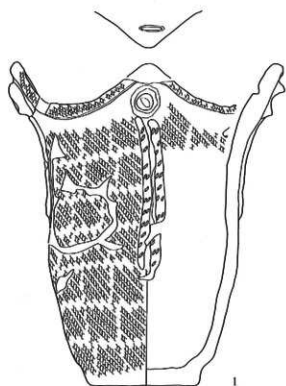
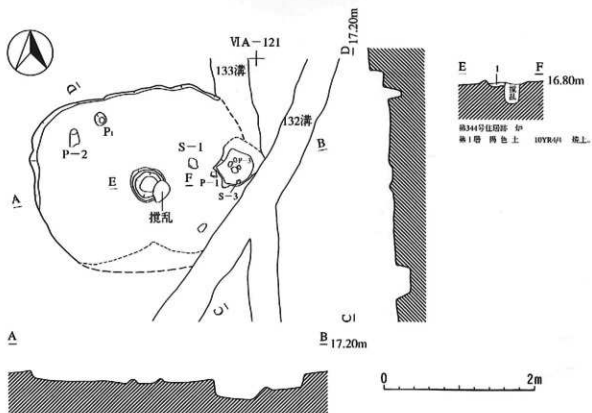
〔堆積土〕 不明である。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群4類を主体とする土器が出土した。また床面から敲磨器類などが出土した。

〔時期〕 床面及び堆積土出土遺物から、縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）と思われる。

(小笠原 雅行)

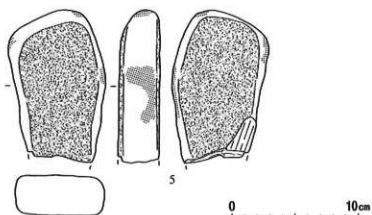




0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調査	底面	分類	備考
			1趾部	胴部上半	胴部下半				
1	344住	地横上	RL、環状貼付	貼付、RL押、RL	RL	ミガキ	無文	Ⅲ-4・5	P-2
2	*	*	貼付、R押	LR、貼付		*		Ⅲ-4	
3	*	*	刺本	RL		*		Ⅲ-4・5	
4	*	*			RL			Ⅲ-6	

92図 第344号住居跡・出土遺物(1)



四原番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
5	344住	床面	(120)	77	(32)	(506.5)	安	lc			42537

93図 第344号住居跡出土遺物 (2)

#### 第345号住居跡 (94図～95図)

〔位置と確認〕 V T-123に位置する。第V層精査中に楕円形の黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第131号溝跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形で規模は長軸 3 m20cm、短軸 2 m70cmである。床面積は推定6.37 m<sup>2</sup>である。長軸方向は東-西である。

〔壁・床面〕 壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。南～南東は垂直に立ち上がる。壁高は東壁 5 cm、西壁10cm、南壁 9 cm、北壁20cmである。床面はほぼ平坦で堅緻である。

〔柱穴〕 住居跡北側から ビットを 2 個確認した。深さは P.1…14cm、P.2… 8 cmである。それ以外のビットは確認できなかった。主柱穴配置は不明である。

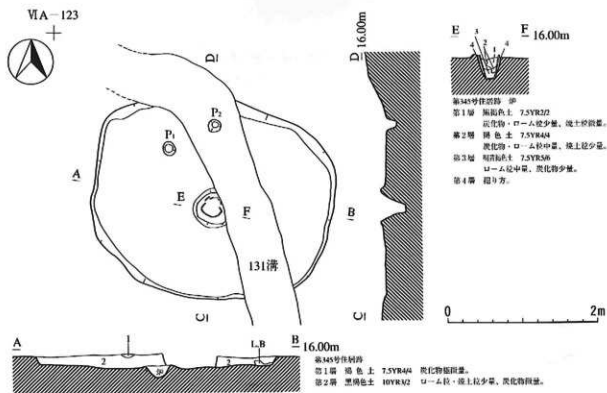
〔炉〕 ほぼ中央で土器埋設炉を検出した。土器の周囲には幅10～15cm、高さ 6 cmの周堤が巡る。周堤は掘り残してある。内部の掘り方の規模は45cm×41cm、深さ28cmである。土器内堆積上には焼土・炭化物が微量に含まれる。

〔堆積土〕 1層である。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒・炭化物が微量含まれる。自然堆積の可能性が高いと考えられる。

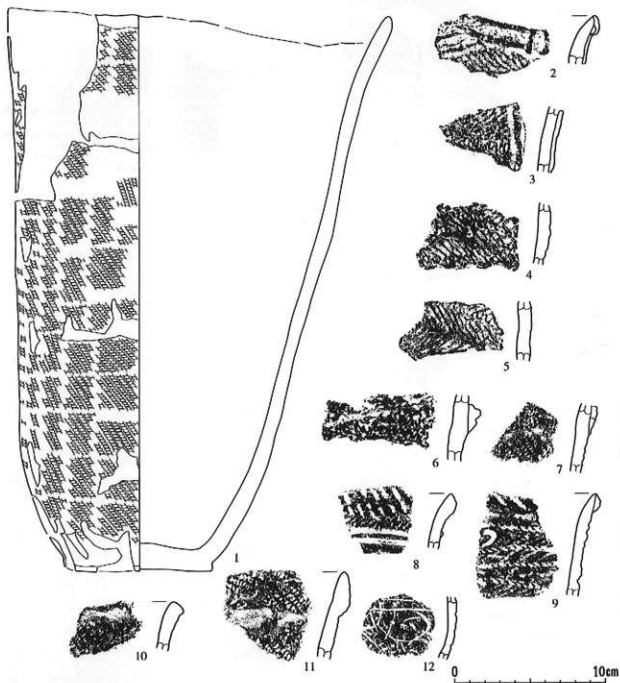
〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群 6類である。また、床面から第Ⅲ群 4類、堆積土から第Ⅲ群土器が出上した。

〔時期〕 床面出土遺物から縄文時代中期中葉 (円筒上層 d式期) に近い時期と考えられる。

(小笠原 雅行)



94図 第345号住居跡



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	345住居		LR	LR	LR	ミ方キ	無文	Ⅱ-6	
2	345住	床面	貼付、LR押	結束第一條		*	*	Ⅱ-4	2~5同一個体
3	*	*	*	*	貼付	*	*	*	
4	*	*	*	結束第一條		*	*	*	
5	*	*	*	*		*	*	*	
6	*	堆積土	*	隆帯 (RL押)、RL		*	*	Ⅱ-2	
7	*	*	貼付 (L押)	RL?		*	*	Ⅲ-1	
8	*	*	L押	貼付		*	*	Ⅲ-4	
9	*	*	*	LR、LR押		*	*	Ⅲ-5	
10	*	*	貼付 (洞落)	RL		*	*	Ⅲ-6	
11	*	*	RL			*	*	*	
12	*	*		沈穢		*	*	Ⅲ-11	

95図 第345号住居跡出土遺物

第346号住居跡 (96回)

〔位置と確認〕 VI G-119・120に位置する。第VI層で床面を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 規模は推定で長軸 2 m34cm、短軸 1 m70cm、床面積約4.4㎡である。長軸方向は北東—南西である。

〔壁・床面〕 壁は殆ど残存しない。第VI層を床面とし、若干の凹凸があるものの、堅緻である。

〔柱穴〕 なし。

〔炉〕 中央より約 8 cm掘りくぼめた施設が検出された。径約30cmで、焼土面は確認されなかったが地床炉と考えられる。土器片が若干伴っていた。

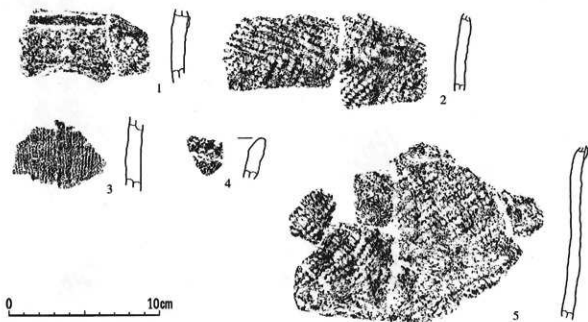
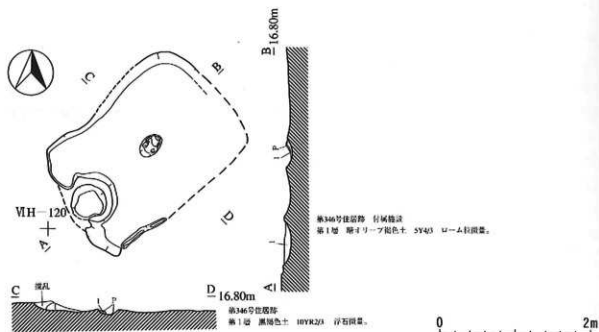
〔その他の施設〕 南東壁際で、周堤を持つ付属施設が検出された。地山を掘り残したもので、床面からの高さ約 7 cmである。

〔堆積土〕 暗褐色土を基調とし、自然堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕 炉・堆積土から第Ⅲ群 4 類土器が出土した。

〔時期〕 堆積土及び炉内出土遺物により、縄文時代中期中葉 (円筒上層 d 式期) と思われる。

(秦 光次郎)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様		内面凹壁	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部				
1	346住居	埋積土		胴部上半			Ⅲ-4	
2	○	○		結束第一種、貼付	ミ方斗	○	Ⅲ-6	
3	346住	○		結束第一種	○	○	Ⅱ-6	
4	○	○	鹿押?	L単筋1			Ⅲ-4・5	
5	○	○		結束第一種、貼付	○	○	Ⅲ-4	

96図 第346号住居跡・出土遺物

第347号住居跡 (97図～100図)

【位置と確認】 VO-118・119に位置する。第V層掘り中に、暗褐色土の落ち込みと遺物の集中域を確認した。

【重複】 なし。

【平面形・規模】 平面形は楕円形で、規模は長軸 2 m94cm、短軸 2 m40cmである。床面積は4.63m<sup>2</sup>である。長軸方向は北東―南西である。

【壁・床面】 第V層を掘り込んで壁とし、第VI層上面を床面としている。残存壁高は最大で10cmである。床面は堅緻である。土器埋設炉の周囲には、第VI層を用いた貼り床が施されている。厚さ5cm未満である。

【壁溝】 幅約15cmで、深さ約16cmの壁溝が検出された。径約10cmの小ピットが中に8個不規則に配置されている。

【柱穴】 床面上に6個確認された。それぞれの深さはP<sub>1</sub>…12cm、P<sub>2</sub>…17cm、P<sub>3</sub>…25cm、P<sub>4</sub>…27cm、P<sub>5</sub>…23cm、P<sub>6</sub>…14cmである。配置に規則性は見られず、柱痕跡も確認されなかった。

【炉】 ほぼ中央部より土器埋設炉が検出された。口径36cmの深鉢の上半分を約50cm埋め込んでいる。掘り方は長径が約50cm、深さが約30cmである。焼上面は、内部を第VI層土で約20cm埋めた面に形成されている。炉の南西側の貼り床下にも焼土が確認されたため、炉の改築があったものと思われる。

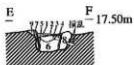
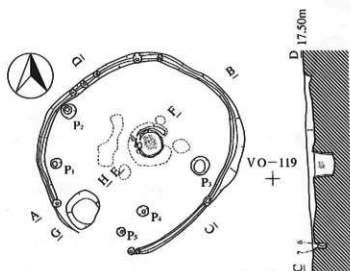
【その他の施設】 長軸上南東の壁際に、浅い窪みが検出された。付属施設と思われる。長さ約50cmの浅い不整形の掘り込みで、断面形は鍋底状である。

【堆積土】 暗褐色土を基調とするほぼ同質の土層よりなる。人為堆積によるものと思われる。

【出土遺物】 埋設炉の土器は第Ⅲ群4類である。堆積土からも主に第Ⅲ群4類土器が出土した。また、炉から玉髄の原石などが出土した。

【時期】 堆積土及び炉内の出土土器より、縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）と思われる。

(秦 光次郎)



- 第347号住居跡 跡
- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 土-ム粒、粘土粒多量、炭化物、浮石少量。
- 第2層 褐色土 7.5YR4/6 粘土粒多量、土-ム粒少量、炭化物、浮石。
- 第3層 黄褐色土 10YR5/8 粘土粒多量、小礫混在。
- 第4層 黑褐色土 10YR3/2 土-ム粒、浮石少量。
- 第5層 褐色土 10YR4/6 土-ム粒、浮石少量、炭化物混在。
- 第6層 黄褐色土 10YR5/8 土-ム粒少量、V層土多量、炭化物、L.B.混在。
- 第7層 褐色土 10YR4/4 土-ム粒少量、浮石混在。
- 第8層 黑褐色土 10YR3/2 土-ム粒多量、浮石、小礫混在、L.B.混在。
- 第9層 黄褐色土 10YR5/8 土-ム粒、浮石少量、小礫混在。

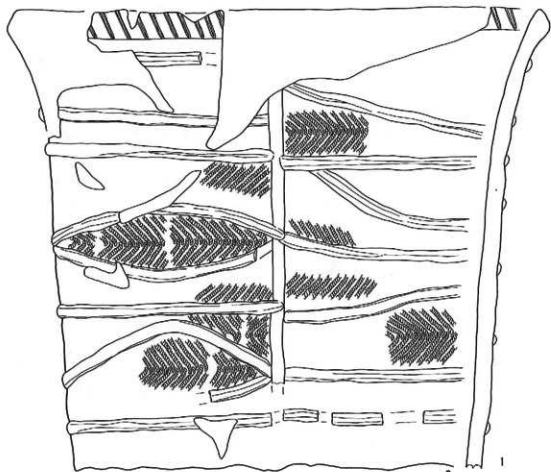


- 第347号住居跡
- 第1層 黄褐色土 10YR5/3 土-ム粒少量、炭化物混在、粘土粒、浮石混在。
- 第2層 黄褐色土 10YR5/3 土-ム粒少量、炭化物、浮石混在。
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 土-ム粒多量、炭化物、浮石混在。
- 第4層 黑褐色土 10YR3/2 土-ム粒混在、炭化物、浮石混在。
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 土-ム粒多量、炭化物混在。
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 土-ム粒多量、炭化物混在。
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 土-ム粒多量、浮石混在。



- 第347号住居跡 付属施設
- 第1層 黑褐色土 10YR3/2 土-ム粒、浮石多量、炭化物混在。
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 土-ム粒、浮石多量、炭化物混在。

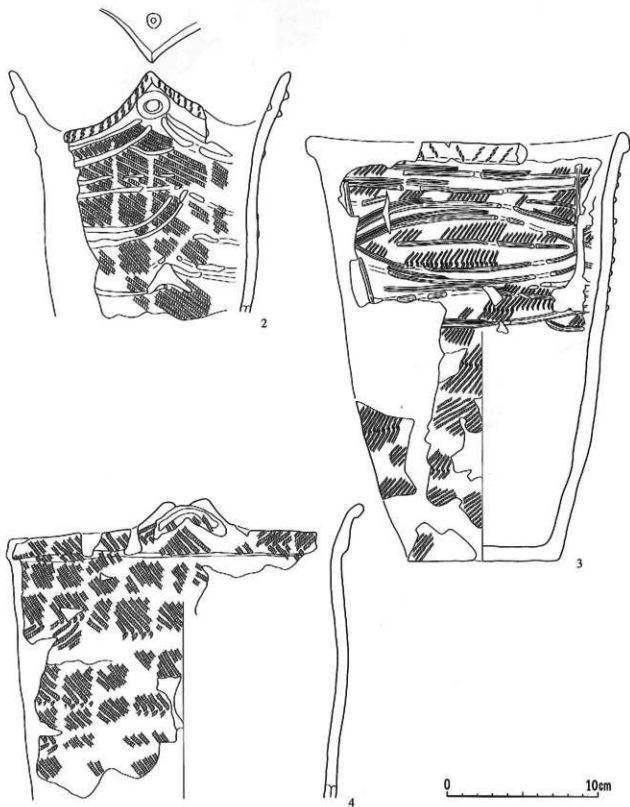
0 2m



番号	出土地点	出土層位	外 画 文 様			内面調整	成画	分類	番号
			口縁部	胴部上平	胴部下平				
1	347住居		刻み	結束第一區、貼付		シ方キ		Ⅲ-4	

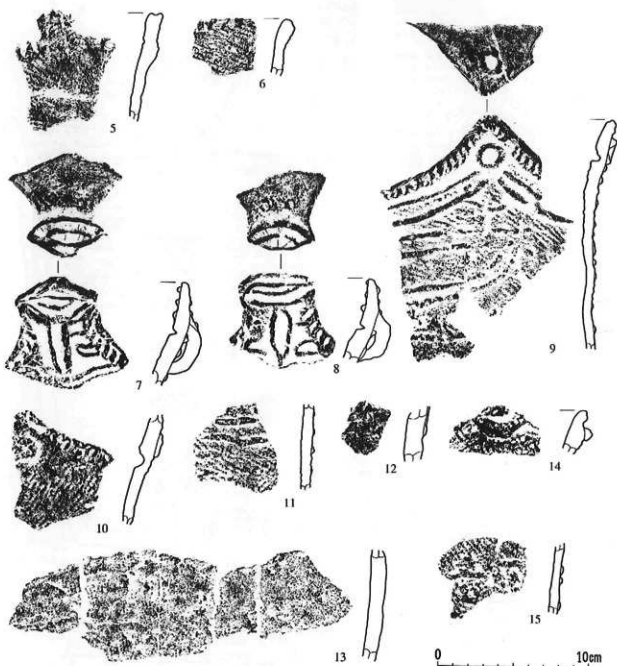
97図 第347号住居跡・出土遺物(1)





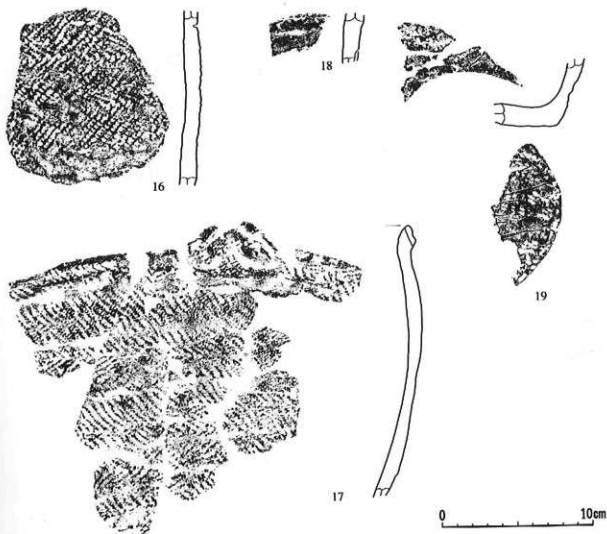
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口部部	胴部上半	胴部下半				
2	347住	1	RL押、襷状貼付	RL、貼付		三方弁	皿-4	P-1	
3	*	*	LR押	結束第一種、貼付		*	黒文	*	
4	*	礎石面	結束第一種、貼付	結束第一種			*	P-3	

98図 第347号住居跡出土遺物(2)

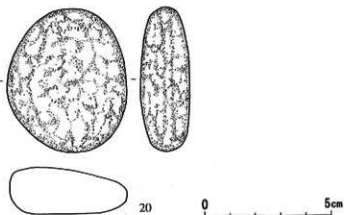


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
5	347住跡		RL押	RL		ミガキ	Ⅱ-4・5		
6	*		*	*		*			
7	347住	1	貼付			*	Ⅱ-4	8と同一個体	
8	*	*	*			*			
9	*	*	*(LR押)	RL、貼付		*			
10	*	*	*(*)	LR		*	Ⅱ-4・5		
11	*	*		RL、貼付		*	Ⅱ-4		
12	*	*		貼付		*			
13	*	*		無文		*	Ⅱ-6		
14	*	埋積土	貼付(L押)	LR		*			
15	*	*		RL、貼付		*			

99図 第347号住居跡出土遺物 (3)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
16	347住	塚積土		筋束第一様 (L.R, RL)		ミ分斗		Ⅲ-6	
17	〃	塚積土	貼付 (RL), RL	RL		〃		Ⅲ-4・5	
18	〃	〃	R押?			〃			
19	〃	〃			RL	〃	縄文?	Ⅲ-6	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
20	347住甲	塚積土	57	48	19	77.8	珉	Pb		49029

100图 第347号住居跡出土遺物 (4)

第348号住居跡

〔位置と確認〕 VID-89に位置する。第Ⅲ層精査中に土器埋設炉を確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 検出されなかった。

〔柱穴〕 不明である。

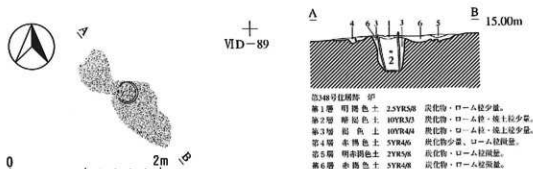
〔炉〕 土器埋設炉である。径44cm、深さ47cmの掘り方に、口径28cm、高さ50cmの土器が埋設されている。土器内堆積土には焼上・炭化物が含まれる。また、土器の周囲約1m60×50cmの範囲に焼土が確認された。

〔堆積上〕 検出されなかった。

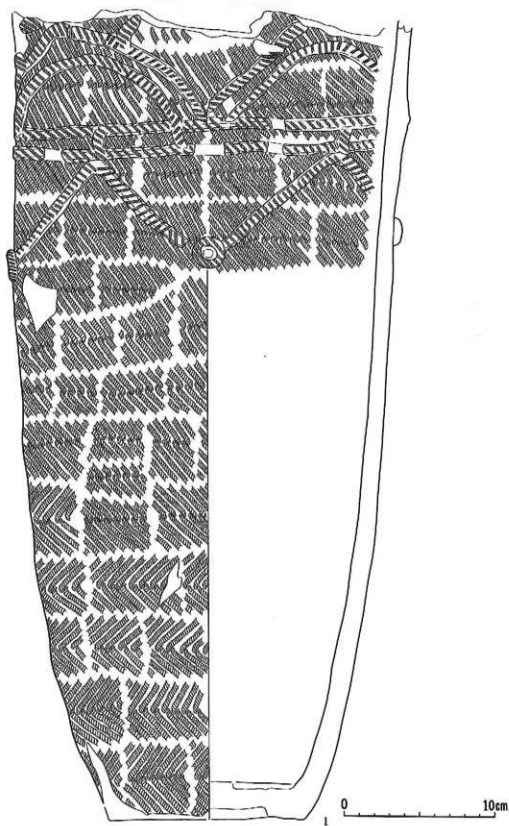
〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群4類である。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）である。

(中村 哲也)



101図 第348号住居跡



番号	出土地点	出土層位	外面文様		内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半 結家第一層(L.R.RL)				
1	348住	伊		結家第一層(L.R.RL)	四方巾	無文	田-4	

102図 第348号住居跡出土遺物

第349号住居跡（103図～105図）

〔位置と確認〕 VR・S-122・123に位置する。第323号住居跡精査中に半円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第323号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 全体の半分ほどの検出で平面形は不明である。長径約 3 m40cmの不整形ないし楕円形と思われる。

〔壁・床面〕 外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は西壁29cm、北壁41cmである。床面はほぼ平坦で堅緻である。炉西側で貼り床が確認された。

〔柱穴〕 8個のピットを確認した。深さはP<sub>1</sub>…13cm、P<sub>2</sub>…17cm、P<sub>3</sub>…23cm、P<sub>4</sub>…31cm、P<sub>5</sub>…27cm、P<sub>6</sub>…29cm、P<sub>7</sub>…34cm、P<sub>8</sub>…16cmである。主柱穴配置は不明である。また、P<sub>6</sub>は貼り床を除去後に確認した。

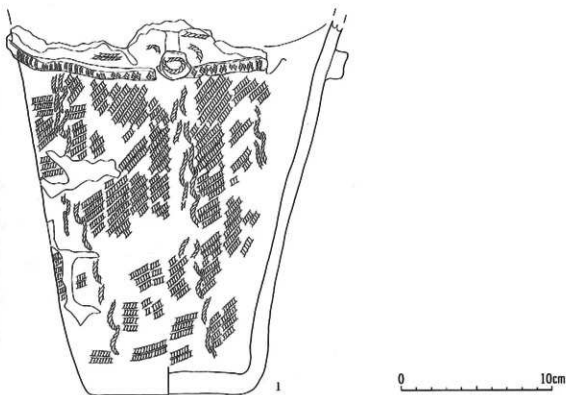
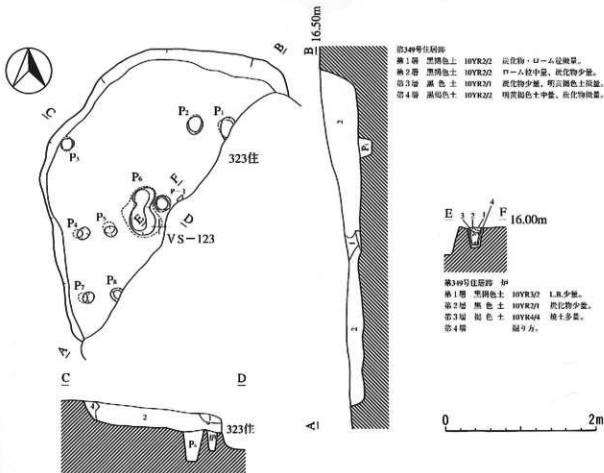
〔炉〕 床面の中央付近で土器埋設炉を検出した。掘り方規模は径21cm、深さ29cmである。土器内堆積土最下層は焼土層である。

〔堆積土〕 4層に分層した。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒・炭化物を含む。人為堆積か自然堆積か判断できない。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群1～3類である。堆積土からは第Ⅲ群4・5類土器が出土した。また、土鍋の胴部が出土し、北盛土から出土した頭部と接合した。

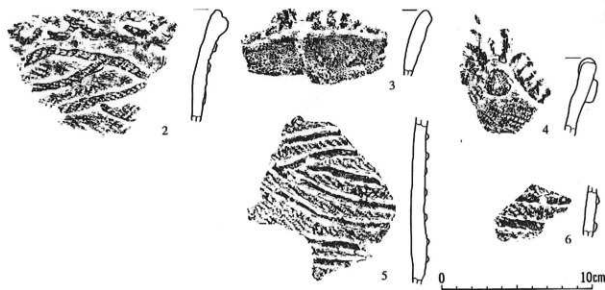
〔時期〕 炉に使用された土器から、縄文時代中期前半（円筒上層 a～c 式期）である。

（小笠原 雅行）



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	349住居		点付、R押	LR、R結面		シ方キ	無文	III-1-3	

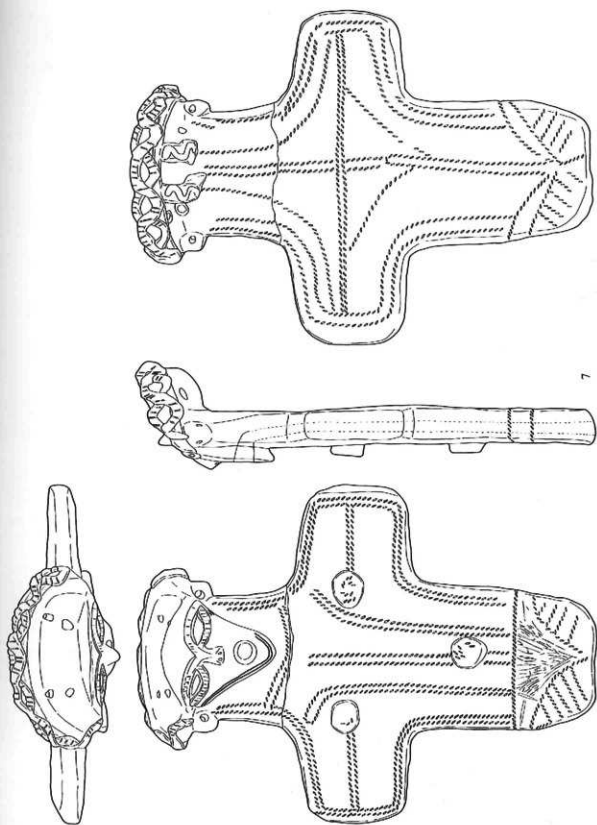
103図 第349号住居跡・出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 形 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
2	349住	床面		縞文第一横、輪付(LR)		ミ方キ		Ⅱ-4	
3	*	堆積土	LR押、LR			*		Ⅱ-4・5	
4	*	*	貼付、RL			*		*	
5	*	*		縞文第一横 (RL, RL), 黒目		*		*	
6	*	*		* (LR, RL), *		*		*	

104図 第349号住居跡・出土遺物 (2)





番号	出土地点	出土層位	長さ	計	長さ (cm)		文	装	種類	備考
					幅	厚さ				
7	349住	溝垣土	32.4	23.9	7.9		漆片、灰片、灰片、灰片	土質	漆片、灰片、灰片、灰片	

0 10cm

105図 第349号住居跡・出土遺物 (3)

第350号住居跡（106図～111図）

〔位置と確認〕 VR・S-123・124に位置する。第V層精査中に楕円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 風倒木により攪乱を受けている。

〔平面形・規模〕 長軸 4 m10cm、短軸 2 m70cmの楕円形である。床面積は8.95㎡である。長軸方向は北西-南東である。

〔壁・床面〕 壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。南東壁は緩い立ち上がりである。壁高は東壁11cm、西壁8cm、南壁16cm、北壁23cmである。床面はほぼ平坦で堅緻である。炉の周囲は貼り床が施されている。

〔柱穴〕 精査後数度床面を削り込んだが検出されなかった。

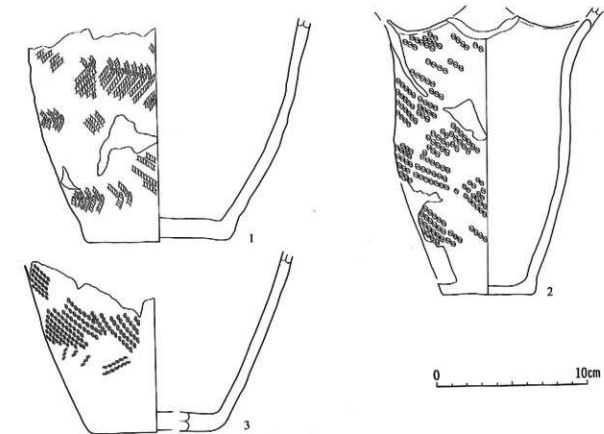
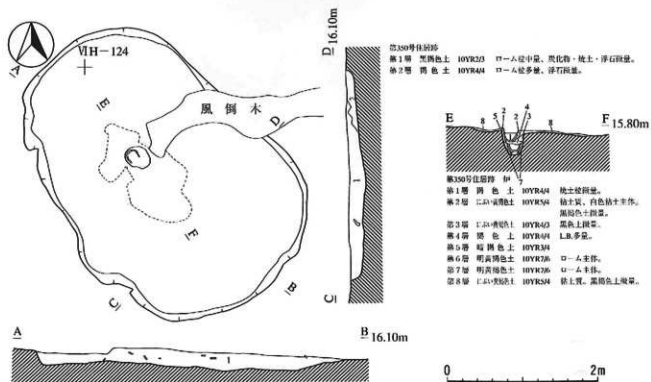
〔炉〕 中央からやや北寄りで土器埋設炉を確認した。炉内に3個の土器が埋設されている。P-2、P-3は入れ子状に埋設され、掘り方内・土器堆積土中にはロームが含まれる。P-1は一部粘土で周囲を固定している。土器内堆積土には焼土が含まれる。それぞれの掘り方は明確に分層されるため、上下の土器の使用は時間的な差違によるものと考えられる。掘り方の規模は35cm×29cm、深さ32cmである。

〔堆積土〕 2層に分層した。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒・炭化物・浮石・焼土が含まれる。人為的な堆積である可能性が高い。

〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群6類である。床面からは第Ⅲ群4類を主体とする土器が出土した。石器は床面から磨製石斧、敵磨器類、角柱状の鏝などが、堆積土からスクレイパー類、白石・石皿類などが出土した。また第1層から土偶腕部が出土した。

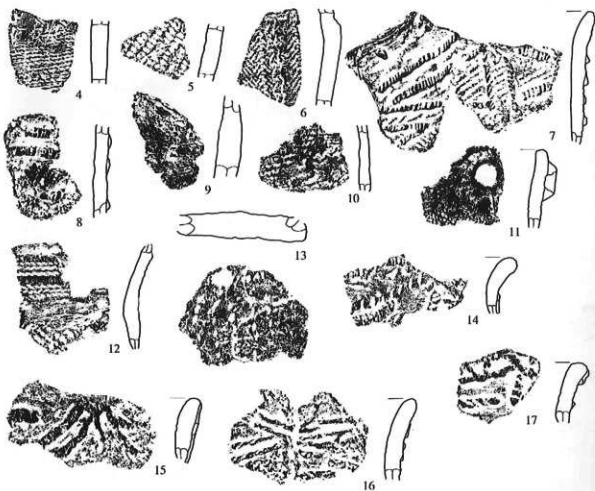
〔時期〕 炉・床面出土遺物から、縄文時代中期中葉（円筒上層d式期）と思われる。

（小笠原 雅行）



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	350住跡				結東第一様	ミ方キ	無文	Ⅲ-6	P-2
2	*				R.L.	*	*	Ⅲ-4・5	P-1
3	350住	床面	RL	RL	RL	*	*		

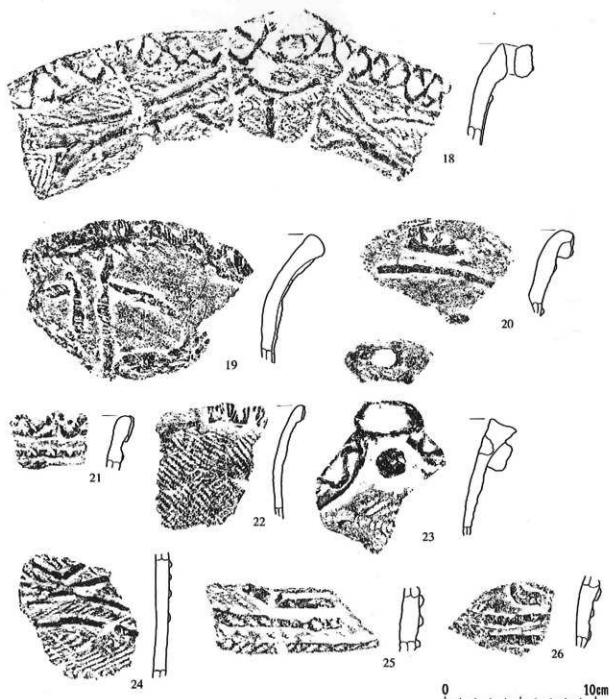
106図 第350号住居跡・出土遺物(1)



0 10cm

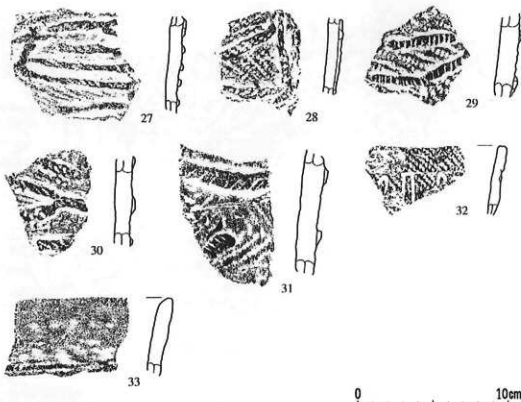
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面図様	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
4	350住跡	堆積土		L. 単筋1		ミガキ	II-6		
5	*	*		LR		*	II-6		
6	*	*		透成帯一重(短), R. 凹線		*	III-1・2		
7	350住	床面	貼付(剥落)	透成帯一重, 貼付(腐み)		*	III-4		
8	*	*		貼付(腐み)		*	*		
9	*	*		* (剥落)		*	*		
10	*	*		RL7		*	II-6		
11	*	1	貼付	RL		*	III-4・5		
12	*	堆積土	LR押、貼付(剥落)	*		*	II-5-2		
13	*	*				*	II-6	炭種混入	
14	*	*	貼付(腐み)、刺突			*	III-3		
15	*	*	LR7 貼付			*	III-4		
16	*	*	RL、* (網押)			*	*		
17	*	*	貼付			*	*		

107図 第350号住居跡・出土遺物(2)

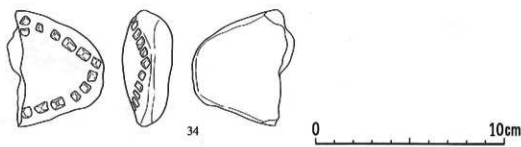


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
18	350住	瓦積土	貼付、筋束第一種			ミ方弁		Ⅲ-4	
19	+	+	○ (剥落)	貼付 (刻み)		○		+	
20	+	+	筋付			○		+	
21	+	+	○ (L押)			○		+	
22	+	+	○ (刻み)	RL		○		Ⅲ-4・5	
23	+	+	貼付	筋束第一種 (I.R, RL)		○		+	内面に穿孔
24	+	+		筋束第一種、筋付		○		Ⅲ-4	
25	+	+		筋束第一種、筋付 (RL)		○		+	
26	+	+		貼付 (L押)		○		+	

108図 第350号住居跡・出土遺物 (3)

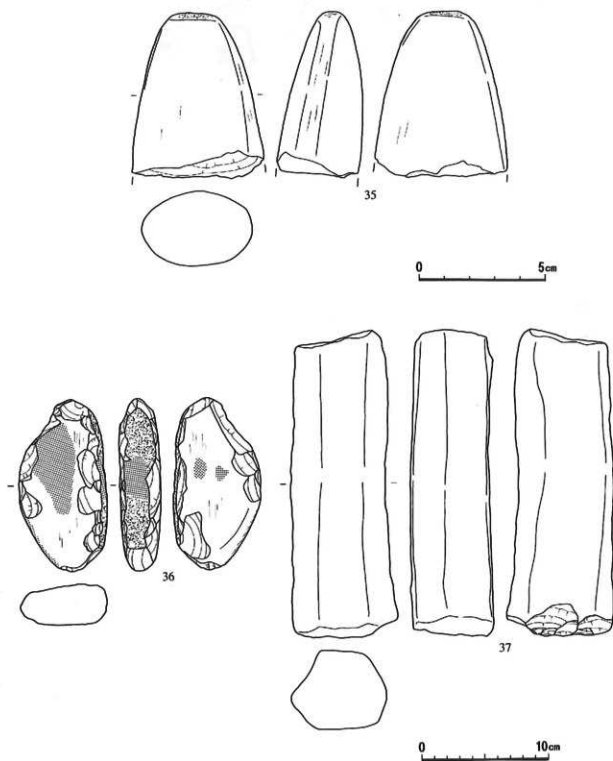


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
27	350住	埋積土		RL、貼付 (RL)		ミ方手		Ⅱ-4	
28	+	+		*、* (L押)		*		*	
29	+	+		進歩帯一様、貼付 (貼付)		*		*	
30	+	+		*、* (保附)		*		*	
31	+	+		*、* (貼付)		*		*	
32	+	+	滑溜口部、RL、沈積			*		Ⅱ-9	
33	+	+	無文			*		Ⅱ-11	



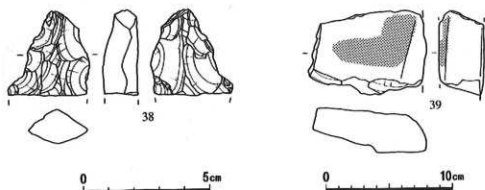
番号	出土地点	出土層位	計 測 値 (cm)			文 様		備 考
			長 さ	幅	厚 さ	表 面	裏 面	
34	350住	1	(6.2)	(5.3)	(2.7)	刺突	無文	土質陶器

109図 第350号住居跡・出土遺物 (4)



图版番号	出土地点	层位	长 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
35	350住	床面	66	52	34	48.7	安	Ha	S-2		40208
36	*	*	136	69	32	421.7	*	Ic	*		40265
37	*	*	245	85	66	1953.5	流	Ua			42546

110图 第350号住居跡・出土遺物 (5)



図版番号	出土地点	形位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
38	350住	埋積土	(34)	(32)	(14)	(12.8)	珪頁	Ga			41564
39	*	*	(67)	(94)	(35)	(244.4)	安	L			42543

111図 第350号住居跡・出土遺物 (6)

#### 第351号住居跡 (112図～113図)

〔位置と確認〕 VI F-88・89に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉と貼り床の一部を確認した。

〔重複〕 第458号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 炉跡と床面の一部しか残存しないため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。貼り床はほぼ平坦で、堅緻である。残存している床面の範囲は長さ2 m80cm×幅80cmである。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 床面東側から土器埋設炉が検出された。土器は上半部を使用し、掘り方の規模は直径約25cm、深さ30cmである。堆積土には炭化物、焼土を含んでいる。

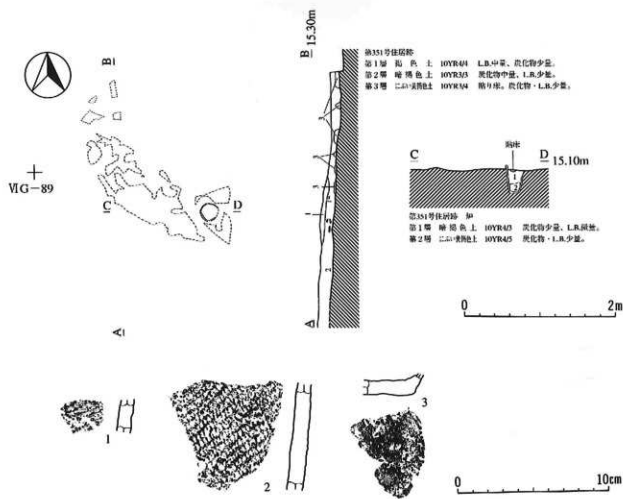
〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 床面から第Ⅲ群6類土器、石棒などが出土した。埋設炉の土器は図示できなかった。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期と考えられる。

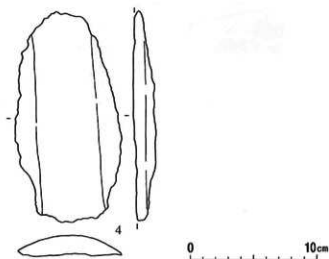
(岡田 康博)





番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	351住	塚内		R結節		2方平		Ⅱ-6	
2	*	*		L.R		*		*	
3	*	*					無文	*	

112图 第351号住居跡・出土遺物(1)



図版番号	出土地点	層位	長 (cm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
4	351住	床面	(116)	(84)	(180)	(233.0)	安	Ma	焼け、S-2	42552

113図 第351号住居跡出土遺物 (2)

#### 第352号住居跡 (114図)

〔位置と確認〕 VI F・G-91・92に位置し、第333号住居跡精査中に炉跡を確認した。

〔重複〕 第333号住居跡と重複し、新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 炉跡と壁溝の一部しか残存しないため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 残存しない。

〔壁溝〕 北側で検出した。幅約10cm、深さ約6cmである。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 ほぼ中央から地床炉を検出した。掘り方をもつ地床炉で、規模は90cm×80cm、深さ約10cmである。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 検出状況から、縄文時代中期と考えられる。

(岡田 康博)

#### 第353号住居跡 (115図～122図)

〔位置と確認〕 VI F・G-89・90に位置し、第Ⅲ層精査中に貼り床の一部を確認した。

〔平面形・規模〕 平面形は南北に長軸のある楕円形と考えられるが、壁が残存しないので詳細は不明である。残存している床面の範囲は長さ3m、幅2m80cmで、床面積は8.91㎡である。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。床面はほぼ平坦で、貼り床は軟弱である。

〔柱穴〕 主柱穴はP<sub>1</sub>～P<sub>4</sub>の4本で、台形状の配置である。ピットの深さは、P<sub>1</sub>…26cm、P<sub>2</sub>…12cm、P<sub>3</sub>…48cm、P<sub>4</sub>…16cmである。

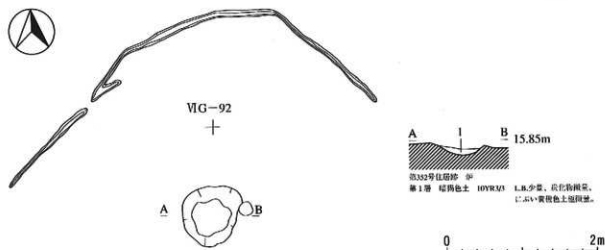
〔炉〕 床面中央から北側で地床炉と土器埋設炉を検出した。地床炉は明確な火焼面が伴わないもので、掘り方の規模は約60cm×40cm、深さ16cmである。堆積土には微細な炭化物を含んでいる。土器埋設炉の土器は下半部を使用し、掘り方の規模は直径約25cm、深さ約20cmである。明確な火焼面は確認できず、堆積土には炭化物を含んでいる。これらの炉の新旧関係については断定できないものの、同時存在した可能性が高い。

〔堆積土〕 4層に分層した。人為堆積の可能性が高いものと考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロックを含む。

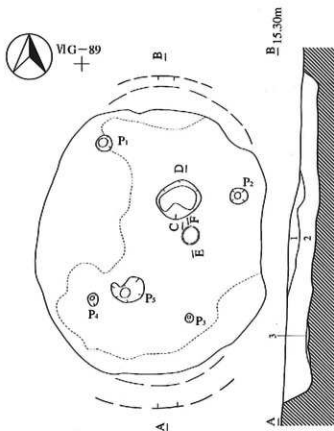
〔出土遺物〕 炉の土器は第Ⅲ群6類である。堆積土からは第Ⅱ群5、6類、第Ⅲ群1類土器が出土した。石器は炉から敵磨器類などが、堆積土から石鏃、石匙、スクレイパー類、R.フレイク、U.フレイク、石核、敵磨器類、半月状扁平打製石器、抉入扁平磨製石器、砥石、軽石製品、角柱状の礫などが出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から縄文時代中期初頭と考えられる。

(岡田 康博)



114図 第352号住居跡



第353号住居跡  
 第1層 黄褐色土 10YR5/8 L.B.少量、灰化物極少量。  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 灰化物・ローム粒・L.B.少量。  
 第3層 褐色土 10YR4/4 灰化物・L.B.極少量、黄褐色土混入。

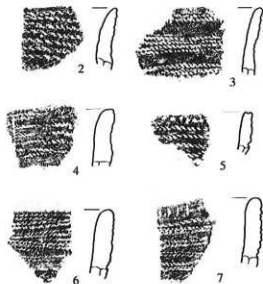
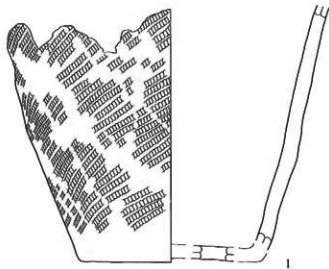


第353号住居跡 追索跡  
 第1層 黒褐色土 10YR3/4 灰化物少量。  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 灰化物少量。  
 第3層 褐色土 10YR3/7



第353号住居跡 土器埋没跡  
 第1層 黒褐色土 10YR3/4 褐色土混入。  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 L.B.灰化物少量。

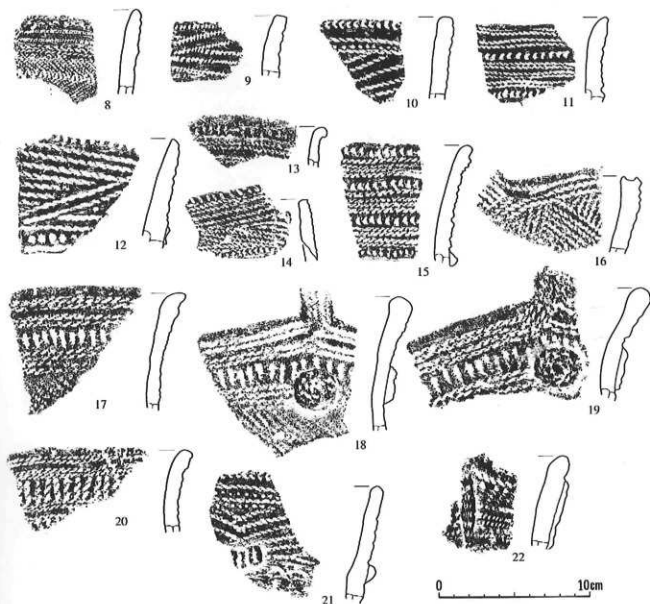
0 2m



0 10cm

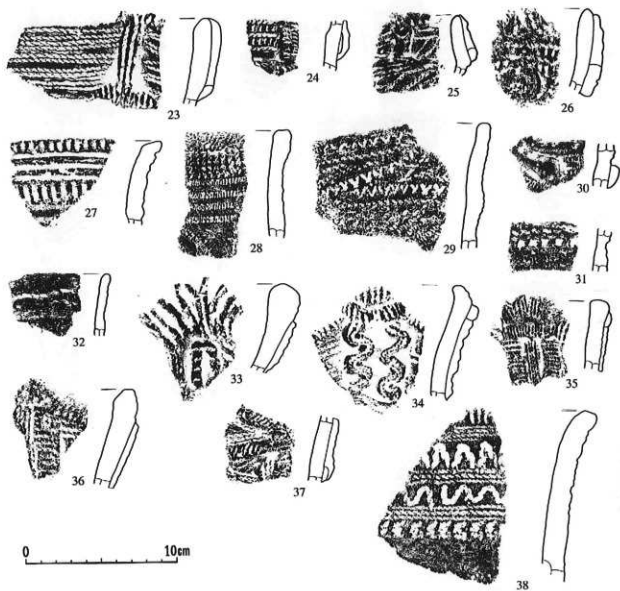
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	353住跡				LR	ミ方キ	黒文	Ⅲ-6	
2	353住	堆積土	L押					Ⅱ-5-1	
3	*	*	*			*	*	*	
4	*	*	*			*	*	*	
5	*	*	口唇割み、LR押	R単輪1		*	*	*	
6	*	*	R押			*	*	*	
7	*	*	口唇割み、L・R押			*	*	*	小波状

115図 第353号住居跡・出土遺物(1)



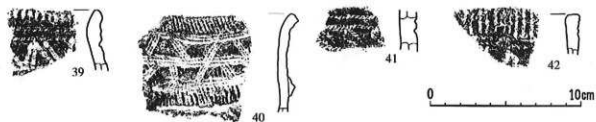
番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
8	353住	地境上	L単線1押	莖葉第一様(LR, RL)		ミカキ		Ⅱ-5-1	
9	*	*	口唇・口縁単線1押			*		*	
10	*	*	LR押、刺突			*		Ⅱ-5-2	
11	*	*	＊、＊			*		*	
12	*	*	＊、貼付(刺突)			*		*	
13	*	*	口唇肥厚(刺突)、L押			*		*	
14	*	*	LR押、貼付、刺突			*		*	
15	*	*	LR押、刺突	貼付(刺突)		*		*	
16	*	*	LR押			*		*	小波状
17	*	*	＊	RL		*		*	
18	*	*	＊、ボタン状貼付			*		*	19と同一個体
19	*	*	＊、＊			*		*	
20	*	*	R・LR押			*		*	
21	*	*	LR押、刺突、波状貼付			*		*	
22	*	*	LR・波状貼付、貼付(刺突)			*		*	

116図 第353号住居跡出土遺物(2)



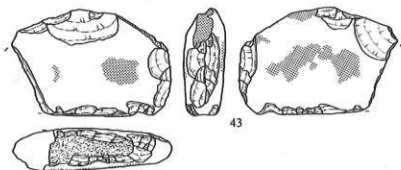
番号	出土地点	出土部位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
23	353住	壇壁上	貼付(LR押)、LR押			2方弁		II-5-2	
24	*	*	貼付(刺突)、R押、刺突			*		*	
25	*	*	貼付、R押			*		*	
26	*	*	貼付(R押)、LR押、刺突			*		*	
27	*	*	草絵I押			*		*	
28	*	*	*、LR押			*		*	
29	*	*	*、*	LR		*		*	
30	*	*	貼付、草絵I押、刺突			*		*	
31	*	*	刺突			*		*	
32	*	*	L押			*		II-6	
33	*	*	貼付(R押)、R押			*		III-1	
34	*	*	* ( )、*			*		*	
35	*	*	* (LR押)、LR押			*		*	
36	*	*	* ( )、*			*		*	
37	*	*	* ( )、*			*		*	
38	*	*	LR押			*		*	

117図 第353号住居跡出土遺物(3)

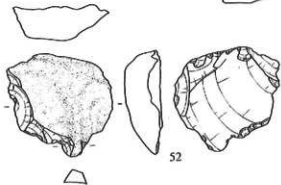
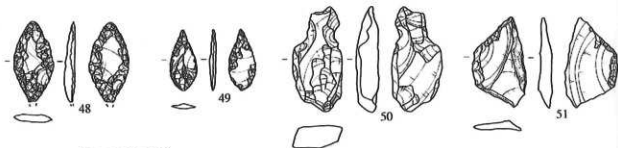
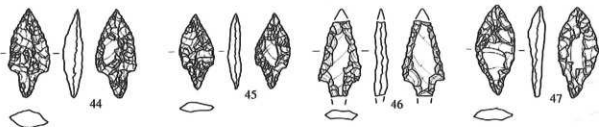


番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
39	353住	雑草土	平縁1押			ミガキ		Ⅲ-1	
40	○	○	LR押、貼付(LR押)			○		○	
41	○	○	R押			○		○	
42	○	○	LR押					○	

118図 第353号住居跡出土遺物(4)



0 10cm

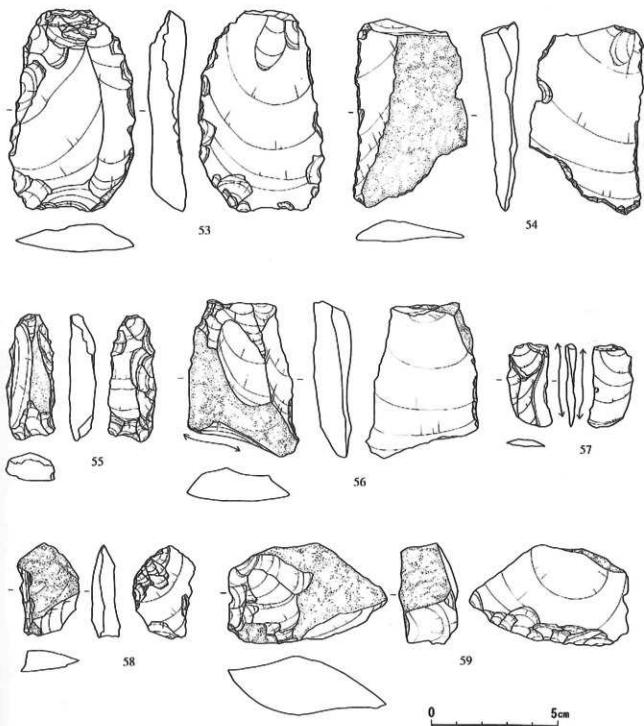


0 5cm

図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備	考	整理番号
43	353住	炉	85 (126)	33	3	(480.7)	安	Ib			42558
44	*	塚横上	35	16	8	3.2	拜頁	Aa			51870
45	*	*	30	14	5	1.5	*	*			51887
46	*	*	(30)	17	5	(2.6)	*	*			52298
47	*	*	36	16	7	2.8	*	Ab			51886
48	*	*	(32)	16	5	(1.8)	*	Ac			51885
49	*	*	25	10	2	0.4	*	*			51871
50	*	*	42	20	9	7.5	黒	Ca			40177
51	*	*	36	21	5	2.9	珪頁	Ga	石鏃未製品?		40144
52	*	*	41	41	14	24.6	*	Gb	石匙? 石鐮?		41594

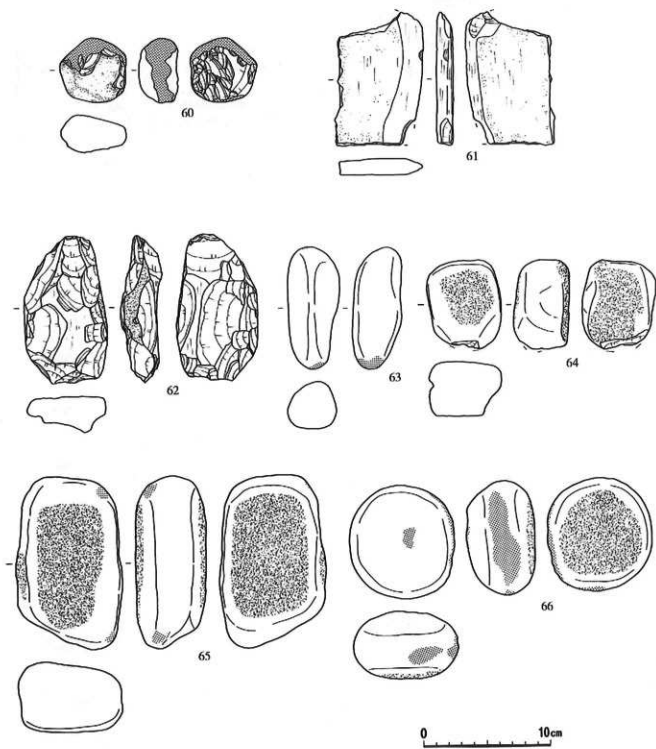
119図 第353号住居跡出土遺物 (5)





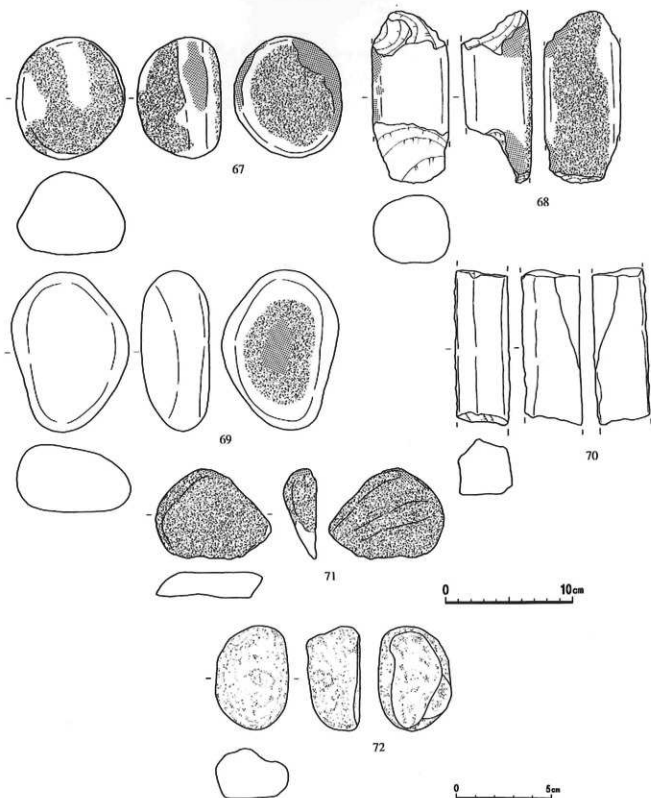
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	材質	分類	備	号	整理番号
53	353住	堆積土	80	50	15	63.0	埴石	Ga			40212
54	*	*	75	45	15	33.6	*	*			40211
55	*	*	50	19	11	12.5	*	*	石筴?		52109
56	*	*	62	43	15	44.9	*	*			41629
57	*	*	33	18	4	2.0	*	Gc			40137
58	*	*	37	24	11	8.0	*	Gb			41579
59	*	*	40	62	23	58.7	*	Pa			41624

120図 第353号住居跡出土遺物 (6)



图版番号	出土地点	层位	长 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
60	353E	珧礫土	51	52	31	105.4	珉質	lb	石核転用?	40210
61	*	*	(105)	(70)	(13)	(160.7)	*	K	下部欠損面再加工	42482
62	*	*	106	65	34	252.2	*	J		48604
63	*	*	96	41	39	215.8	*	lb		42556
64	*	*	(70)	59	44	(274.8)	*	lc		42549
65	*	*	139	84	56	1036.4	*	*		40256
66	*	*	89	83	53	569.1	*	*		42560

121图 第353号住居跡出土遺物 (7)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	材質	分類	備考	整理番号
67	353住	地壇上	96	86	66	745.0	安	Ic		42555
68	*	*	(136)	(60)	(55)	(535.8)	流	*		42562
69	*	*	127	92	53	862.2	安	Ib		42561
70	*	*	(124)	(44)	(47)	(380.7)	流	Ua	続付	42559
71	*	*	71	91	26	160.9	チャート	Sb		42548
72	*	*	55	38	21	19.1	珪	Tb		48583

122図 第353号住居跡出土遺物 (8)

第354号住居跡 (123図)

〔位置と確認〕 VI F-88に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉と貼り床の一部を確認した。

〔平面形・規模〕 炉跡と床面の一部しか残存しないため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。床面はほぼ平坦で、堅緻である。貼り床は炉の周囲のみ残存し、その範囲は長さ30cm×幅20cmである。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 土器埋設炉が検出された。土器は上半部を使用し、掘り方の規模は直径約10cm、深さ10cmである。堆積土には炭化物、焼土を含んでいる。明確な火焼面は検出されなかった。

〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群4、6類土器が出土した。埋設炉の土器は図示できなかった。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代中期前半と考えられる。

(岡田 康博)

第355号住居跡 (124図～126図)

〔位置と確認〕 VI F・G-92・93に位置し、第Ⅲ層精査中に黄褐色土の楕円形の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第452号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は北東-南西に長軸のある楕円形である。東側は確認できなかった。残存している規模は長軸3m60cm、短軸3mである。

〔壁・床面〕 東壁は残存しない。それ以外の各壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は西壁3cm、南壁7cm、北壁4cmである。床面はほぼ平坦で、貼り床は施されていない。

〔柱穴〕 主柱穴はP<sub>1</sub>～P<sub>3</sub>である。ピットの深さは、P<sub>1</sub>…3cm、P<sub>2</sub>…20cm、P<sub>3</sub>…33cmである。

〔炉〕 床面ほぼ中央から地床炉を検出した。掘り方の規模は約55cm×45cm、深さ10cmである。堆積土には微細な炭化物、焼土を含んでいる。

〔堆積土〕 5層に分層した。人為堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロック、炭化物、焼土を含む。

〔出土遺物〕 堆積土上から炉・床面・堆積土から第Ⅱ群6類・第Ⅲ群2類土器が出土した。また、堆積土上から石鏃、R、フレイク、半円状扁平打製石器などが出土した。

〔時期〕 炉・床面・堆積土出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。

(岡田 康博)

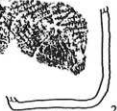
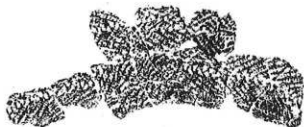


A B

A 3 1 2 B 15.00m

第354号住居跡 剖面  
 第1層 褐色土 10YR4/6 灰化物稍混雜。  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 灰化物中量、燒土混雜。  
 第3層 褐色土 7.5YR3/6 灰化物稍混雜。

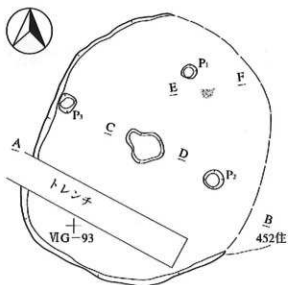
VIF-89 0 2m



0 10cm

番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	354住	堆積土		貼付 (L.押)、LR		2方斗		Ⅲ-4	
2	*	*			結文様一様 (LR, RL)	*	漆文	Ⅲ-6	

123圖 第354号住居跡・出土遺物



C 15.80m



第355号住居跡 跡1  
 第1層 粘 色 土 10VR44 灰化物少量、炭化物微量。  
 第2層 粘土・礫質土 10VR43 灰化物少量、粘土・L.B.微量。

E 15.80m

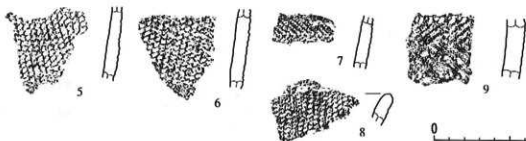
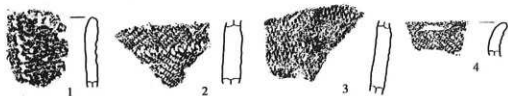


第355号住居跡 跡2  
 第1層 黒褐色土 10VR32 灰化物少量、U-ム材微量。  
 第2層 暗褐色土 10VR34 灰化物少量、粘土・L.B.微量。



第355号 住居跡  
 第1層 粘土・礫質土 10VR43 灰化物中量、L.B.少量。  
 第2層 黒褐色土 10VR31 灰化物多量、L.B.微量。  
 第2層 粘 色 土 10VR21 灰化物多量、L.B.微量、炭土・L.B.少量。  
 第3層 暗褐色土 10VR33 L.B.中量。  
 第4層 暗褐色土 10VR34 灰化物・L.B.少量。  
 第5層 黒褐色土 10VR32 灰化物・L.B.少量。

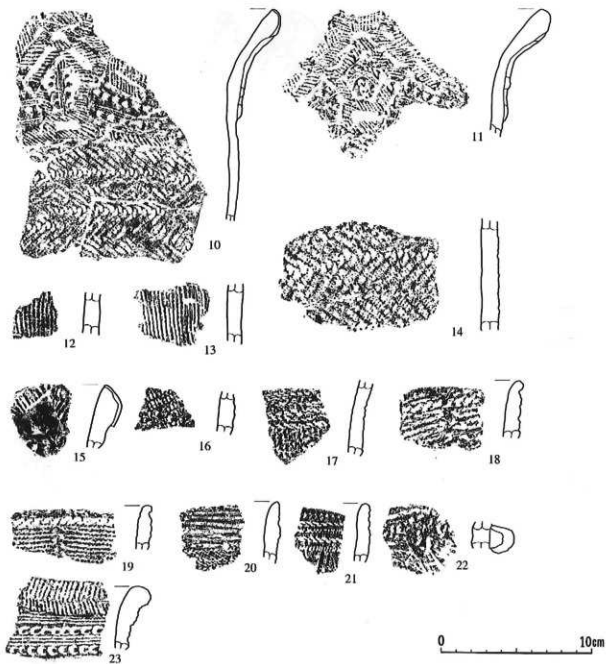
0 2m



0 10cm

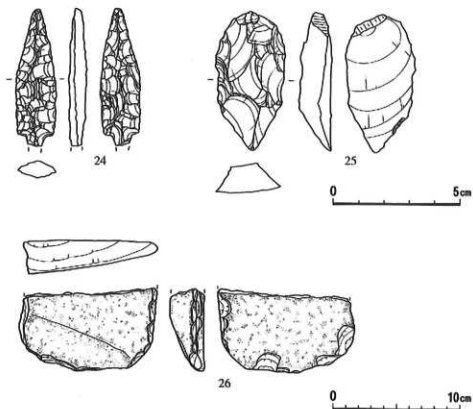
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	355住居	堆積土	単縁6A			ミガキ		II-3	
2	〃	〃		筋草第一種(L.R., RL)				II-6	
3	〃	〃			RL				
4	355住	床面	RL					II-3-5	
5	〃	〃	筋草第一種(L.R., RL)						
6	〃	〃		RL,R				II-6	
7	〃	〃							
8	〃	〃							
9	〃	〃		筋草第一種(L.R., RL)				III?	

124図 第355号住居跡・出土遺物(1)



序号	出土地点	出土层位	外 面 文 饰		内面修整	底面	分期	備 考
			口沿部	胴部上半				
10	355住	堆積土	貼付(R單筋1)、刺突	結束第一條	ミ方キ		Ⅲ-3	11上同一個体
11	*	*	*	*	*	*	*	
12	*	*		R單筋1	*	*	Ⅱ-6	
13	*	*	R單筋17 LR押	單筋1	*	*	Ⅱ-3	
14	*	*	R單筋6A、RLR押		*	*	*	
15	*	*	*	*	*	*	*	
16	*	*	R單筋1押	RL7	*	*	Ⅱ-5-1	
17	*	*	*	R單筋1A	*	*	*	
18	*	*	貼付(LR押)		*	*	Ⅲ-1-2	
19	*	*	L-刺押(波状、刺突印記)		*	*	Ⅲ-2	
20	355住原溝	*		L單筋1	*	*	Ⅱ-6	
21	*	*		單筋1	*	*	*	
22	*	*	貼付(LR押)	刺突	*	*	Ⅲ-3	
23	*	*		LR	*	*	Ⅲ-6	

125图 第355号住居跡出土遺物(2)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
24	355住	堆積土	(54)	16	7	(5.5)	埴頁	Aa		52110
25	*	*	55	28	13	15.9	*	Gb		52111
26	*	*	(66)	(109)	(27)	(230.3)	安	J		42563

126図 第355号住居跡出土遺物 (3)

第356号住居跡 (127図～128図)

〔位置と確認〕 VI F-93に位置し、第Ⅲ層精査中に貼り床の一部を確認した。

〔平面形・規模〕 床面の一部しか残存しないため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。貼り床はほぼ平坦で、堅緻である。残存範囲は長さ1 m80cm×幅1 m20cmである。

〔柱穴〕 検出されなかった。

〔炉〕 残存しない。

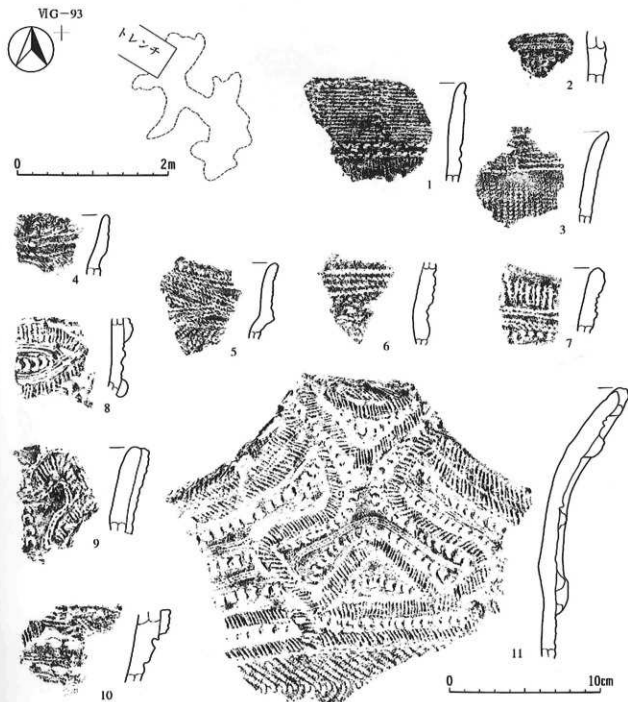
〔堆積土〕 なし。

〔出土遺物〕 床面から敲磨器類などが、堆積土から第Ⅱ群5-1類、Ⅲ-1～3類土器、スクレイパー類、R.フレイク、敲磨器類などが出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から縄文時代中期前葉と考えられる。

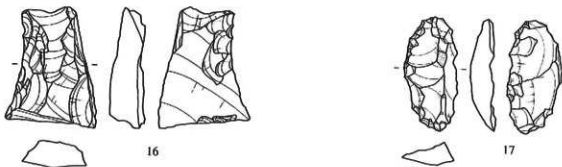
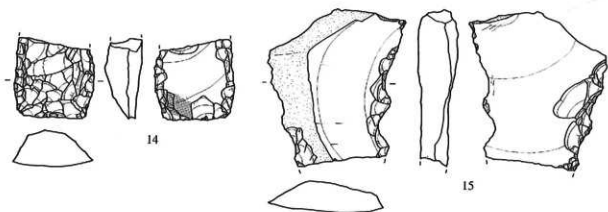
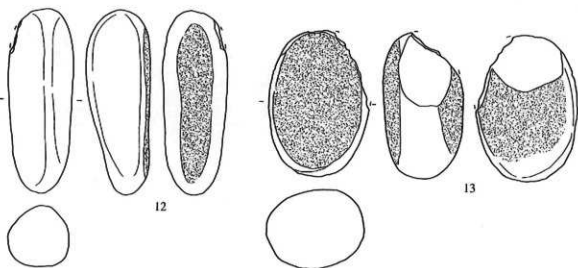
(岡田 康博)





番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	356住	粘土	R単縞6A, RLR押	R単縞1		ミガキ	II-2		
2	*	*	R押?	L単縞1		*	II-5-1		
3	*	堆積土	LR押	LR単縞1		*	*		
4	*	*	L押	R縞面		*	*		
5	*	*	LR押	LR		*	*	滑部くびれ	
6	*	*	*	RL縞面		*	*		
7	*	*	*			*	III-1		
8	*	*	粘付(L押), L押			*	III-2		
9	*	*	* (*), R押			*	*		
10	*	*	粘付(L押), L・R押			*	III-3		
11	*	*	* (*), * , *	粘部第一様(LR, RL)		*	*		

127図 第356号住居跡・出土遺物(1)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
12	356住	坪面	146	51	51	(548.6)	安流	lc		42564
13	*	灌漑上	106	(80)	64	(726.4)	*	*	焼け	42566
14	*	*	(32)	(32)	(14)	(15.8)	珉頁	Ga	石焼?	52114
15	*	*	(63)	55	15	(47.2)	*	*		52115
16	*	*	40	36	14	21.6	*	Gb	折れ面から再加工	52112
17	*	*	46	22	10	8.3	*	Ga		52113

128図 第356号住居跡出土遺物 (2)

第357号住居跡 (129図～130図)

〔位置と確認〕 VIH・I-88・89に位置し、第Ⅲ層精査中に黄褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第290・390号住居跡と重複し、本住居跡が最も古い。

〔平面形・規模〕 重複のため、西壁しか残存せず、全体の形状は不明である。残存している規模は長軸3m90cm、短軸3m40cmである。

〔壁・床面〕 西壁は外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は7cmである。床面はほぼ平坦であるが、貼り床は施されていない。

〔柱穴〕 検出されなかった。

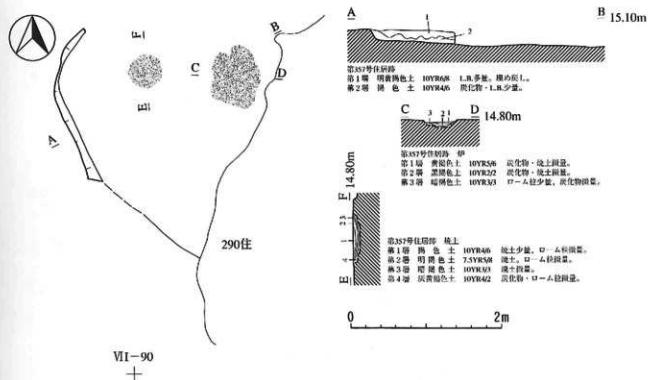
〔炉〕 床面東側から地床炉が検出された。規模は80cm×70cmである。また、西側から焼土が堆積した小ピットを検出したが、地床炉とは断定できなかった。堆積土には微細な炭化物、焼土を少量含んでいる。火焼面は検出されなかった。

〔堆積土〕 2層に分層した。人為堆積と考えられる。黄褐色土を基調とし、層全体にロームブロックを含む。

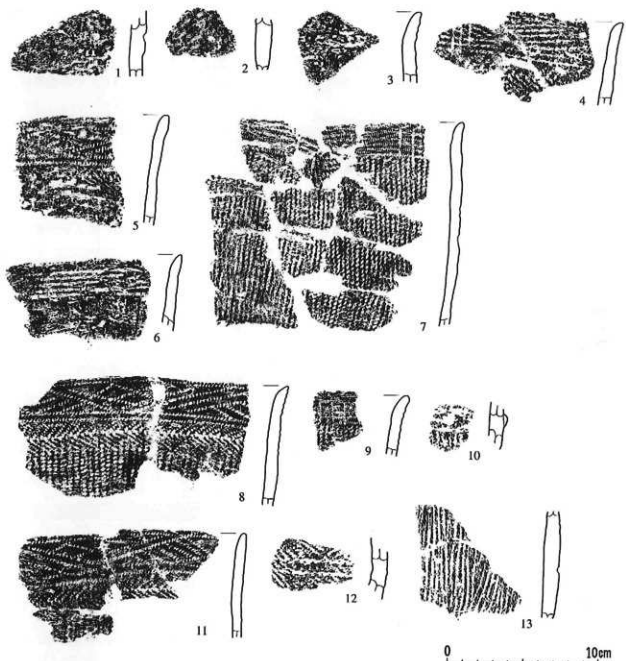
〔出土遺物〕 炉から第Ⅱ群6類、床面直上から第Ⅱ群5-1類、堆積土から第Ⅱ群3、6類土器が出土した。

〔時期〕 床面直上の出土遺物から縄文時代前期末葉(円筒下層d<sub>1</sub>式期)と考えられる。

(岡田 康博)



129図 第357号住居跡



番号	出土地点	出土層位	外面文様			内面調整	底面	分類	備考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	357住	埴内		不明		ミカキ	Ⅱ-6	底純	
2	*	*		*		*	*	*	
3	*	埴直	結同?			*	Ⅱ-2		
4	*	*	R押	RLR		*	Ⅱ-5-1		
5	*	*	埴結1押			*	*		
6	*	*	*	RLR		*	*		
7	*	*	*	RL		*	*		
8	*	*	*	結定第一様、RL		*	*	9と同一個体	
9	*	*	*	*、*		*	*		
10	*	*	*	RL		*	*		
11	*	埴粘土		底結番、R埴結1		*	Ⅱ-3		
12	*	*		RI押、RI		*	*		
13	*	*		R埴結1		*	Ⅱ-6		

130図 第357号住居跡出土遺物

第358住居跡 (131図～132図)

〔位置と確認〕 VI E-88に位置し、第Ⅲ層精査中に土器埋設炉を確認した。

〔平面形・規模〕 炉跡と床面の一部しか残存しないため、全体の形状は不明である。

〔壁・床面〕 残存しない。

〔柱穴〕 検出されなかった。

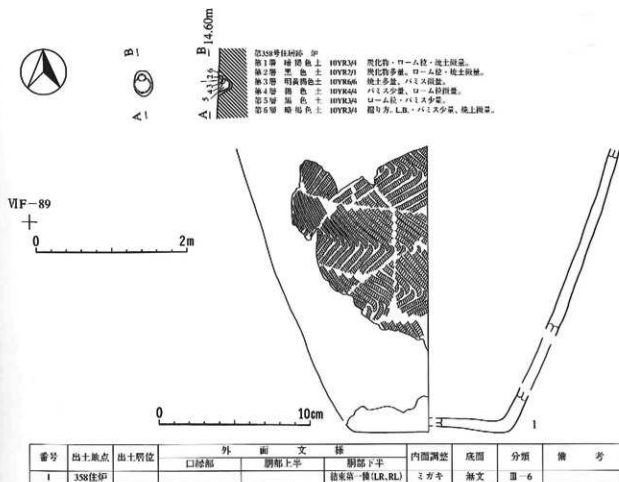
〔炉〕 2基重複して土器埋設炉を検出した。土器はどちらも下半部を使用し、掘り方の規模は40cm×15cmで、後に小型の土器を埋設し、改築した可能性が高いものと考えられる。

〔堆積土〕 なし。

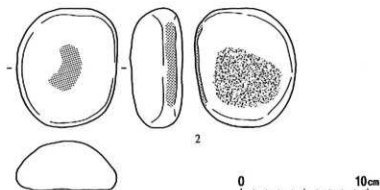
〔出土遺物〕 埋設炉の土器は第Ⅲ群6類である。堆積土から敵磨器類などが出土した。

〔時期〕 炉に使用された土器から縄文時代中期前半と考えられる。

(岡田 康博)



131図 第358号住居跡・出土遺物 (1)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
2	358住	堆積土	94	80	41	473.0	石 安	分 b		42565

132図 第358号住居跡出土遺物 (2)

### 第359号住居跡 (133図～140図)

〔位置と確認〕 VI F・G-89・90に位置し、第Ⅲ層精査中に黄褐色土上の楕円形の落ち込みを確認した。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある楕円形である。床面中央が一段低くなり、壁際が高くなったテラス状となっている。規模は長軸 5 m30cm、短軸 5 m20cmである。床面積は20.08㎡である。

〔壁・床面〕 東壁の一部が残存しないが、各壁ともに緩やかに湾曲しながら立ち上がる。壁高は東壁 6 cm、西壁30cm、南壁60cm、北壁26cmである。床面と段状の高まりはほぼ平坦で、部分的に貼り床が施される。

〔壁溝〕 西壁際から検出され、直径10cm～20cm、深さは7 cm～20cmである。

〔柱穴〕 低くなった床面の四隅と段状に高まった部分に柱穴が配置される。床面では亀甲形に、段状の高まりでは弧状に配置される。ピットの直径は20cm～30cm、深さは10cm～34cmである。

〔炉〕 床面のほぼ中央から地床炉が検出された。規模は75cm×60cmである。また、この地床炉の下から土器埋設炉が検出され、作り替えられていたことが判明した。土器は胴部を使用し、掘り方の規模は直径約30cm、深さ48cmである。堆積土には微細な炭化物、焼土を大量に含んでいる。

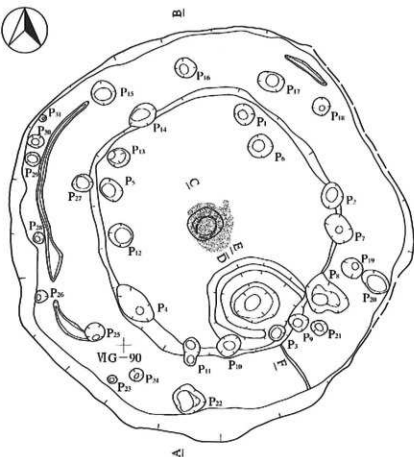
〔その他の施設〕 床面の中軸線上南側から、段状の高まりに接するように周堤で囲まれたピットが検出された。周堤は盛り上げたもので高さ約 6 cmで西側が切れており、ピットは直径60cm、深さ60 cmである。堆積土は埋め戻されたもので微細な炭化物が含まれている。

〔堆積土〕 8層に分層した。人為堆積と考えられる。暗褐色土を基調とし、層全体にロームブロック、微細な炭化物を含む。

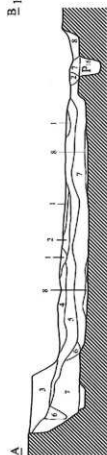
〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅱ群5類・第Ⅲ群1類を主体とする土器、石鏃、石錘、スクレイパー類、R.フレイク、U.フレイク、敵磨器類、角柱状の礫・礫石器などが出土した。また、貼り床下から敵磨器類などが出土した。埋設炉の上器は図示できなかった。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代中期初頭 (円筒上層 a 式期) と考えられる。

(岡田 康博)



B 15.40m



C D 14.90m



第359号住居跡 空

- 第1層 暗褐色土 HYR40 炭化物少量。
- 第2層 暗褐色土 HYR30 炭化物少量。
- 第3層 黄褐色土 HYR25 炭化物少量。
- 第4層 灰褐色土 HYR45 L.B.、炭化物少量。
- 第5層 明褐色土 HYR26 炭化物少量。
- 第6層 明褐色土 HYR26 炭化物少量。
- 第7層 赤褐色土 5YR4/1
- 第8層 明褐色土 HYR45 ローム状、炭化物少量。

E F 14.90m



第359号住居跡 付属施設

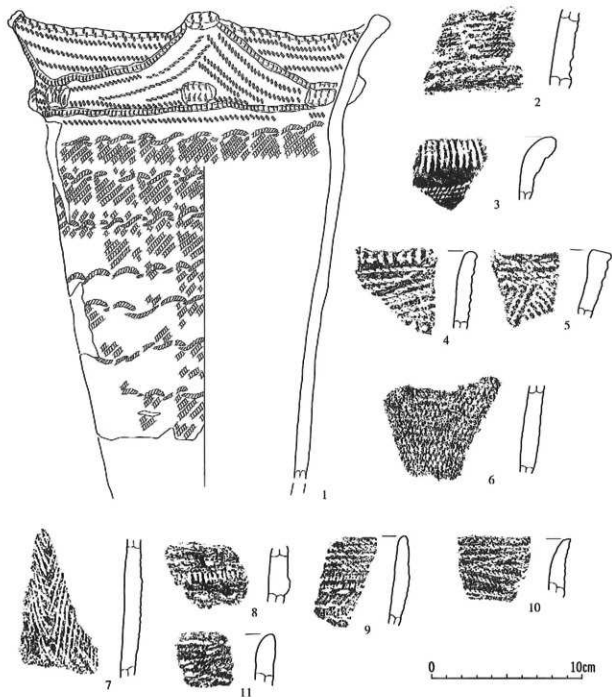
- 第1層 灰褐色土 HYR40 L.B.、炭化物少量、ローム状混入。
- 第2層 褐色土 HYR46 L.B.、炭化物少量。
- 第3層 暗褐色土 HYR22 炭化物少量、L.B.、ローム状混入。
- 第4層 灰褐色土 HYR26 L.B.少量。
- 第5層 暗褐色土 HYR24
- 第6層 明褐色土 HYR26 炭化物少量。

第359号住居跡

- 第1層 暗褐色土 HYR47 L.B.、炭化物少量。
- 第2層 黄褐色土 HYR45 L.B.、ローム状、炭化物少量。
- 第3層 灰褐色土 HYR36 L.B.、ローム状、炭化物少量。
- 第4層 灰褐色土 HYR36 L.B.、ローム状、炭化物少量。
- 第5層 黄褐色土 HYR25 L.B.、ローム状、炭化物少量。
- 第6層 灰褐色土 HYR25 L.B.、ローム状混入、炭化物少量。
- 第7層 暗褐色土 HYR43 L.B.、ローム状、炭化物少量。
- 第8層 黄褐色土 HYR45 L.B.、ローム状、炭化物少量。

0 2m

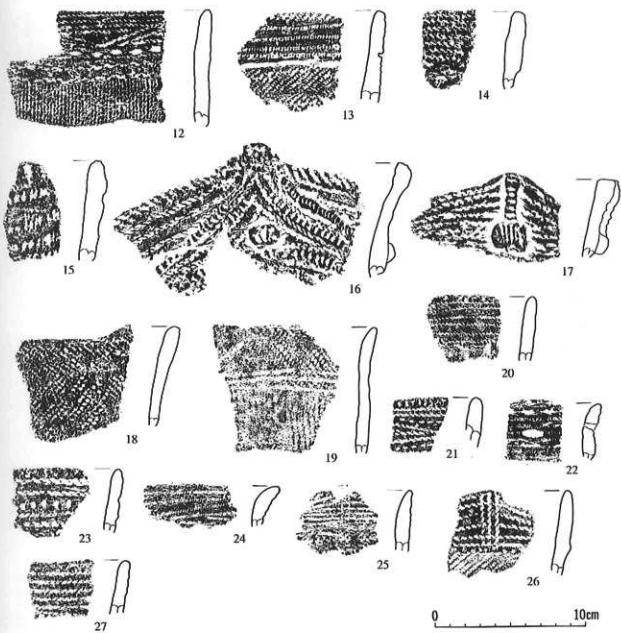
133图 第359号住居跡



番号	出土地点	出土層位	外 形 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	359住	堆積土	局付(刺突), R半結1押	LR, R縞縷		ナア?	Ⅲ-1	P-2	
2	*	床下	R半結6A, RLR押			ミガキ	Ⅱ-3		
3	*	*	R押			*	Ⅲ-1		
4	*	7	口唇・口唇LR押・刺突			*	Ⅱ-5-2		
5	*	*	LR押			*	*	口唇上層平織:面取	
6	*	*		多輪結		*	Ⅱ-6		
7	*	*		R半結1A		*	*		
8	*	3	R半結1押			*	Ⅱ-5-1		
9	*	*	LR押・刺突	半結1?		ミガキ	*		
10	*	*	LR押			*	*		
11	*	*	R押			*	*		

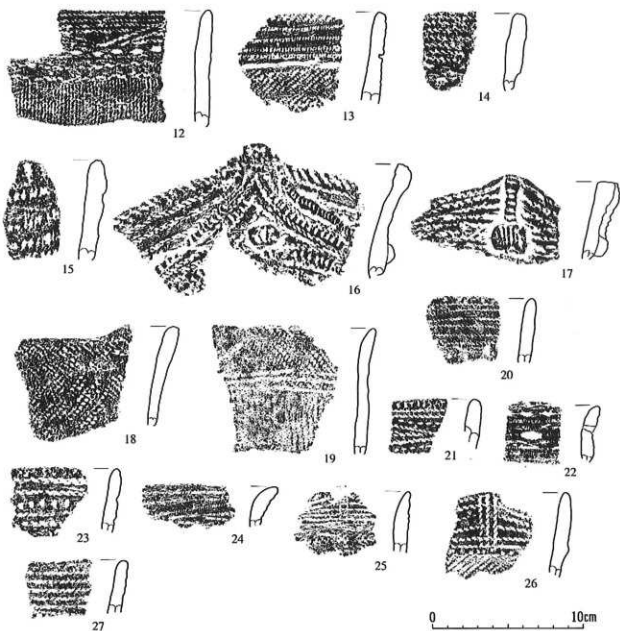
134図 第359号住居跡出土遺物 (1)





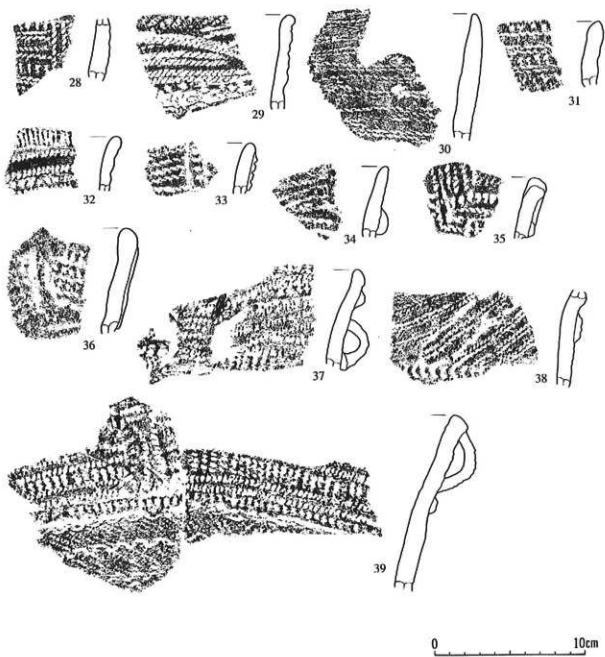
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調査	底面	分類	備 考
			11線部	網起上半	網起下半				
12	359住	3	L押、刺突	L結四、L單結1		ミ方キ	II-5-1		
13	+	+	L單結1押	LR		+	+	口唇折込状(肥厚)	
14	+	+	L.R押			+	+		
15	+	+	L單結1押			+	+	II-5-2	
16	+	+	L押、貼付(L押)			+	+		
17	+	+	+	+		+	+		
18	+	+	結葉帯一巻(L.R, RL)			+	+	II-6	
19	+	堆積土	RL、R押	單結17		+	+	II-3	
20	+	+	L押			+	+	II-5-1	
21	+	+	口唇折込、L.R押			+	+		
22	+	+	單結1押、貫通孔			+	+		
23	+	+	L.R押、刺突			+	+		
24	+	+	單結1押			+	+		
25	+	+	L押、縦線帯	結葉帯一巻(L.R, RL)		+	+		
26	+	+	L.R押			+	+	小波状、口唇肥厚	
27	+	+	R押			+	+		

135图 第359号住居跡出土遺物(2)



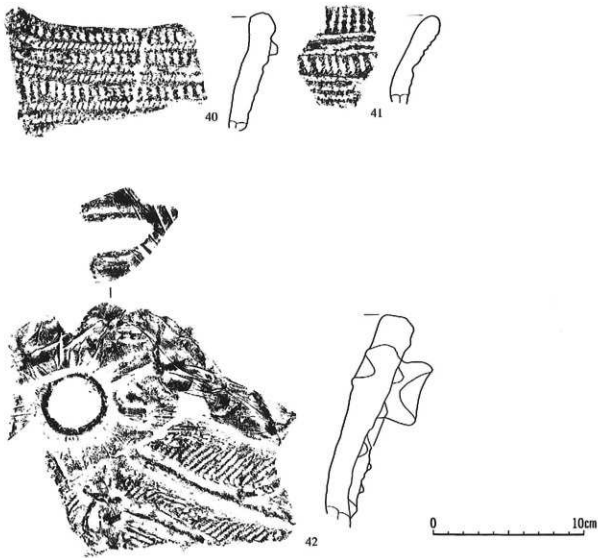
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様		内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半				
12	359住	3	L押、斜突	L結刺、L単結1		2方弁	II-5-1	
13	*	*	L単結1押	LR		*	*	口唇折返状に肥厚
14	*	*	L R押			*	*	
15	*	*	L単結1押			*	II-5-2	
16	*	*	L押、貼付(L押)			*	*	
17	*	*	+	+		*	*	
18	*	*	結束第一種(LR, RL)			*	II-6	
19	*	壇横上	RL、R押	単結17		*	II-3	
20	*	*	L押			*	II-5-1	
21	*	*	口唇圓み、L R押			*	*	
22	*	*	単結1押、貫通孔			*	*	
23	*	*	L R押、斜突			*	*	
24	*	*	単結1押			*	*	
25	*	*	L押、縦線帯	結束第一種(LR, RL)		*	*	
26	*	*	L R押			*	*	小波状、口縁肥厚
27	*	*	R押			*	*	

135図 第359号住居跡出土遺物(2)



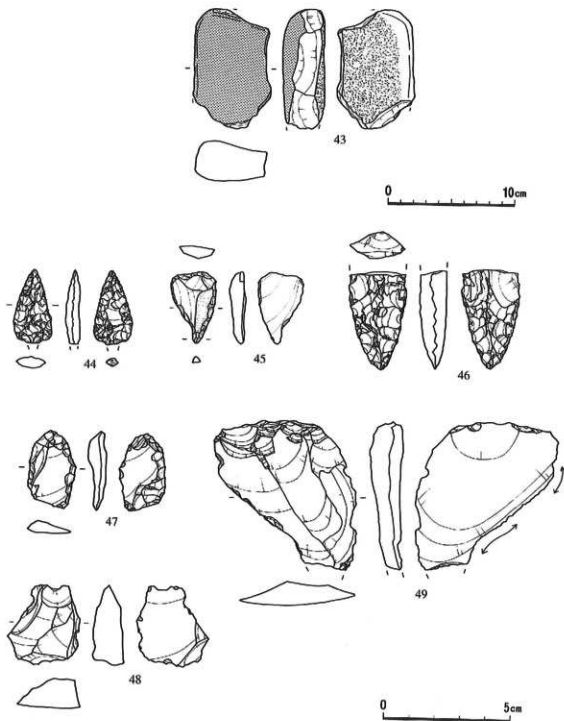
序号	出土地点	出土层位	外 观 文 饰			内周调整	底面	分期	備 考
			口沿部	肩部上半	肩部下半				
28	359住	堆積土	L.R押			下方半	Ⅱ-5-2		
29	*	*	R押、刺突			*	*		
30	*	*	L押			*	*		
31	*	*	*			*	*		
32	*	*	R单捺1押			*	*		
33	*	*	贴付(单捺1押)、LR押			*	*		
34	*	*	贴付、LR押			*	*		
35	*	*	贴付(LR押、LR押、R押)			*	*		
36	*	*	贴付、单捺1押			*	*		
37	*	*	贴付(单捺1押)、单捺1押			*	*		
38	*	*	* (R押)、R押、刺突			*	*		
39	*	*	贴付(单捺1押)、R押			*	*		

136图 第359号住居跡出土遺物(3)



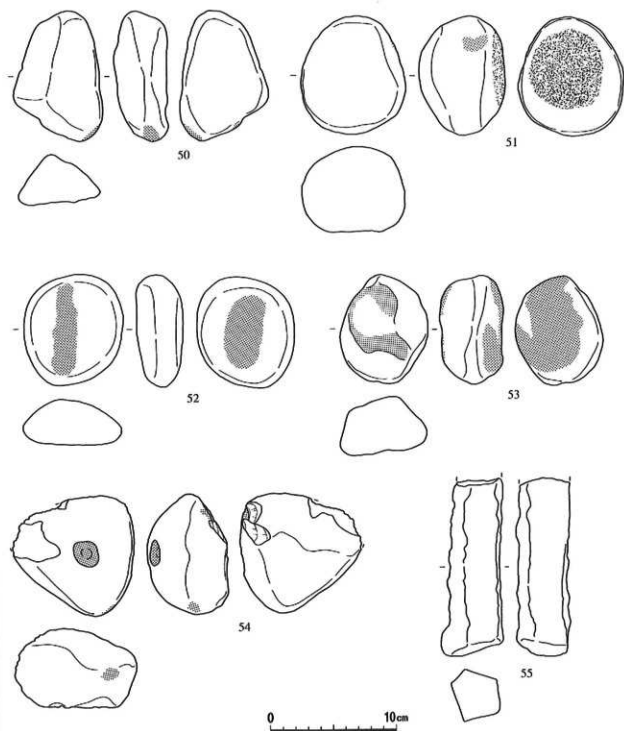
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
40	359住	堆積土	並行(縦・横)・R縫			ミ方キ		Ⅱ-5-2	
41	○	○	1.R押			*		Ⅲ-1	
42	○	○	貼付	結電幕一様、貼付		*		Ⅲ-4	内面にも入状文様

137图 第359号住居跡出土遺物 (4)



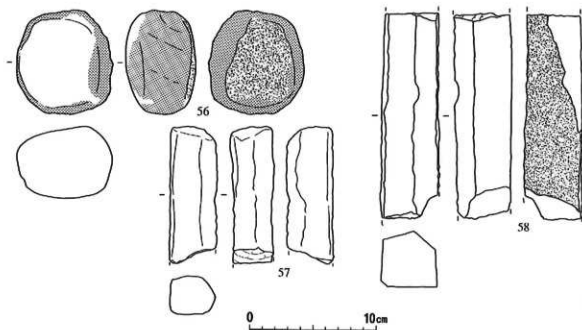
図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備考	整理番号
43	359住	粘床下	(95)	(61)	(33)	(286.1)	安	Ib		42570
44	*	礫積土	(29)	15	6	(2.3)	珠頁	Aa		51888
45	*	*	28	18	6	2.8	*	Db		53005
46	*	*	(39)	(22)	(11)	(8.9)	*	Ga	石槌? 石匙?	51896
47	*	*	31	19	7	3.3	*	*		52117
48	*	*	32	29	13	11.8	*	Gb		52116
49	*	*	(59)	57	(13)	(32.4)	*	Gc		40209

138図 第359号住居跡出土遺物 (5)



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
50	359住	埋積土	102	70	42	311.3	安	lb		42569
51	+	+	95	83	68	647.6	流	lc		42580
52	+	+	88	79	38	373.4	安	lb		42573
53	+	+	85	69	50	388.2	+	+		42572
54	+	+	95	(96)	63	(488.2)	+	+		42577
55	+	+	(141)	(50)	(43)	(376.5)	流	Ua		40269

139図 第359号住居跡出土遺物 (6)



図版番号	出上地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分項	備 考	整理番号
56	359住	堆積土	82	76	56	534.6	安	Ib		42576
57	○	○	(108)	(37)	(34)	(200.5)	流	Un		42567
58	○	○	(163)	(47)	(46)	(534.8)	○	Uh	S-2	42581

140図 第359号住居跡出土遺物 (6)

#### 第360号住居跡 (141図～142図)

〔位置と確認〕 VI E・F-88に位置し、第IV層上面で黒褐色土上の楕円形の落ち込みを確認した。

〔平面形・規模〕 平面形は北西-南東に長軸のある隅丸長方形に近い楕円形である。規模は長軸 3 m 92cm、短径 3 m 50cmである。床面積は8.86㎡である。

〔壁・床面〕 各壁ともに外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁16cm、西壁33cm、南壁27cm、北壁12cmである。床面はほぼ平坦であり、貼り床は施されないものの堅緻である。

〔柱穴〕 主柱穴はP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>で地床を跨ぐように中軸線上に配置される。ピットの深さは、P<sub>1</sub>…32cm、P<sub>2</sub>…23cmである。また壁際床面には壁柱穴が配置され、直径5cm～10cm、深さ2cm～5cmである。

〔炉〕 床面ほぼ中央から地床が検出された。掘り方の規模は70cm×65cmである。堆積上には焼土が含まれるものの、明確な火焼面は形成されていない。

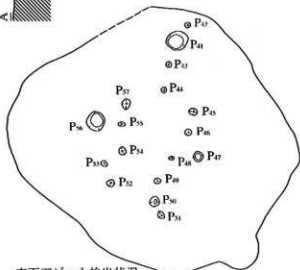
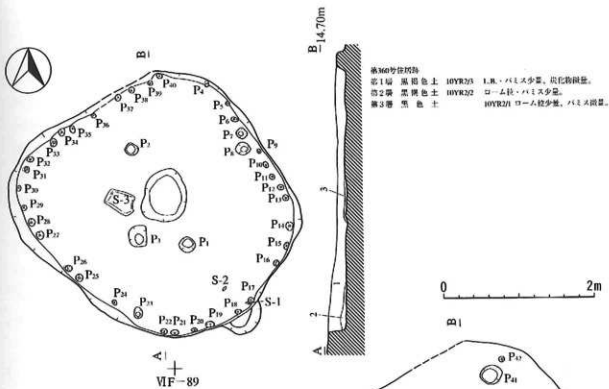
〔その他の施設〕 南側から第V層を掘り込んだ作った小さな張り出しが検出された。出入口施設の可能性はある。

〔堆積土〕 3層に分層した。自然堆積と考えられる。黒褐色土を基調とし、層全体にロームブロック・炭化物を微量に含む。

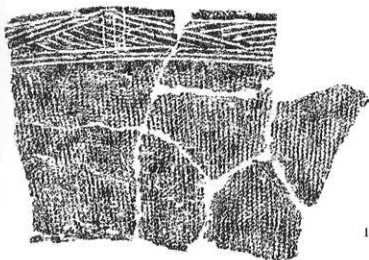
〔出土遺物〕 堆積土から、第II群5類、第III群I類土器、敲磨器類などが出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から縄文時代前期末葉（円筒下層d<sub>1</sub>式期）に近い時期と考えられる。

(岡田 康博)



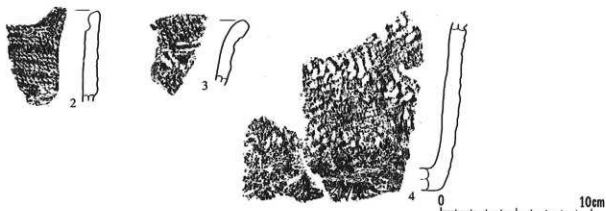
床面下ピット検出状況



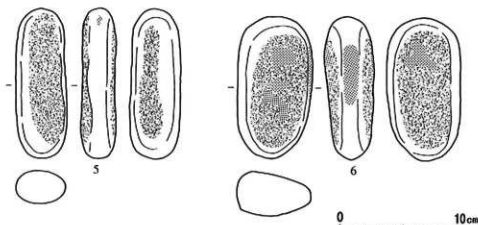
番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分溝	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	360住	堆積上	1.押	1.草拵1		ミガキ		II-5-1	

141図 第360号住居跡・出土遺物(1)





番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口部部	側部上半	側部下半				
2	360住	堆積上	L押			ミ方キ		Ⅱ-5-2	小突起
3	*	*	L,R押			*		Ⅲ-1	
4	*	*			接合部一箇 (LR, RL)	*		Ⅲ-6	



図版番号	出土地点	層位	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	重 (g)	石質	分類	備 考	整理番号
5	360住	堆積上	119	42	28	195.4	安	lc	S-1	42582
6	*	*	112	59	39	364.7	流	lb	S-2	42583

142図 第360号住居跡出土遺物 (2)

第361号住居跡 (143図)

〔位置と確認〕 VM・N-131・132に位置する。第VI層で壁溝と壁の一部を確認した。

〔平面形・規模〕 上部が削平されており、平面形は不明であるが、長径2 m80cm、短径2 m50cmの楕円形と思われる。長軸方向は北西-南東である。

〔壁・床面〕 壁は南東側にわずかに残っており、ほぼ垂直に立ち上がる。残存する壁の高さは1～18cmであった。

〔壁溝〕 ほぼ一周するが、南側で一部途切れていた。幅は5～8cm、深さは1～8cmであった。

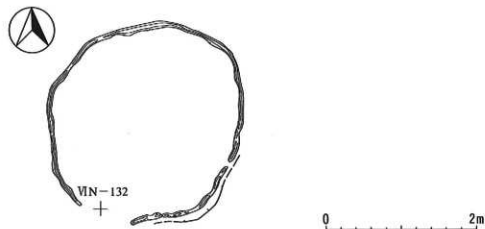
〔柱穴〕 確認できなかった。

〔炉〕 不明である。

〔出土遺物〕 なし。

〔時期〕 検出状況から縄文時代と考えられる。

(木村 真明)



143図 第361号住居跡

第362号住居跡 (144図)

〔位置と確認〕 VI K・L-132・133に位置する。第VI層で壁溝のみを確認した。

〔平面形・規模〕 上部が削平されており、平面形は不明であるが長径 4 m20cm、短径 3 m20cmの楕円形と思われる。長軸方向は南北である。

〔壁・床面〕 確認できなかった。

〔壁溝〕 ほぼ一周するが、南側で一部途切れていた。幅は12~24cm、深さは10~14cmであった。

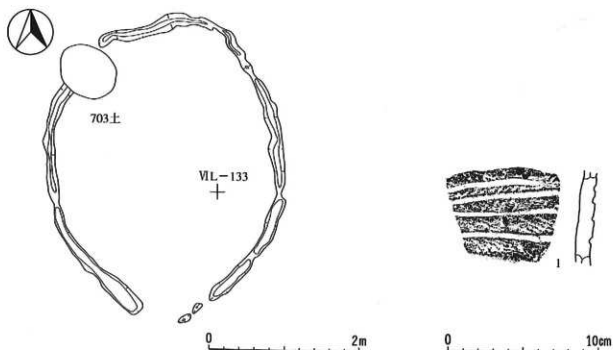
〔柱穴〕 確認できなかった。

〔炉〕 不明である。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群5類土器が出土した。

〔時期〕 壁溝内出土遺物から縄文時代中期中葉と思われる。

(木村 真明)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	362住	堆積土		RL、沈線		ナデ		Ⅲ-5	

144図 第362号住居跡・出土遺物

第364号住居跡 (145図)

〔位置と確認〕 VIF-83に位置する。Ⅲ層中で、炉跡と貼り床を確認した。

〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 壁は確認できなかった。貼り床は、径約1 m20cmの、おおむね円形の範囲に認められた。第V層との判別が困難な部分も多い。

〔柱穴〕 不明である。

〔炉〕 地床炉である。規模は約54cm×42cm、深さ10cmで炭化物を微量に含む。

〔堆積土〕 不明である。

〔出土遺物〕 無し。

〔時期〕 検出状況から縄文時代と考えられる。

(中村 哲也)



145図 第364号住居跡

第365号住居跡・トレンチ跡 (146図)

〔位置と確認〕 VI C・D-84~86に位置する。第Ⅲ層中でしまりのない堆積土を認め、攪乱と考えて堆積土を除去したところ、平行する幅約2mのトレンチ跡2本を確認した。同時に住居跡も確認した。トレンチ跡は、慶応大学の昭和28年調査(清水 1963)のものと思われる。第365号住居跡は、トレンチ設定時に一部が確認され、トレンチを拡張して調査が行われたものであろう。

〔重複〕 トレンチ跡が第242号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 隅丸長方形を呈する。長軸は6m86cm、短軸は推定で5m80cmである。面積は推定34.5㎡である。

〔壁・床面〕 北壁は遺存状況が悪く、検出されなかった。東・西・南の各壁は外傾しながら立ち上がる。第Ⅵ・Ⅶ層を床面とする。一度調査が行われたためもあってか、軟弱であった。

〔柱穴〕 主柱穴は、規模と位置から考えて、 $P_1 \cdot P_1 \cdot P_4 \cdot P_4 \cdot P_4$ 、ないしは $P_1 \cdot P_4 \cdot P_4 \cdot P_4$ の組み合わせが考えられる。 $P_{11} \sim P_{21} \cdot P_{21} \cdot P_{21} \sim P_{41} \cdot P_{41}$ が壁柱穴と考えられる。北壁は確認できなかったため、北西隅の掘り方を基準に推定した。本遺構は住居跡として確認したわけではなく、トレンチ跡として確認したため、北西隅の掘り方が、本住居跡本来の掘り方であるかどうか、明らかではない。 $P_{41} \sim P_{41}$ が壁柱穴となる可能性もある。その場合、掘り方は推定線よりも、これらのピットに近い位置にあることになる。

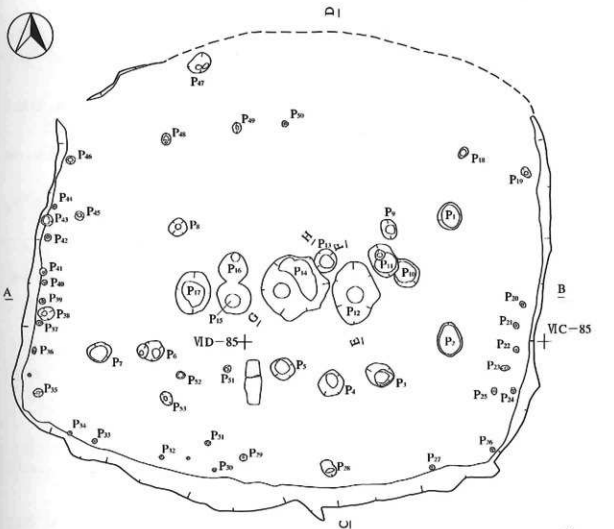
〔炉〕 明確な炉は確認できなかった。位置や形態から、 $P_{11} \cdot P_{11} \cdot P_{11}$ 等が炉である可能性を指摘できる。

〔出土遺物〕 住居跡に伴う遺物は認められなかった。

〔時期〕 不明である。

参照 清水潤三 1963 「青森県青森市三内遺跡」日本考古学年報6 pp.35~36

(中村 哲也)



A

B 13.50m



C

D 13.50m



E

F 12.90m



第365号住居跡 ビット13  
第1層 土赤い黄褐色 H0VR40 浮石混量。  
第2層 黒色土 H0VR41 浮石混量。

G

H 12.90m



第365号住居跡 ビット14  
第1層 黄褐色土 H0VR56 浮石混量。  
第2層 暗褐色土 H0VR57 浮石混量。

0 2m

146图 第365号住居跡

第366号住居跡 (147図)

〔位置と確認〕 VQ-122・123に位置する。第V層精査中に楕円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第367号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 第367号住居跡との重複のため正確な規模は不明だが、推定長軸3 m50cm、短軸2 m90cmほどの楕円形である。長軸方向は北東-南西である。

〔壁・床面〕 外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁16cm、南壁8 cm、北壁28cmである。床面はほぼ平坦で堅緻である。

〔柱穴〕 4個のピットを確認した。深さはP<sub>1</sub>…43cm、P<sub>2</sub>…10cm、P<sub>3</sub>…12cm、P<sub>4</sub>…10cmである。P<sub>1</sub>は床面を若干削り込んでから確認したものである。主柱穴は中軸線上のP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>と思われる。

〔炉〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 2層に分層した。黒褐色土を主体とする。2層はロームが多量に含まれ、人為的な堆積の可能性が高いと考えられる。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群4、6類土器が出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から、縄文時代中期中葉(円筒上層d式期)に近い時期と思われる。

(小笠原 雅行)

第367号住居跡 (148図)

〔位置と確認〕 VQ・R-122・123に位置する。第323号住居跡精査中、楕円形に黒褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕 第323・366号住居跡と重複し、第323号住居跡より古く、第366号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 第323号住居跡との重複のため、平面形は不明である。推定長軸3 m40cm、推定短軸2 m60cmの楕円形と思われる。長軸方向は北西-南東である。

〔壁・床面〕 外傾しながら直線的に立ち上がる。壁高は東壁22cm、南壁9 cm、北壁9 cmである。床面はほぼ平坦である。

〔柱穴〕 南側で2個のピットを確認した。深さはP<sub>1</sub>…37cm、P<sub>2</sub>…28cmである。P<sub>1</sub>は位置、規模から付属施設の可能性もある。主柱穴の配置は不明である。

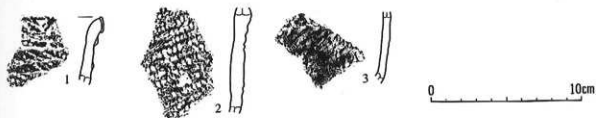
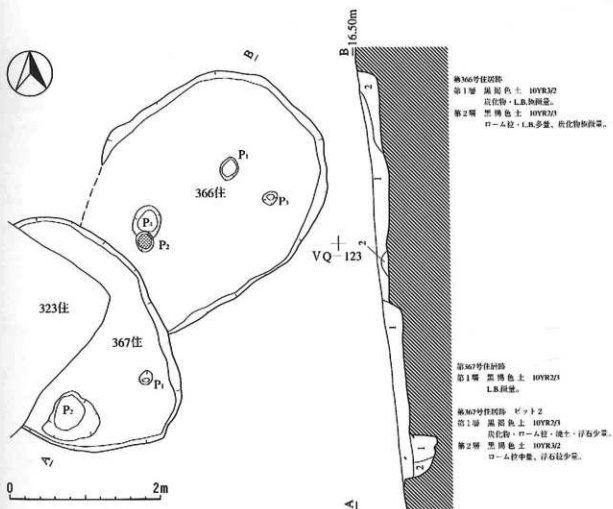
〔炉〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 1層である。黒褐色土を主体とし、層全体にローム粒が微量みられる。自然堆積の可能性が高いと考えられる。

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅲ群4類を主体とする土器が出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から、縄文時代中期中葉(円筒上層d式期)に近い時期と思われる。

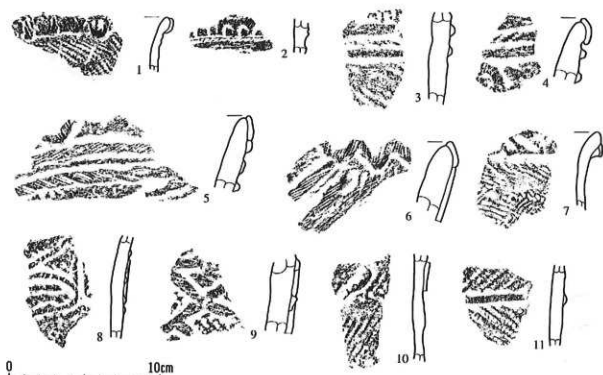
(小笠原 雅行)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	366住	堆積土	RL、貼付 (L牌)			ミガキ		Ⅲ-4	
2	*	*		LR		*		Ⅲ-6	
3	*	*		LR?		*		*	

147図 第366号・367号住居跡出土遺物





番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	367住ビット	堆積土	貼付	RL		ミガキ		Ⅲ-4・5	
2	367住	*	LR押			*		Ⅲ-1	
3	*	*	貼付、刺突	RL? 貼付		*		Ⅲ-3	
4	*	*	*(L押)			*		Ⅲ-4	5と同一個体
5	*	*	*(*)			*		*	
6	*	*	*(*)、RL、貼付			*		*	
7	*	*	貼付	結束第一様 (LR、RL)		*		Ⅲ-4・5	
8	*	*		*(*)、貼付 (別み)		*		Ⅲ-4	
9	*	*		RL? 貼付		*		*	
10	*	*		結束第一様、貼付		*		*	
11	*	*		*, *		*		*	

148図 第367号住居跡出土遺物

第368号住居跡 (149図~150図)

〔位置と確認〕 VI K-111に位置する。第Ⅲ層精査中に黒褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 第9707・9709・13012号ビット、第119号溝跡と重複し、本住居跡が古い。

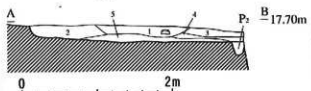
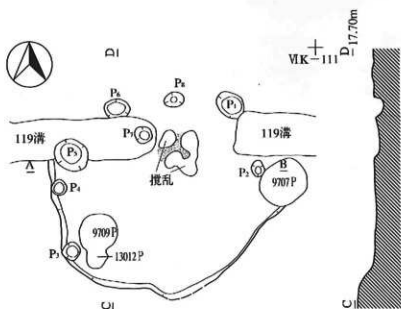
〔平面形・規模〕 不明である。

〔壁・床面〕 各壁ともに直線的に外傾しながら立ち上がる。壁高は東壁8cm、西壁15cm、南壁20cmであり、床面はほぼ平坦である。

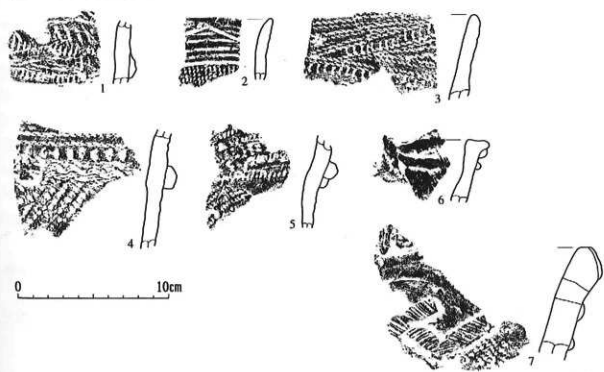
〔柱穴〕 床面上に8個確認された。それぞれのビットの深さは、P<sub>1</sub>…17cm、P<sub>2</sub>…16cm、P<sub>3</sub>…22cm、P<sub>4</sub>…9cm、P<sub>5</sub>…40cm、P<sub>6</sub>…13cm、P<sub>7</sub>…11cm、P<sub>8</sub>…17cmである。

〔炉〕 中央から地床炉を検出したが、攪乱のため、規模は不明である。

〔堆積土〕 5層に分層した。自然堆積と考えられる。

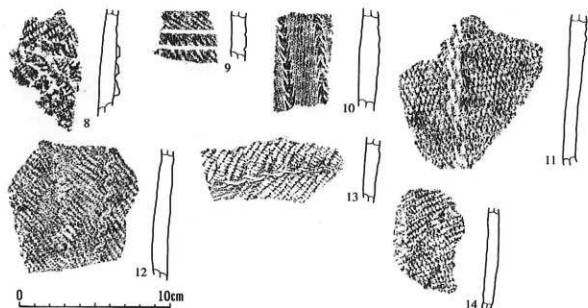


- 第368号住居跡
- 第1層 黑褐色土 HVR30 炭化物中量、L.B.少量、炭上混量。
  - 第2層 仁土質褐色土 HVR40 炭化物・碎土混量、浮石混中量。
  - 第3層 仁土質褐色土 HVR30 炭化物・浮石混中量。
  - 第4層 仁土質褐色土 HVR50 炭化物・浮石混中量、L.B.中量。
  - 第5層 仁土質褐色土 HVR40 炭化物混量、浮石混中量。



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
1	368住	埋積土		條帯(上下(L:R並))				Ⅱ-3	
2	*	*	単筋1押	L単筋1		ミ方平		Ⅱ-5-1	
3	*	*	LR押、割突			*		Ⅱ-5-2	
4	*	*	*	並状貼付、R幅面、LR		*		*	
5	*	*	R単筋1押、並状貼付	R単筋1押、LR		*		*	
6	*	*	貼付			*		Ⅲ-4	
7	*	*	(L押)	LR、貼付(L押)		*		*	

149図 第368号住居跡・出土遺物(1)



番号	出土地点	出土層位	外 面 文 様			内面調整	底面	分類	備 考
			口縁部	胴部上半	胴部下半				
8	368住	堆積土		拵突第一線、粘付(丸摩)		ミガキ		Ⅲ-4	
9	*	*		RI、沈線		*		Ⅲ-5	
10	*	*		L半群1A		*		Ⅱ-6	
11	*	*		多軸線、R結団		*		*	
12	*	*		LR、L結団		*		*	
13	*	*		*、結団		*		Ⅲ-6	
14	*	*		LR		*		*	

150図 第368号住居跡出土遺物(2)

〔出土遺物〕 堆積土から第Ⅱ群3、5類、第Ⅲ群4、5、6類土器が出土した。

〔時期〕 堆積土出土遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。

(斎藤 岳)

### 第369号住居跡 (151図～161図)

〔位置と確認〕 VI K～M-111・112、VI L・M-113に位置する。第Ⅲ層精査中に床面の一部露出と黒褐色土の落ち込みにより確認した。

〔重複〕 第537号住居跡、第683号土坑、第9734・12824・12825号ピットと重複し、第537号住居跡、第9734・12825号ピットより新しく、第683号土坑、第12824号ピットより古い。

〔平面形・規模〕 平面形は北東-南西に長軸のある楕円形と考えられる。規模は長軸が8m以上、短軸が5m20cm以上と考えられる。

〔壁・床面〕 壁は残存しない。床面は若干凹凸があり、北側の炉1の周辺には貼り床がみられる。

〔壁溝〕 南側のみ巡る。幅15～29cm、深さ7～10cmである。

〔柱穴〕 床面上及び壁溝から36個確認された。それぞれのピットの深さは、P<sub>1</sub>…48cm、P<sub>2</sub>…54cm、P<sub>3</sub>…60cm、P<sub>4</sub>…28cm、P<sub>5</sub>…36cm、P<sub>6</sub>…38cm、P<sub>7</sub>…63cm、P<sub>8</sub>…85cm、P<sub>9</sub>…72cm、P<sub>10</sub>…35cm、P<sub>11</sub>…65cm、P<sub>12</sub>…65cm、P<sub>13</sub>…60cm、P<sub>14</sub>…42cm、P<sub>15</sub>…25cm、P<sub>16</sub>…55cm、P<sub>17</sub>…16cm、P<sub>18</sub>…67cm、P<sub>19</sub>…77cm、P<sub>20</sub>…73cm、P<sub>21</sub>…38cm、P<sub>22</sub>…30cm、P<sub>23</sub>…51cm、P<sub>24</sub>…27cm、P<sub>25</sub>…38cm、P<sub>26</sub>…37cm、P<sub>27</sub>…32cm、P<sub>28</sub>…58cm、P<sub>29</sub>…14cm、P<sub>30</sub>…28cm、P<sub>31</sub>…17cm、P<sub>32</sub>…24cm、P<sub>33</sub>…24cm、P<sub>34</sub>…30cm、P<sub>35</sub>…